

鞍手町
子育てに関するアンケート
報告書

令和7年3月

～目次～

I. 調査の概要.....	2
II. 調査内容.....	4
III. 調査結果.....	6
1. 住まいの地域について.....	6
(1) 住まいの地域.....	6
2. 家庭の状況について.....	6
(1) 子どもの年齢及び学年.....	6
(2) 子ども（きょうだい）の人数.....	7
(3) 末子の年齢.....	7
(4) 調査票の回答者.....	8
(5) 回答者の配偶関係.....	8
(6) 子育てを主にしている人.....	8
3. 子どもの育ちをめぐる環境について.....	9
(1) 子育てに日常的に関わっている人・機関.....	9
(2) 子育てに影響する環境.....	9
(3) 子どもをみてもらえる親族・知人.....	10
(4) 子どもをみてもらっている状況.....	11
(5) 子育ての相談ができる人や場所の有無.....	11
(6) 子育てについての相談先.....	12
4. 保護者の就労状況について.....	13
(1) 就労状況.....	13
(2) 就労日数と就労時間.....	15
(3) 家を出る時間と帰宅時間.....	17
(4) フルタイムへの転換意向.....	19
(5) 母親の就労意向.....	20
(6) 父親の就労意向.....	22
5. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について.....	23
(1) 平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無.....	23
(2) 平日に現在利用している事業と利用を希望する事業.....	23
(3) 利用日数.....	24
(4) 利用時間.....	24
(5) 利用時間帯.....	25
(6) 幼稚園と他の事業を併用している場合に特に幼稚園の利用を強く希望するか.....	25
6. 地域の子育て支援事業の利用状況について.....	26
(1) 地域子育て支援拠点事業（ぴよぴよ広場）の利用.....	26
(2) 今後の地域子育て支援拠点事業の利用意向.....	28

(3) 認知している・利用したことがある・今後利用したい地域子育て支援事業.....	29
7. 土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望について.....	32
(1) 土曜日、日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用意向.....	32
(2) 長期休暇中の教育・保育事業の利用（幼稚園利用者）.....	34
8. 病気の際の対応について.....	36
(1) 子どもが病気やケガで教育・保育事業や小学校などを休まなければならなかったことの有無.....	36
(2) 子どもが病気になった時の対処方法.....	36
(3) 病児・病後児保育施設の利用について.....	38
(4) 父母のどちらかが休んで見る意向.....	40
9. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について.....	42
(1) 不定期の教育・保育事業の利用状況について.....	42
(2) 不定期的な一時預かり等の利用意向について.....	44
(3) 宿泊を伴う一時預かり等の利用について.....	47
10. 放課後の過ごし方について.....	50
(1) 就学前児童（5歳以上）の意向.....	50
(2) 小学生児童の利用状況と意向.....	52
11. 育児休業や短時間勤務制度などの職場の両立支援制度について.....	55
(1) 育児休業の取得について.....	55
(2) 育児休業からの職場復帰.....	56
(3) 短時間勤務制度の利用について.....	60
(4) 子どもが1歳まで育児休業を取得する意向.....	61
12. こども誰でも通園制度について.....	62
(1) 乳幼児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）の利用について.....	62
13. 子育て全般について.....	64
(1) 子育ての楽しさ.....	64
(2) 子育てに関する悩み.....	65
(3) 妊娠・出産・育児に対応する相談窓口への相談内容.....	66
(4) 「仕事」と「家庭生活」のバランス.....	66
(5) 子どもを守る安全対策.....	69
(6) 鞍手町の子育てのしやすさ.....	73
(7) 子育て環境や支援の満足度.....	73
(8) 子育てに関して町に期待すること.....	74
IV. 自由回答.....	76

I. 調査の概要

I. 調査の概要

1. 調査の目的

子育て家庭の実態や子育てニーズ、子育てや少子化に関する意識等を把握することにより、今後の子育て支援施策の充実に生かすとともに「(仮称) 鞍手町こども計画」策定の基礎資料とすることを目的として、子ども・子育て支援に関するアンケート調査を実施しました。

2. 調査対象

- ①就学前児童保護者 250 件
- ②小学生児童保護者 250 件

3. 調査方法

- ①就学前児童保護者 郵送による配布・WEB回答
- ②小学生児童保護者 郵送による配布・WEB回答

4. 配布及び回収数

	配布数	有効回収数	回収率
① 就学前児童保護者	250 件	105 件	42.0%
② 小学生児童保護者	250 件	105 件	42.0%
計	500 件	210 件	42.0%

5. 調査期間

令和6年11月6日(水) ~ 12月1日(日)

6. 集計分析上の注意事項

- ・調査内容及び調査結果において、①就学前児童保護者は「就学前児童」、②小学生児童保護者は「小学生児童」と表記している。
- ・集計は小数点第2位以下を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- ・複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶことができる方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対してのそれぞれの比率を示している。そのため、合計が100%を超える場合がある。
- ・図表中の「N」は各項目の集計対象者総数(回答者限定の設問の場合は、当該限定条件に該当する人)を示している。
- ・表、グラフに示す選択肢はスペースの関係で文言を簡略して表記している場合がある。

Ⅱ. 調査内容

II. 調査内容

■鞍手町子ども・子育てに関するニーズ調査内容

項目	設問内容	就学前	小学生
1. 住まいの地域について	(1) 住まいの地域	○	○
2. 家庭の状況について	(1) 子どもの年齢及び学年 (2) 子ども（きょうだい）の人数 (3) 末子の年齢 (4) 調査票の回答者 (5) 回答者の配偶関係 (6) 子育てを主にしている人	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
3. 子どもの育ちをめぐる環境について	(1) 子育てに日常的に関わっている人・機関 (2) 子育てに影響する環境 (3) 子どもをみてもらえる親族・知人 (4) 子どもをみてもらっている状況 (5) 子育ての相談ができる人や場所の有無 (6) 子育てについての相談先	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
4. 保護者の就労状況について	(1) 就労状況 (2) 就労日数と就労時間 (3) 家を出る時間と帰宅時間 (4) フルタイムへの転換希望 (5) 母親の就労希望 (6) 父親の就労希望	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
5. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について	(1) 平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無 (2) 平日に現在利用している事業と利用を希望する事業 (3) 利用日数 (4) 利用時間 (5) 利用時間帯 (6) 幼稚園と他の事業を併用している場合に特に幼稚園の利用を強く希望するか	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
6. 地域の子育て支援事業の利用状況について	(1) 地域子育て支援拠点事業（ぴよぴよ広場）の利用 (2) 今後の地域子育て支援拠点事業の利用意向 (3) 認知している・利用したことがある・今後利用したい地域子育て支援事業	○ ○ ○	○ ○ ○
7. 土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望について	(1) 土曜日、日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用意向 (2) 長期休暇中の教育・保育事業の利用（幼稚園利用者）	○ ○	○ ○
8. 病気の際の対応について	(1) 子どもが病気やケガで教育・保育事業や小学校などを休まなければならなかったことの有無 (2) 子どもが病気になった時の対処方法 (3) 病児・病後児保育施設の利用について (4) 両親のどちらかが休んで見る意向	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
9. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について	(1) 不定期の教育・保育事業の利用状況について (2) 不定期な一時預かり等の利用意向について (3) 宿泊を伴う一時預かり等の利用について	○ ○ ○	○ ○ ○
10. 放課後の過ごし方について	(1) 就学前児童（5歳以上）の意向 (2) 小学生児童の利用状況と意向	○ ○	○ ○
11. 育児休業や短時間勤務制度などの職場の両立支援制度について	(1) 育児休業の取得について (2) 育児休業からの職場復帰 (3) 短時間勤務制度の利用について (4) 子どもが1歳まで育児休業を取得する意向	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
12. こども誰でも通園制度について	(1) 乳幼児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）の利用について	○	○
13. 子育て全般について	(1) 子育ての楽しさ (2) 子育てに関する悩み (3) 妊娠・出産・育児に対応する相談窓口への相談内容 (4) 「仕事」と「家庭生活」のバランス (5) 子どもを守る安全対策 (6) 鞍手町の子育てのしやすさ (7) 子育て環境や支援の満足度 (8) 子育てに関して町に期待すること	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

Ⅲ. 調査結果

Ⅲ. 調査結果

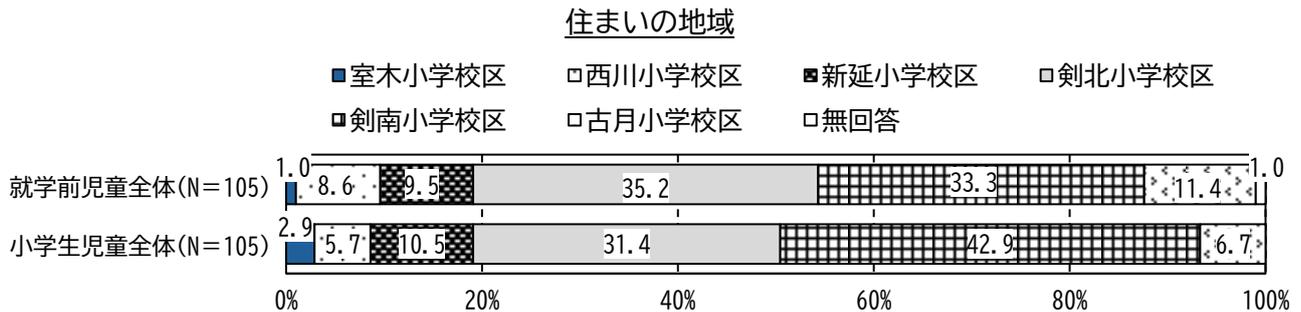
1. 住まいの地域について

(1) 住まいの地域

【就学前児童・小学生児童】

調査の回答があった保護者の住まいの地域（小学校区）について、就学前児童では「剣北小学校区」（35.2%）が最も多く、次いで、「剣南小学校区」（33.3%）の順となっています。

小学生児童では「剣南小学校区」（42.9%）が最も多く、次いで、「剣北小学校区」（31.4%）の順となっています。



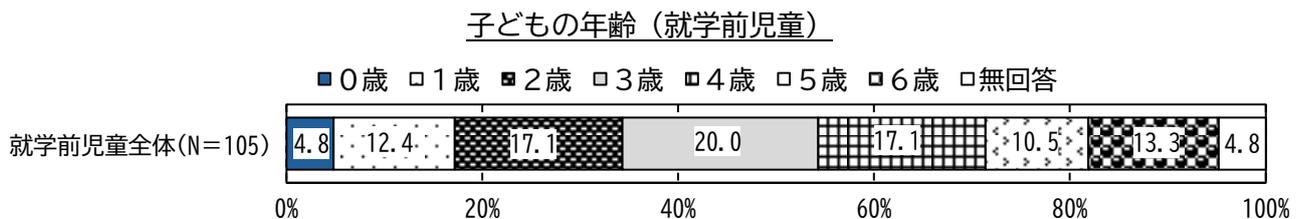
2. 家庭の状況について

(1) 子どもの年齢及び学年

①子どもの年齢

【就学前児童】

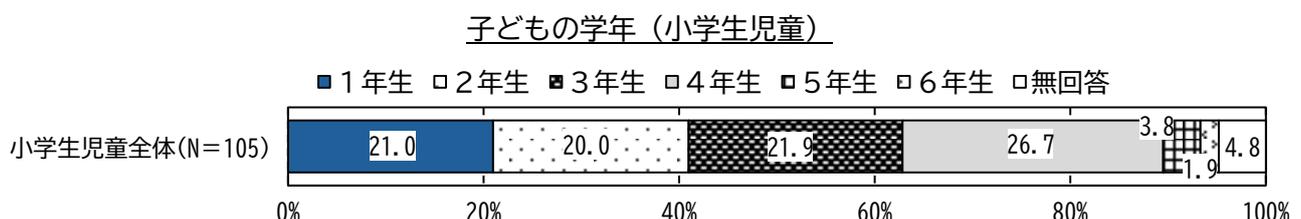
就学前児童の年齢は「3歳」（20.0%）が最も多く、次いで、「2歳」と「4歳」（ともに17.1%）の順となっています。



②子どもの学年

【小学生児童】

小学生児童の学年は「4年生」（26.7%）が最も多く、次いで、「3年生」（21.9%）、「1年生」（21.0%）の順となっています。

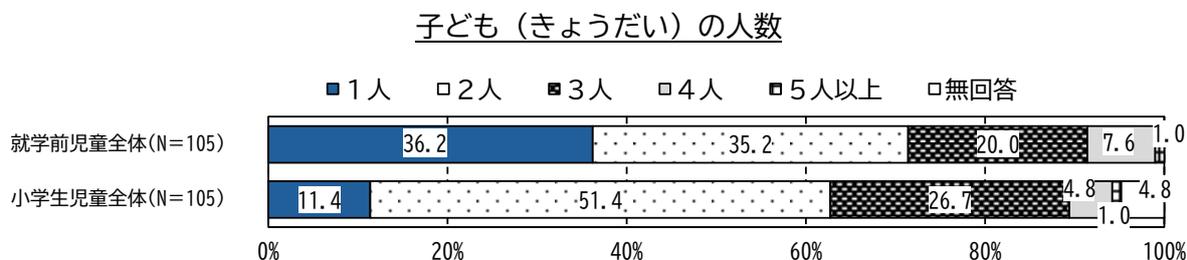


(2) 子ども（きょうだい）の人数

【就学前児童・小学生児童】

子ども（きょうだい）の人数は、就学前児童では「1人」（36.2%）が最も多く、次いで、「2人」（35.2%）、「3人」（20.0%）の順となっています。

小学生児童では「2人」（51.4%）が最も多く、次いで、「3人」（26.7%）、「1人」（11.4%）の順となっています。

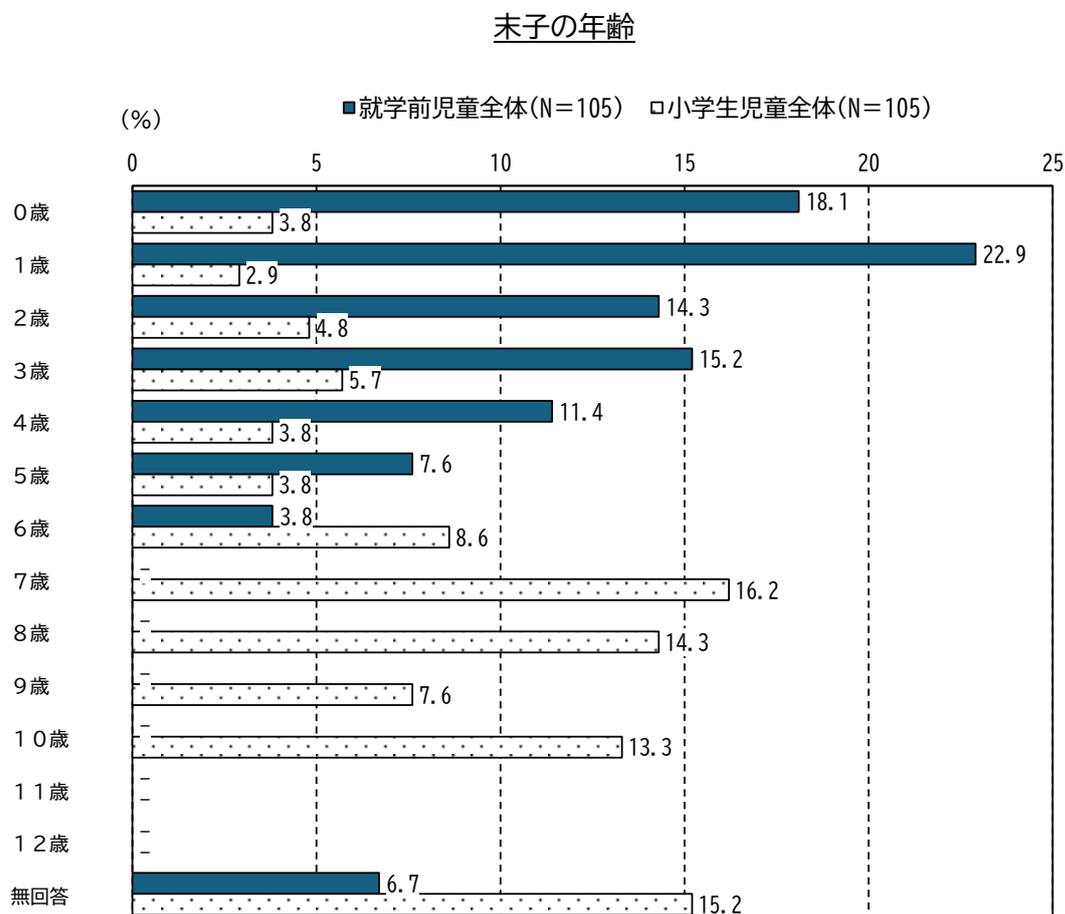


(3) 末子の年齢

【就学前児童・小学生児童】

末子の年齢は、就学前児童では「1歳」（22.9%）が最も多く、次いで、「0歳」（18.1%）、「3歳」（15.2%）の順となっています。

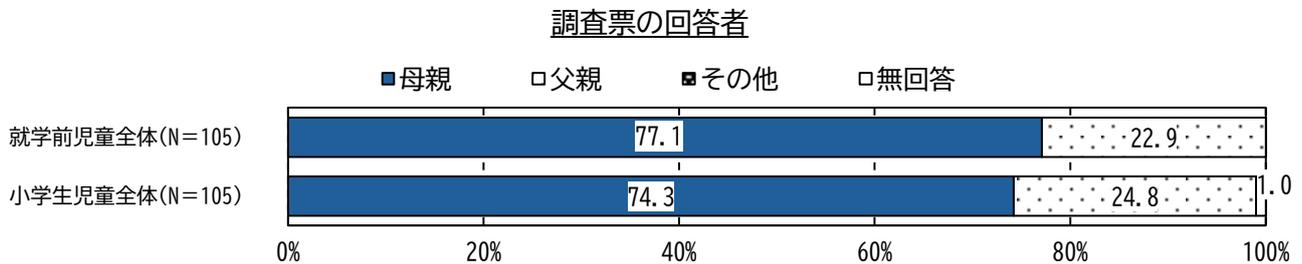
小学生児童では「7歳」（16.2%）が最も多く、次いで、「8歳」（14.3%）、「10歳」（13.3%）の順となっています。



(4) 調査票の回答者

【就学前児童・小学生児童】

調査票の回答者は、「母親」(就学前児童 77.1%、小学生児童 74.3%) が7割以上を占めており、次いで、「父親」(就学前児童 22.9%、小学生児童 24.8%) の順となっています。

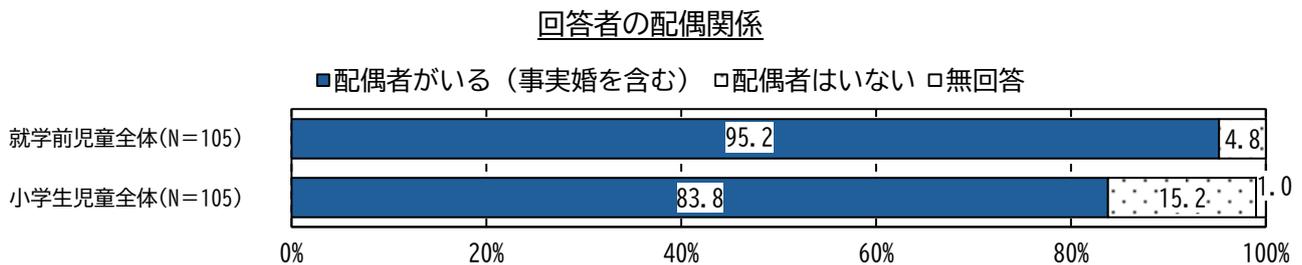


(5) 回答者の配偶関係

【就学前児童・小学生児童】

回答者の配偶関係について、「配偶者がいる」は就学前児童で 95.2%、小学生児童で 83.8% となっています。

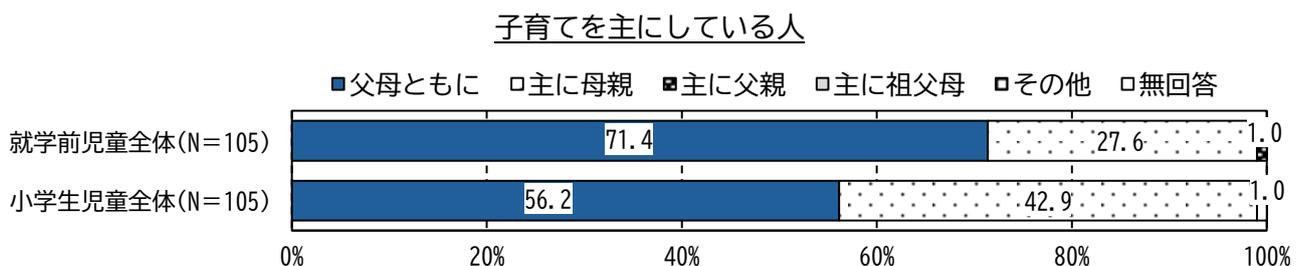
また、「配偶者はいない」割合は小学生児童 (15.2%) の方が就学前児童 (4.8%) より多く、小学生児童の1割以上がひとり親家庭であると推察されます。



(6) 子育てを主にしている人

【就学前児童・小学生児童】

子育て(教育を含む)を主に行っているのは、「父母ともに」(就学前児童 71.4%、小学生児童 56.2%) が最も多くなっており、特に就学前児童では7割以上を占めています。次いで、「主に母親」(就学前児童 27.6%、小学生児童 42.9%) の順となっています。



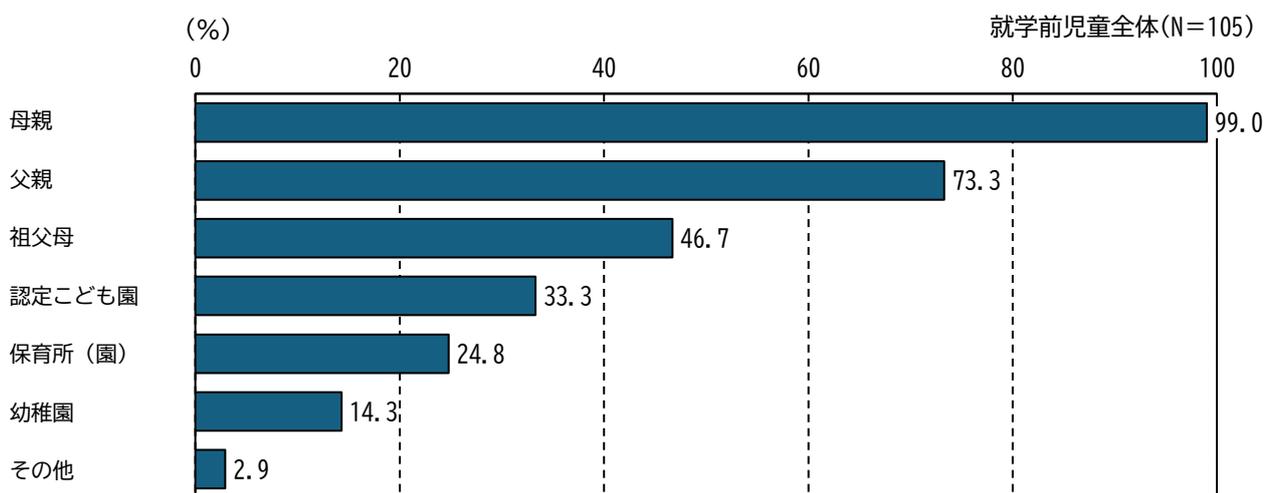
3. 子どもの育ちをめぐる環境について

(1) 子育てに日常的に関わっている人・機関

【就学前児童】

子育て（教育を含む）に日常的に関わっている人・機関について、「母親」（99.0%）が最も多く、次いで、「父親」（73.3%）、「祖父母」（46.7%）の順となっています。

子育てに日常的に関わっている人・機関（複数回答）

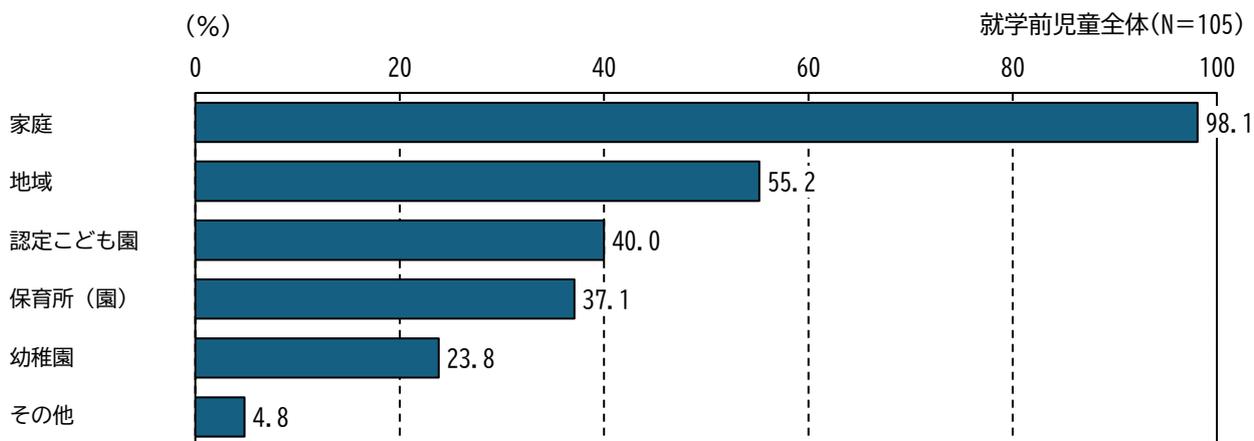


(2) 子育てに影響する環境

【就学前児童】

子育て（教育を含む）に影響すると思う環境について、「家庭」（98.1%）が10割近くを占めています。次いで「地域」（55.2%）、「認定こども園」（40.0%）の順となっています。

子育てに影響する環境（複数回答）



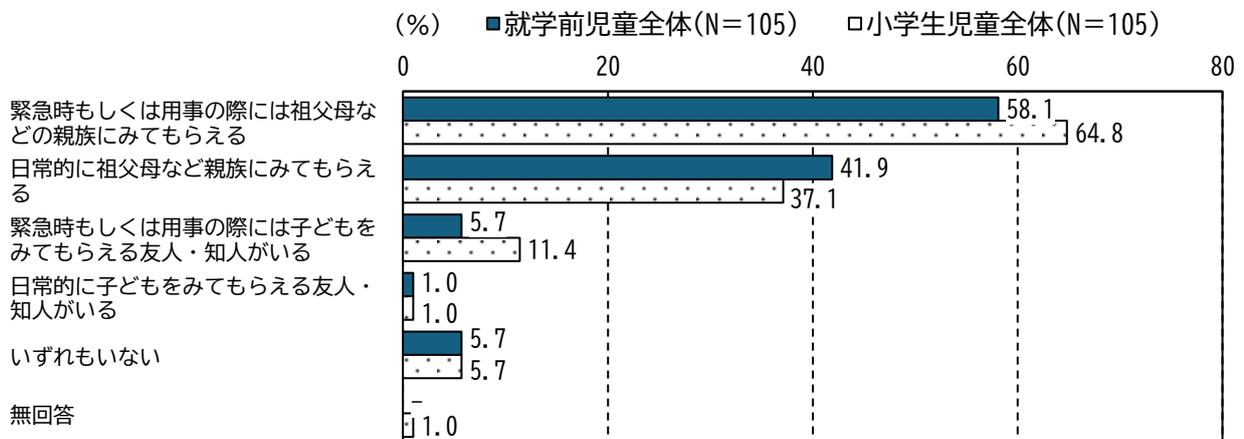
(3) 子どもをみてもらえる親族・知人

【就学前児童・小学生児童】

子どもをみてもらえる親族・知人について、「緊急時もしくは用事の際には祖父母などの親族にみてもらえる」（就学前児童 58.1%、小学生児童 64.8%）が最も多く、次いで、「日常的に祖父母など親族にみてもらえる」（就学前児童 41.9%、小学生児童 37.1%）、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」（就学前児童 5.7%、小学生児童 11.4%）の順となっています。

緊急時には祖父母などの親族にみてもらえる環境にある人が6割前後、日常的に祖父母などの親族にみてもらえる環境にある人が4割前後いる一方で、子どもをみてもらえる友人や知人は少なくなっています。

子どもをみてもらえる親族・知人（複数回答）



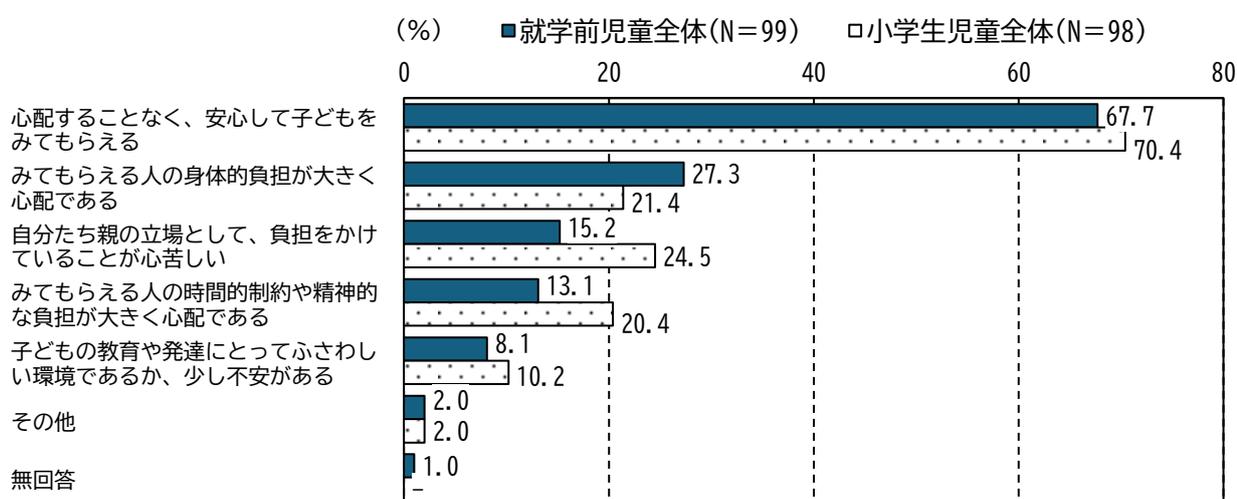
(4) 子どもをみてもらっている状況

【就学前児童・小学生児童】

親族や知人に子どもをみてもらっている状況について、「心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が就学前児童で 67.7%、小学生児童で 70.4%と多くの方が安心してみてもらえる状況にあります。

一方、就学前児童では「みてもらえる人の身体的負担が大きく心配である」(27.3%)、小学生児童では「みてもらえる人の身体的負担が大きく心配である」(21.4%)、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(24.5%)、「みてもらえる人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」(20.4%) が多くなっています。

子どもをみてもらっている状況 (複数回答)

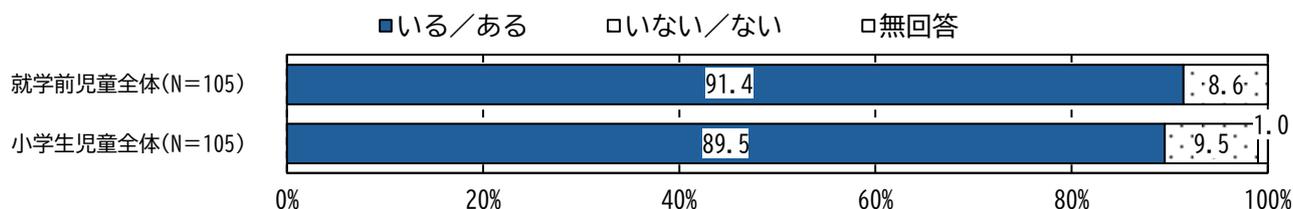


(5) 子育ての相談ができる人や場所の有無

【就学前児童・小学生児童】

気軽に子育ての相談ができる人や場所の有無について、「いる／ある」(就学前児童 91.4%、小学生児童 89.5%) が約9割を占めています。

子育ての相談ができる人や場所の有無



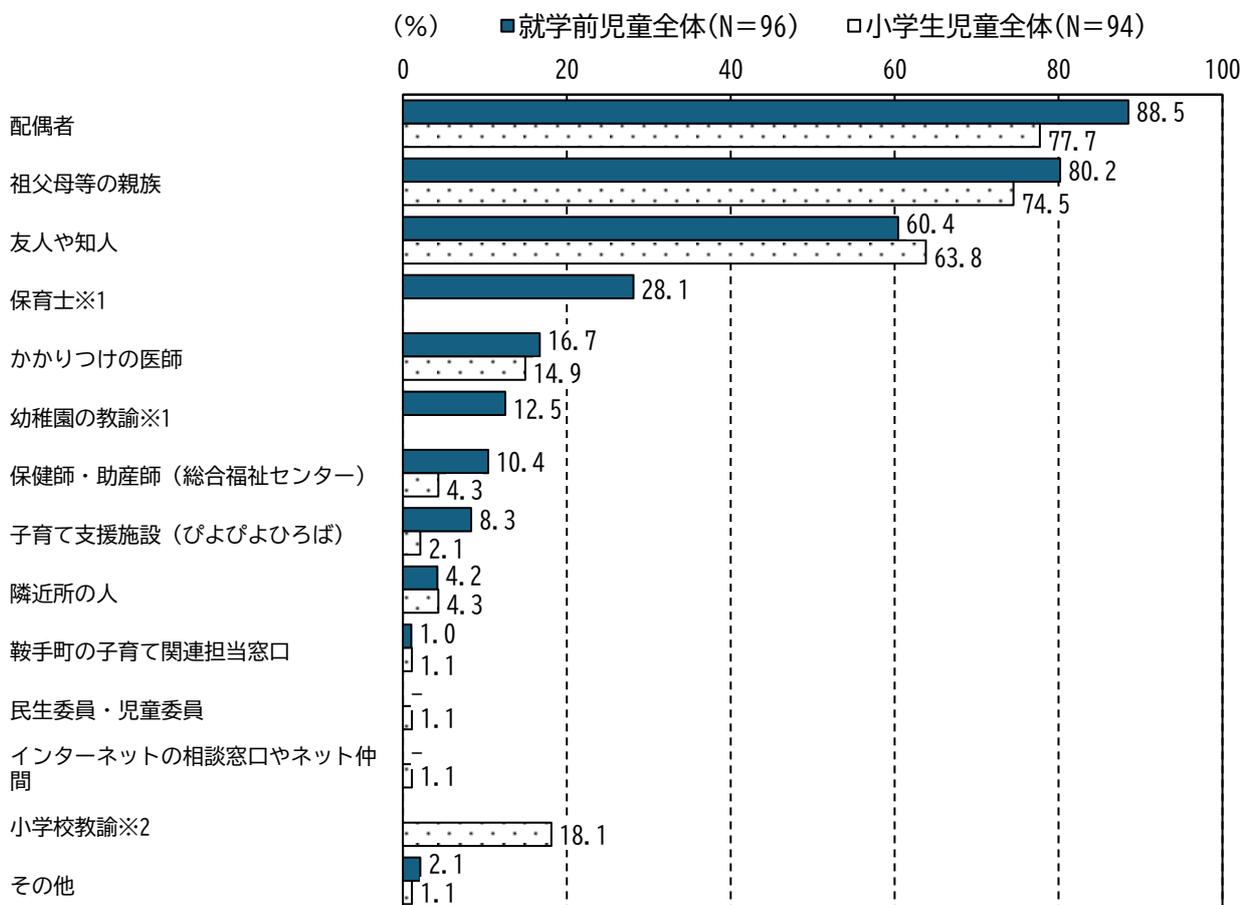
(6) 子育てについての相談先

【就学前児童・小学生児童】

子育ての相談ができる人や場所について、「配偶者」(就学前児童 88.5%、小学生児童 77.7%)が最も多く、次いで、「祖父母等の親族」(就学前児童 80.2%、小学生児童 74.5%)、「友人や知人」(就学前児童 60.4%、小学生児童 63.8%)の順となっており、身近な人を主な相談相手としていることがうかがえます。

一方、「保健師・助産師(総合福祉センター)」、「子育て支援施設(ぴよぴよひろば)」、「鞍手町の子育て関連担当窓口」、「民生委員・児童委員」など公的な機関等に相談する人は少なく、子育てに関する専門的な相談窓口を気軽に利用できる環境づくりが必要と考えられます。

子育てについての相談先(複数回答)



※1就学前児童のみの項目
 ※2小学生児童のみの項目

4. 保護者の就労状況について

(1) 就労状況

【就学前児童・小学生児童】

①母親の就労状況

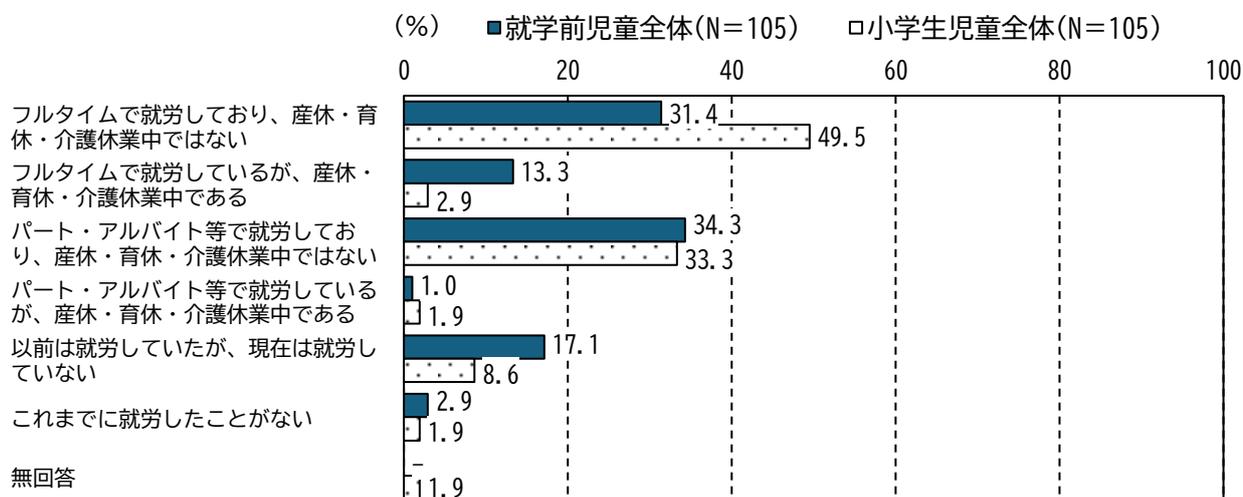
母親の就労状況について、就学前児童では「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(34.3%)が最も多く、次いで「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(31.4%)、「以前は就労していたが、現在は就労していない」(17.1%)の順となっています。

小学生児童では「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(49.5%)が最も多く、次いで「パート・アルバイトなどで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(33.3%)、「以前は就労していたが、現在は就労していない」(8.6%)の順となっています。

『フルタイムで就労している（産休・育休・介護休業中含む）』割合は、就学前児童で44.7%、小学生児童で52.4%、『パート・アルバイトなどで就労している（産休・育休・介護休業中含む）』割合は、就学前児童で35.3%、小学生児童で35.2%となっています。これらを合わせた『就労している』割合は、就学前児童で80.0%、小学生児童で87.6%となっており、就学前児童の母親より小学生児童の母親の方が多く就労しています。

『産休・育休・介護休業中』の割合は、就学前児童では14.3%、小学生児童では4.8%となっています。

母親の就労状況

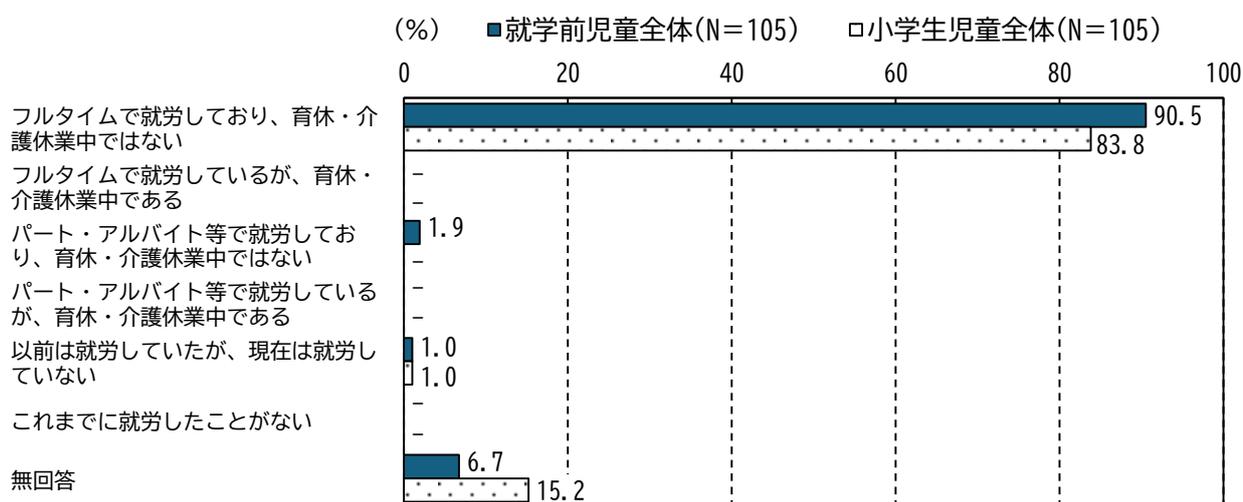


②父親の就労状況

父親の就労状況については、「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」（就学前児童 90.5%、小学生児童 83.8%）が8割以上を占めています。

『育休・介護休業中（フルタイム、パート・アルバイト等）』という回答は、就学前児童、小学生児童ともにありませんでした。

父親の就労状況



(2) 就労日数と就労時間

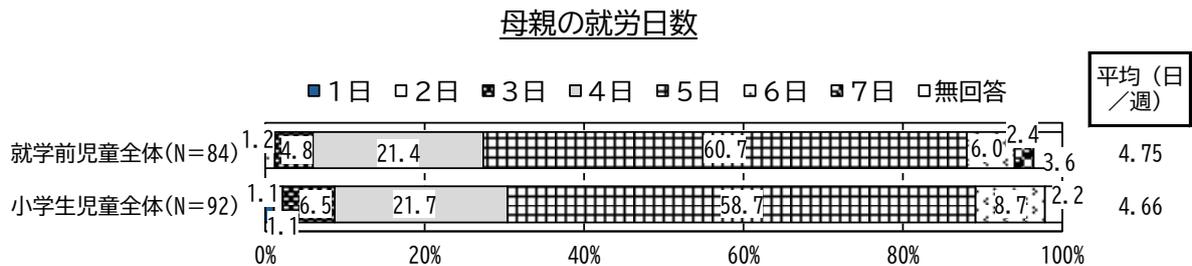
【就学前児童・小学生児童】

①母親の就労日数

就労している母親の1週あたりの就労日数は、「5日」(就学前児童60.7%、小学生児童58.7%)が最も多く、次いで、「4日」(就学前児童21.4%、小学生児童21.7%)の順となっています。

『5日以上』(就学前児童69.1%、小学生児童67.4%)の割合が7割弱を占めています。

また、1週あたりの平均就労日数は就学前児童で4.75日、小学生児童で4.66日となっています。



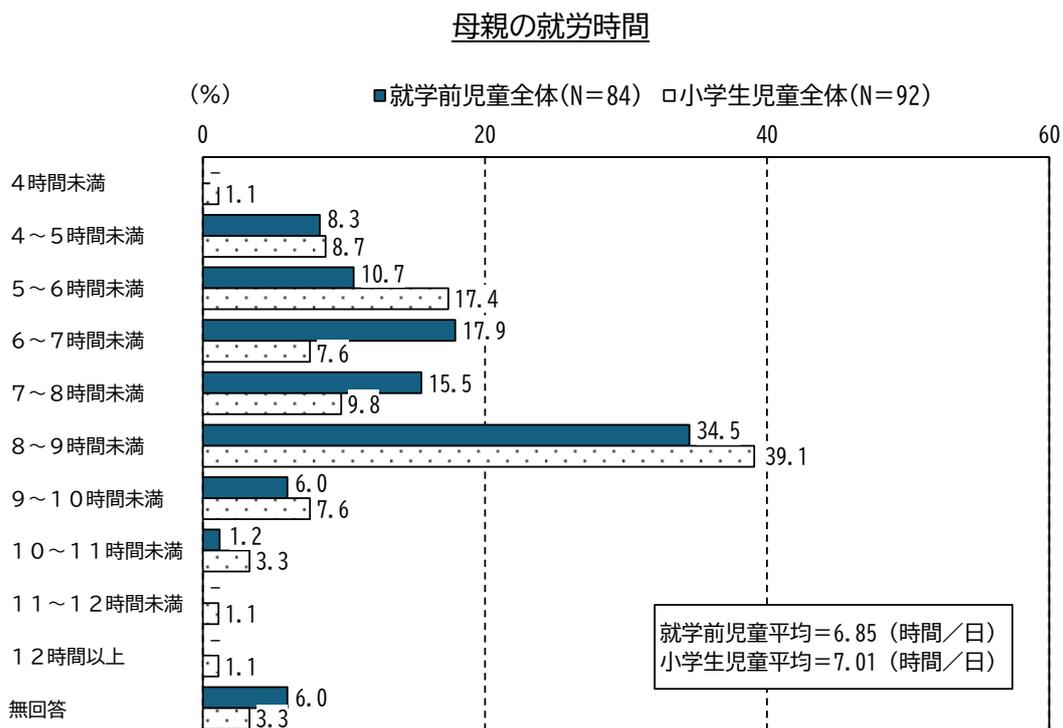
②母親の就労時間

母親の1日あたりの就労時間は、就学前児童では「8～9時間未満」(34.5%)が最も多く、次いで、就学前児童では「6～7時間未満」(17.9%)、「7～8時間未満」(15.5%)の順となっています。

小学生児童では「8～9時間未満」(39.1%)が最も多く、次いで、「5～6時間未満」(17.4%)、「7～8時間未満」(9.8%)の順となっています。

『8時間以上』は就学前児童で41.7%、小学生児童で52.2%となっています。

また、1日あたりの平均就労時間は就学前児童で6.85時間、小学生児童で7.01時間(0.1÷6分間)となっています。



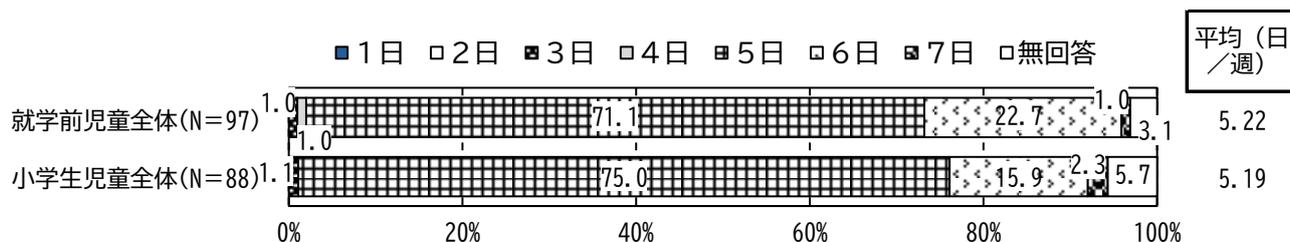
③父親の就労日数

就労している父親の1週あたりの就労日数は、「5日」（就学前児童71.1%、小学生児童75.0%）が最も多く、次いで、「6日」（就学前児童22.7%、小学生児童15.9%）の順となっています。

『5日以上』（就学前児童94.8%、小学生児童93.2%）の割合が9割以上を占めています。

また、1週あたりの平均就労日数は就学前児童で5.22日、小学生児童で5.19日となっています。

父親の就労日数



④父親の就労時間

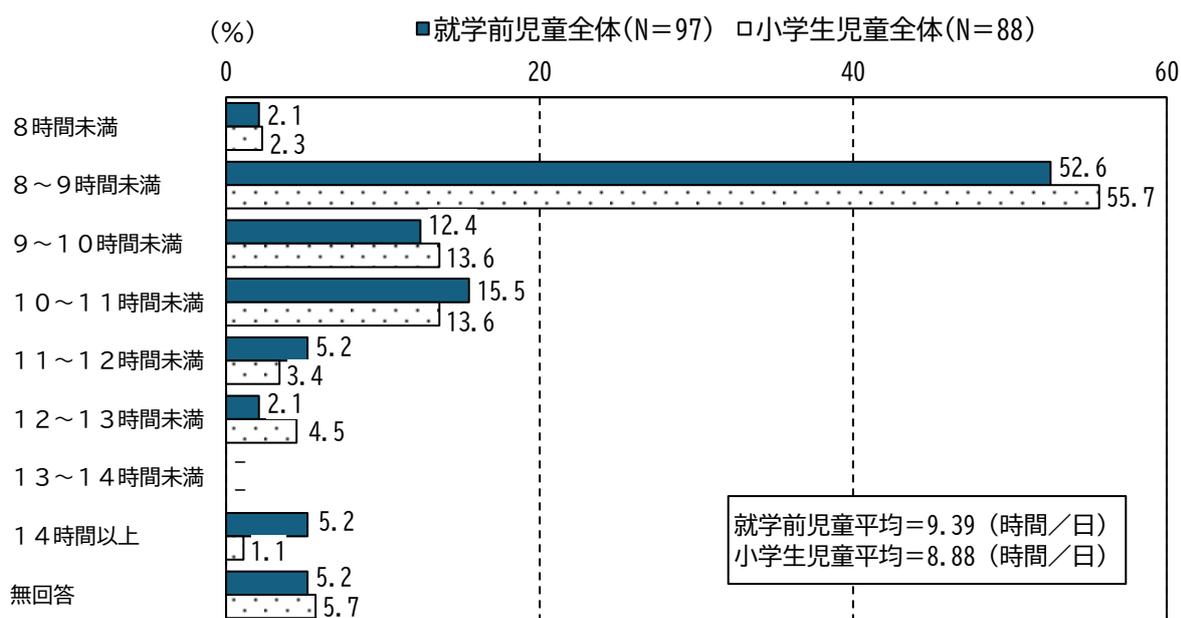
1日あたりの就労時間は、就学前児童では「8～9時間未満」（52.6%）が最も多く、次いで、「10～11時間未満」（15.5%）、「9～10時間未満」（12.4%）の順となっています。

小学生児童では「8～9時間未満」（55.7%）が最も多く、次いで、「9～10時間未満」と「10～11時間未満」（ともに13.6%）の順となっています。

『8時間以上』（就学前児童93.0%、小学生児童91.9%）が9割以上を占めています。

1日当たりの平均就労時間は就学前児童で9.39時間、小学生児童で8.88時間（0.1≒6分間）となっています。

父親の就労時間

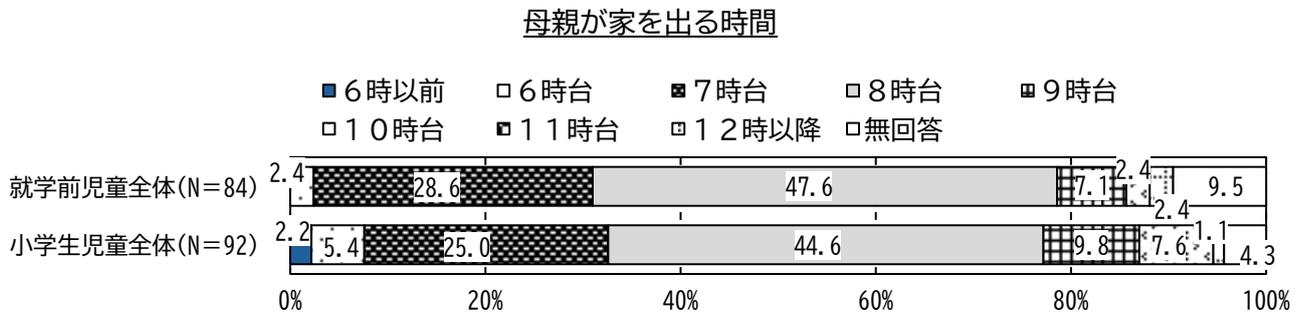


(3) 家を出る時間と帰宅時間

【就学前児童・小学生児童】

①母親が家を出る時間

就労している母親が家を出る時間は「8時台」（就学前児童 47.6%、小学生児童 44.6%）が最も多く、次いで「7時台」（就学前児童 28.6%、小学生児童 25.0%）、「9時台」（就学前児童 7.1%、小学生児童 9.8%）の順となっています。

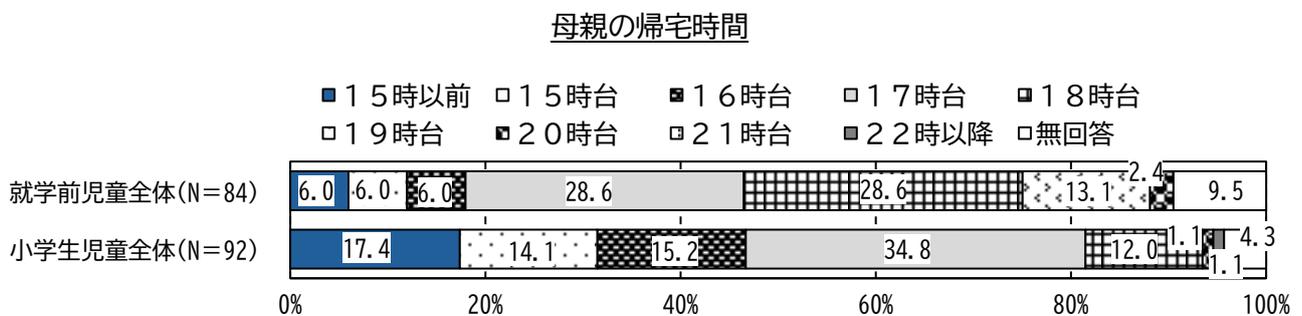


②母親の帰宅時間

就労している母親の帰宅時間は、就学前児童では「17時台」と「18時台」（ともに 28.6%）が最も多く、次いで、「19時台」（13.1%）の順となっています。

小学生児童では「17時台」（34.8%）が最も多く、次いで、「15時以前」（17.4%）、「16時台」（15.2%）の順となっています。

また、『19時以降』は就学前児童では 15.5%、小学生児童では 2.2%となっています。

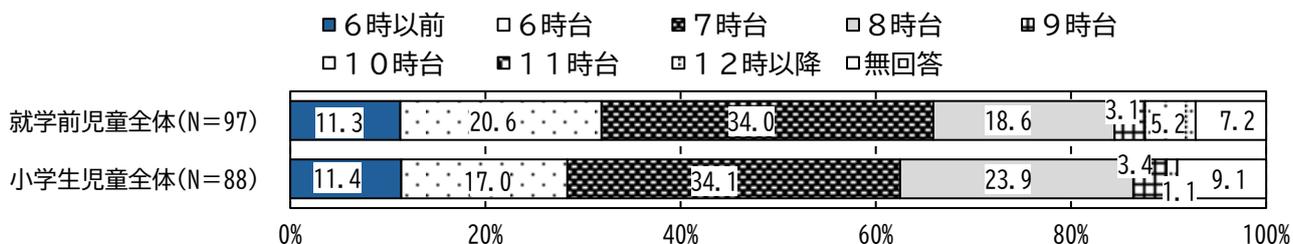


③父親が家を出る時間

就労している父親が家を出る時間は、就学前児童では「7時台」(34.0%)が最も多く、次いで、「6時台」(20.6%)、「8時台」(18.6%)の順となっています。

小学生児童では「7時台」(34.1%)が最も多く、「8時台」(23.9%)、「6時台」(17.0%)の順となっています。

父親が家を出る時間



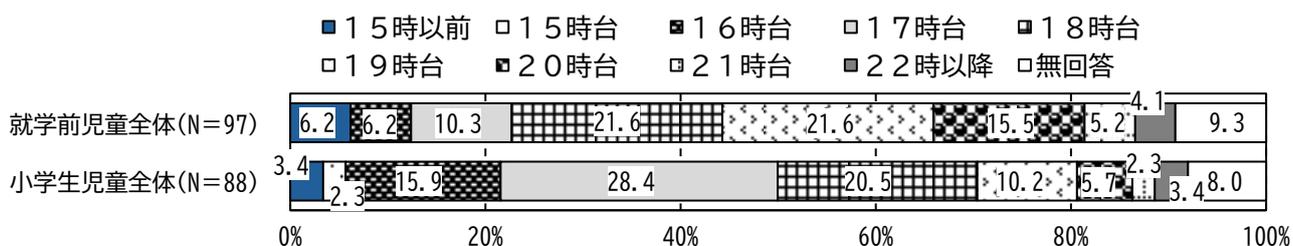
④父親の帰宅時間

就労している父親の帰宅時間は、就学前児童では「18時台」と「19時台」(ともに21.6%)が最も多く、次いで「20時台」(15.5%)の順となっています。

小学生児童では「17時台」(28.4%)が最も多く、次いで「18時台」(20.5%)、「16時台」(15.9%)の順となっています。

『19時以降』は就学前児童では46.4%、小学生児童では21.6%となっており、母親に比べると多くなっています。

父親の帰宅時間



(4) フルタイムへの転換意向

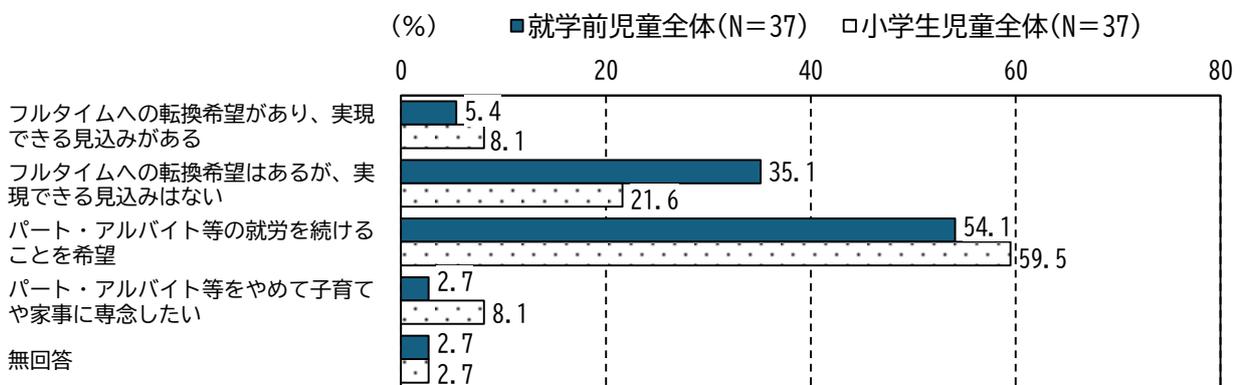
【就学前児童・小学生児童】

①母親のフルタイムへの転換意向

現在、パート・アルバイト等で就労している母親のフルタイムへの転換意向は、「パート・アルバイト等で働き続けることを希望」(就学前児童 54.1%、小学生児童 59.5%) が最も多くなっています。

また、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みはない」を合わせた『フルタイムへの転換希望あり』は、就学前児童では 40.5%、小学生児童では 29.7%となっており、就学前児童の母親の方がフルタイムへの転換希望が多くなっています。

母親のフルタイムへの転換意向



②父親のフルタイムへの転換意向

現在、パート・アルバイト等で就労している父親は少なく、就学前児童で2件となっており、「パート・アルバイト等で働き続けることを希望」と回答しています。

父親のフルタイムへの転換希望

単位：件数	調査数	実現希望あり、見込みあり	実現希望あり、見込みなし	パート・アルバイト等継続希望	パート・アルバイトをやめて子育てや家事に専念したい	無回答
就学前児童全体	2	-	-	2	-	-

※小学生児童は該当なし

(5) 母親の就労意向

【就学前児童・小学生児童】

①母親の就労意向

現在、就労していない母親は少なく、就学前児童で 21 件、小学生児童で 11 件となっています。就労意向について、「1 年より先、一番下の子どもがある程度の年齢になったところに働きたい」（就学前児童 11 件、小学生児童 6 件）が最も多くなっています。

母親の就労希望

単位：件数	調査数	予定はしない（家事などに専念したい）	1 年以内	1 年以上	1 年以上でも、就労しにくい
就学前児童全体	21	6	11	4	
小学生児童全体	11	4	6	1	

②母親が就労を希望する時の子どもの年齢

一番下の子どもがある程度の年齢になったところに働きたいと回答した人は、就学前児童で 11 件、小学生児童で 6 件となっており、一番下の子どもが何歳の時に就労を希望するか尋ねたところ、就学前児童では「3～5 歳」（6 件）が最も多く、平均は 4.18 歳となっています。

小学生児童では「6～8 歳」と「9 歳以上」がともに 3 件となっています。平均は 9.00 歳となっています。

母親が就労を希望する時の子どもの年齢

単位：件数	調査数	0～2 歳	3～5 歳	6～8 歳	9 歳以上	平均（歳）
就学前児童全体	11	2	6	3	-	4.18
小学生児童全体	6	-	-	3	3	9.00

③母親の希望する就労形態

今後、就労意向のある母親（現在、未就労）は、就学前児童では15件、小学生児童では7件となっており、希望する就労形態については、「パートタイム、アルバイト等（フルタイム以外）」が就学前児童では15件、小学生児童では6件となっています。

母親の希望する就労形態

単位：件数	調査数	程度 の就 労 日 程 度 （ 1 日 8 時 間 5 分 程 度 ）	フル タ イ ム （ 週 5 日 ）	パート タ イ ム 等 （ フル タ イ ム 以 外 ）
就学前児童全体	15	-	-	15
小学生児童全体	7	1	-	6

④母親の希望する就労日数

パート・アルバイト等として希望する1週間あたりの就労日数は、就学前児童では「5日」(7件)、小学生児童では「3日」(3件)が最も多くなっており、1週間あたりの平均就労日数は就学前児童では4.46日、小学生児童では3.67日となっています。

母親の希望する就労日数

単位：件数	調査数	1 日	2 日	3 日	4 日	5 日	6 日 以 上	無 回 答	平均 (日/週)
就学前児童全体	15	-	-	1	5	7	-	2	4.46
小学生児童全体	6	-	-	3	2	1	-	-	3.67

⑤母親の希望する就労時間

パート・アルバイト等として希望する1日あたりの就労時間は、就学前児童では「4～5時間未満」(5件)、小学生児童では「5～6時間未満」(3件)が最も多くなっており、1日あたりの平均就労時間は、就学前児童で4.92時間、小学生児童で4.33時間となっています。

母親の希望する就労時間

単位：件数	調査数	3 時 間 未 満	3 ～ 4 時 間 未 満	4 ～ 5 時 間 未 満	5 ～ 6 時 間 未 満	6 ～ 7 時 間 未 満	7 ～ 8 時 間 未 満	8 時 間 以 上	無 回 答	平均 (時間/日)
就学前児童全体	15	-	-	5	4	4	-	-	2	4.92
小学生児童全体	6	-	1	2	3	-	-	-	-	4.33

(6) 父親の就労意向

【就学前児童・小学生児童】

①父親の就労意向

現在、就労していない父親は少なく、就学前児童、小学生児童ともに1件となっており、就労意向は、就学前児童では「1年より先、一番下の子どもが一定の年齢になった頃に就労したい」、小学生児童では「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」と回答しています。

父親の就労意向

単位：件数	調査数	予定念はなたい(就労の)	子育てや家事などに	しにたな	年齢の1年より先、一番下の	たはすい1年以内にも就労し
就学前児童全体	1	-	-	-	1	-
小学生児童全体	1	1	-	-	-	-

②父親が就労を希望する時の子どもの年齢

一番下の子どもが一定の年齢になった頃に就労したいと回答した人は少なく、就学前児童で1件となっており、一番下の子どもが何歳を迎えた時に就労を希望するか尋ねたところ、「7歳」と回答しています。

父親が就労を希望する時の子どもの年齢

単位：件数	調査数	7歳
就学前児童全体	1	1

※小学生児童は該当なし

③父親の希望する就労形態

今後、就労意向のある父親（現在、未就労）は就学前児童で1件となっており、希望する就労形態として、「フルタイム（週5日程度・1日8時間程度の就労）」と回答しています。

父親の希望する就労形態

単位：件数	調査数	フルタイム（週5日程度）	パートタイム等（フルタイム以外）	アルバイト等（パートタイム以外）
就学前児童全体	1	1	-	-

※小学生児童は該当なし

④父親の希望する就労日数と就労時間

「パートタイム、アルバイト等（フルタイム以外）」を希望する回答はありませんでした。

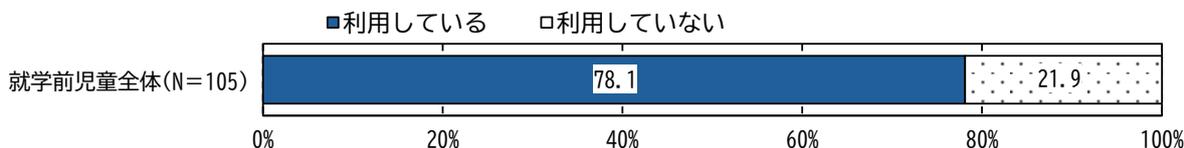
5. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

(1) 平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無

【就学前】

対象となった子どもの定期的な教育・保育事業の利用状況は、「利用している」が78.1%、「利用していない」が21.9%となっています。

平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無



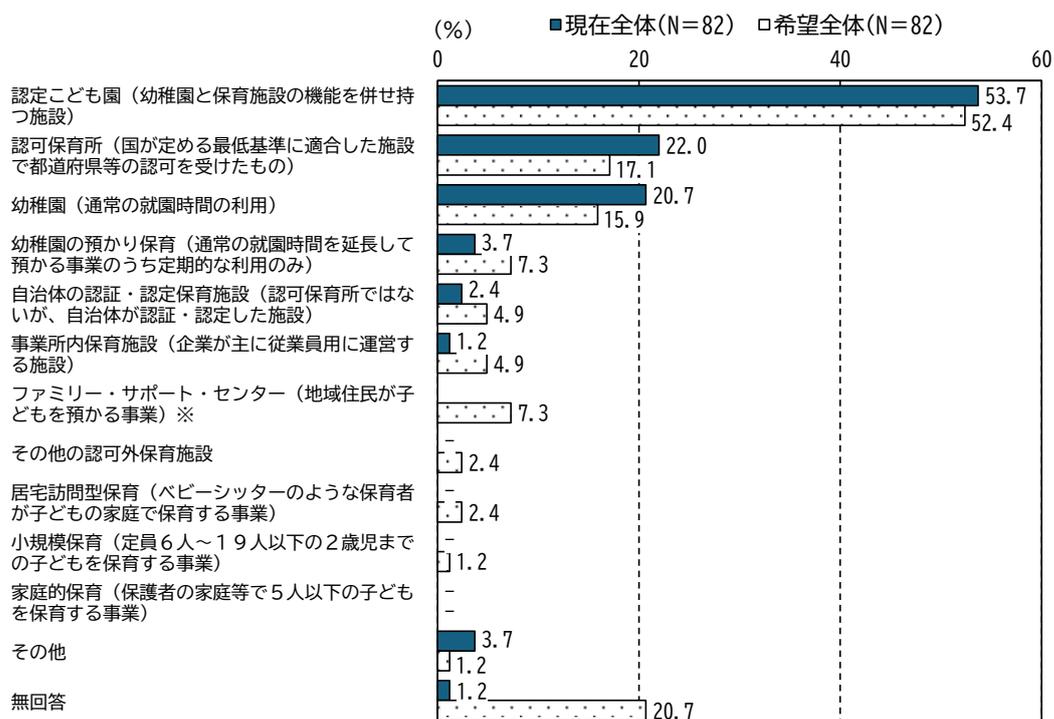
(2) 平日に現在利用している事業と利用を希望する事業

【就学前】

現在、定期的にご利用している教育・保育事業は、「認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）」(53.7%) が最も多く、次いで、「認可保育所（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの）」(22.0%)、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」(20.7%) の順となっています。

また、利用を希望する事業は、「認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）」(52.4%) が最も多く、次いで、「認可保育所（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの）」(17.1%)、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」(15.9%) の順となっています。

平日に現在利用している事業と利用を希望する事業（複数回答）



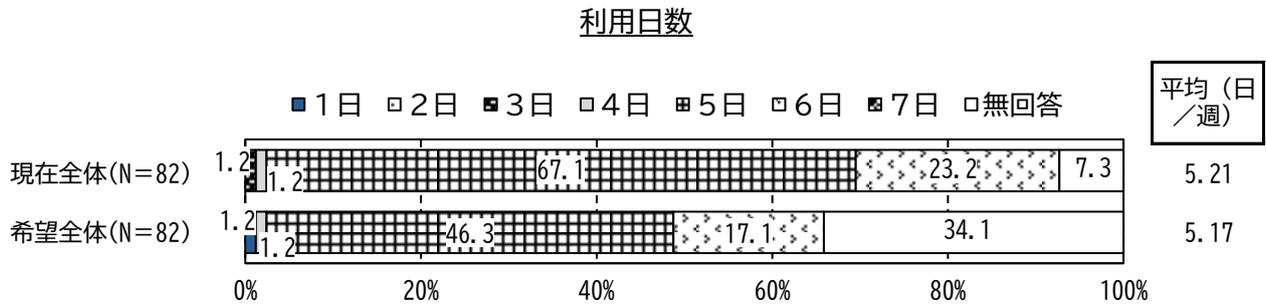
※希望のみの項目

(3) 利用日数

【就学前】

利用している教育・保育事業の1週間あたりの現在の利用日数について、「5日」(67.1%)が最も多く、次いで「6日」(23.2%)となっており、平均利用日数は5.21日となっています。

また、希望する平均利用日数は5.17日となっています。

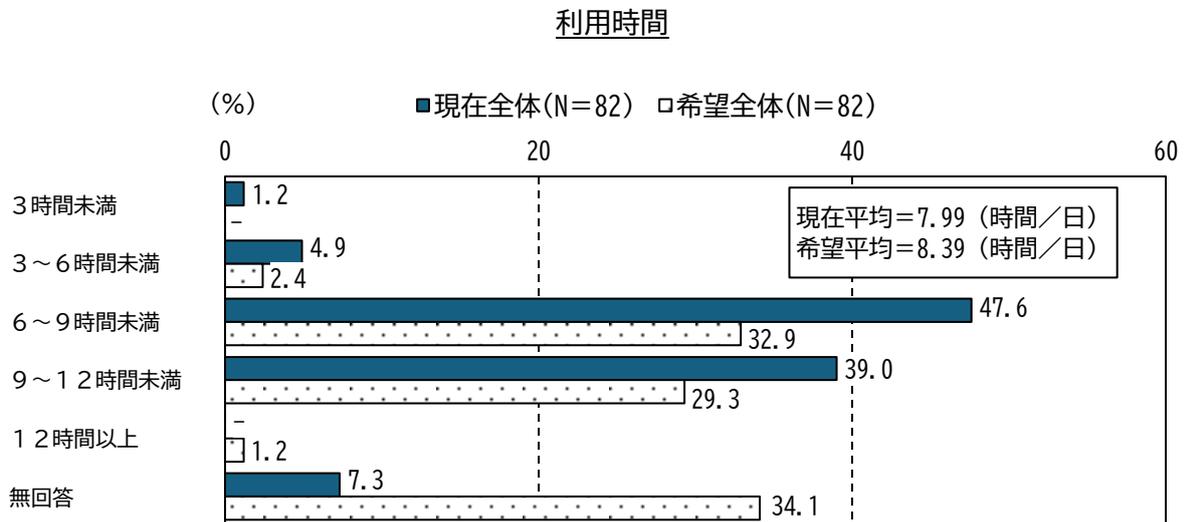


(4) 利用時間

【就学前】

利用している教育・保育事業の現在の1日あたりの利用時間について、「6～9時間未満」(47.6%)が最も多く、次いで「9～12時間未満」(39.0%)、「3～6時間未満」(4.9%)となっており、1日あたりの平均利用時間は7.99時間となっています。

また、希望する平均時間は8.39時間と現在の利用時間よりも長くなっています。



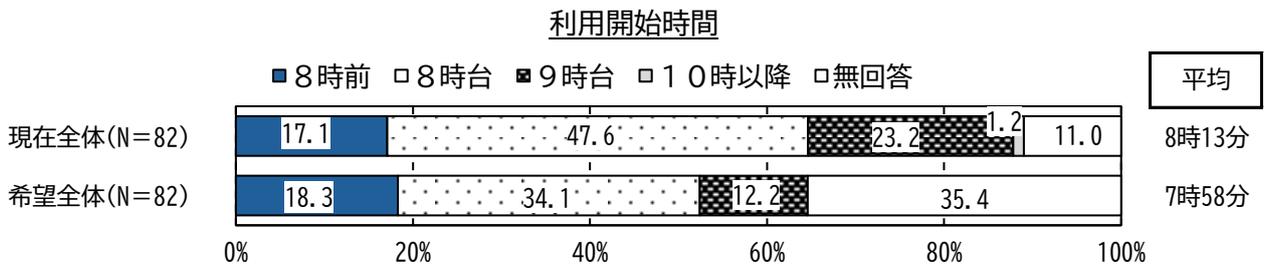
(5) 利用時間帯

【就学前】

①利用開始時間

利用開始時間について、現在の開始時間は「8時台」(47.6%)が最も多く、次いで「9時台」(23.2%)、「8時前」(17.1%)の順となっています。

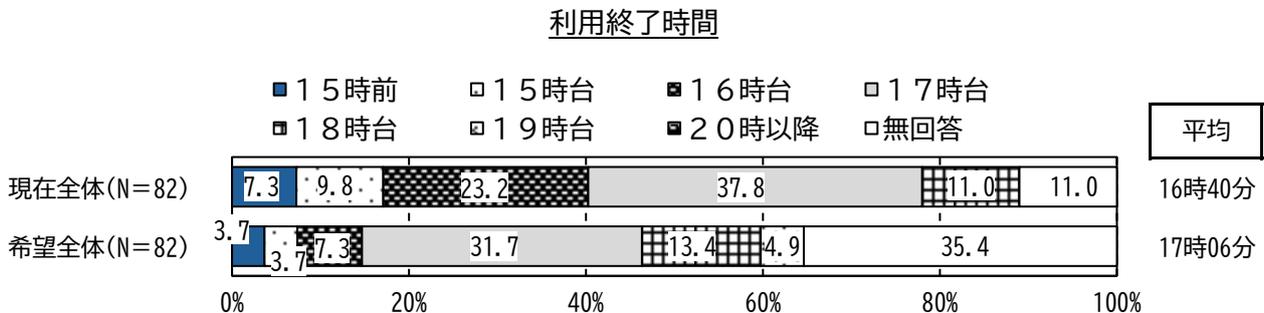
現在の平均開始時間の「8時13分」に対して、本来希望する平均開始時間は「7時58分」となっており、15分早い開始が望まれています。



②利用終了時間

利用終了時間について、現在の終了時間は「17時台」(37.8%)が最も多く、次いで「16時台」(23.2%)、「18時台」(11.0%)の順となっています。

現在の平均終了時間の「16時40分」に対して、本来希望する平均終了時間は「17時06分」となっており、26分遅い終了が望まれています。



(6) 幼稚園と他の事業を併用している場合に特に幼稚園の利用を強く希望するか

【就学前】

幼稚園または幼稚園の預かり保育を利用して、かつ他の事業を利用している人は少なく、2件となっており、特に幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望するか尋ねたところ、「はい」という回答となっています。

幼稚園と他の事業を併用している場合に特に幼稚園の利用を強く希望するか

単位：件数	調査数	はい	
		はい	いいえ
就学前児童全体	2	2	-

6. 地域の子育て支援事業の利用状況について

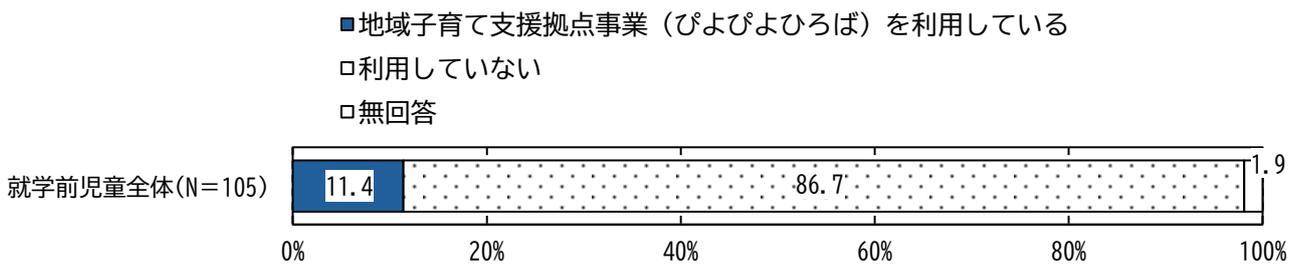
(1) 地域子育て支援拠点事業（ぴよぴよ広場）の利用

【就学前】

①地域子育て支援拠点事業（ぴよぴよひろば）の利用状況

地域子育て支援拠点事業（ぴよぴよひろば）について、「利用していない」（86.7%）が8割以上を占めており、「地域子育て支援拠点事業や類似の事業を利用している」（11.4%）と回答した人は約1割となっています。

地域子育て支援拠点事業の利用状況



②利用回数

1ヶ月あたりの利用回数は「5回」が最も多く、平均2.25回となっています。

利用回数

単位：回/月	平均	最大値
就学前児童全体	2.25	5.00

③満足度

地域子育て支援拠点事業（ぴよぴよひろば）を利用している人は少なく、12件となっており、「満足」（1件）と「やや満足」を合わせた『満足』は9件となっています。

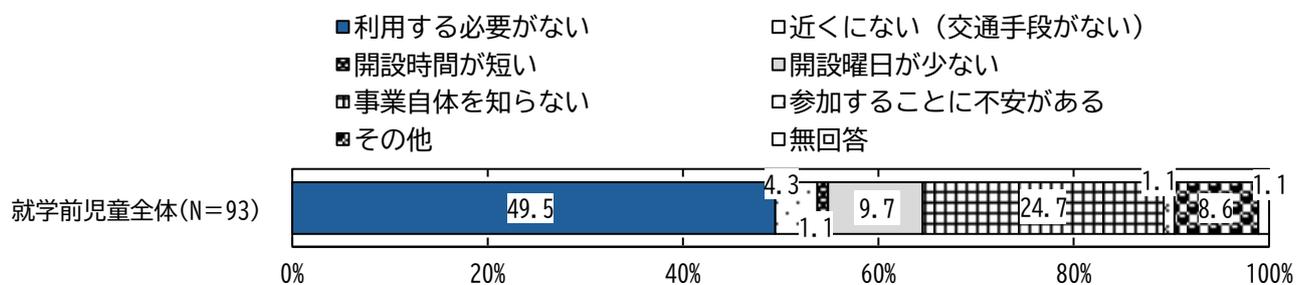
満足度

単位：件数	調査数	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
就学前児童全体	12	1	8	1	2	-

④地域子育て支援拠点事業を利用していない・不満に思うもっとも大きな理由

地域子育て支援拠点事業を利用していない・不満に思う理由について、「利用する必要がある」（49.5%）が最も多く、次いで「事業自体を知らない」（24.7%）、「開設曜日が少ない」（9.7%）の順となっています。

利用していない・不満に思うもっとも大きな理由



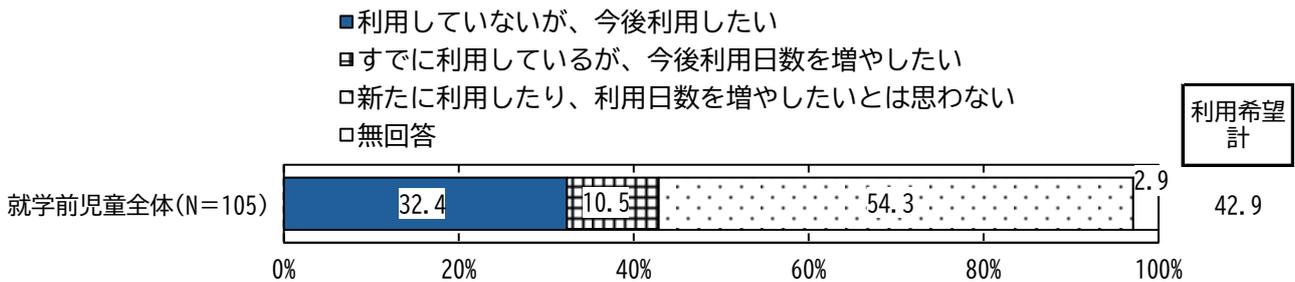
(2) 今後の地域子育て支援拠点事業の利用意向

【就学前】

①地域子育て支援拠点事業の利用意向

地域子育て支援拠点事業の利用意向について、「利用していないが、今後利用したい」(32.4%)と「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」(10.5%)を合わせた『利用希望』は42.9%となっています。

地域子育て支援拠点事業の利用意向



②利用していないが、今後利用したい回数

「利用していないが、今後利用したい」と回答した人の1ヶ月あたりの平均利用希望回数は、2.07回となっています。

利用していないが、今後利用したい回数

単位：件数	平均 (回/月)
就学前児童全体	2.07

③利用頻度を増やしたいと思う回数

「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」と回答した人の1ヶ月あたりの平均利用希望回数は、5.33日となっています。

利用頻度を増やしたいと思う回数

単位：件数	平均 (回/月)
就学前児童全体	5.33

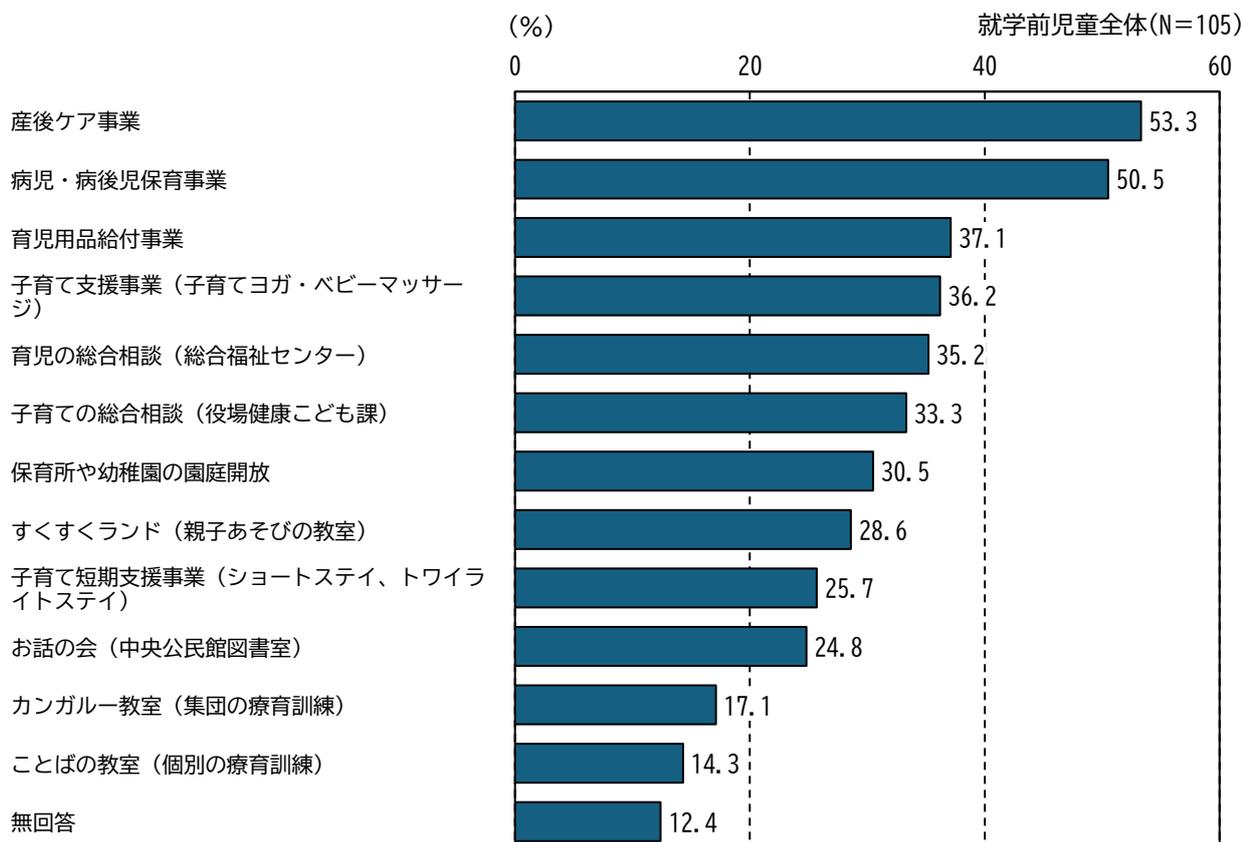
(3) 認知している・利用したことがある・今後利用したい地域子育て支援事業

【就学前】

①認知している地域子育て支援事業

認知している地域子育て支援事業について、「産後ケア事業」(53.3%)が最も多く、次いで、「病児・病後児保育事業」(50.5%)、「育児用品給付事業」(37.1%)の順となっています。

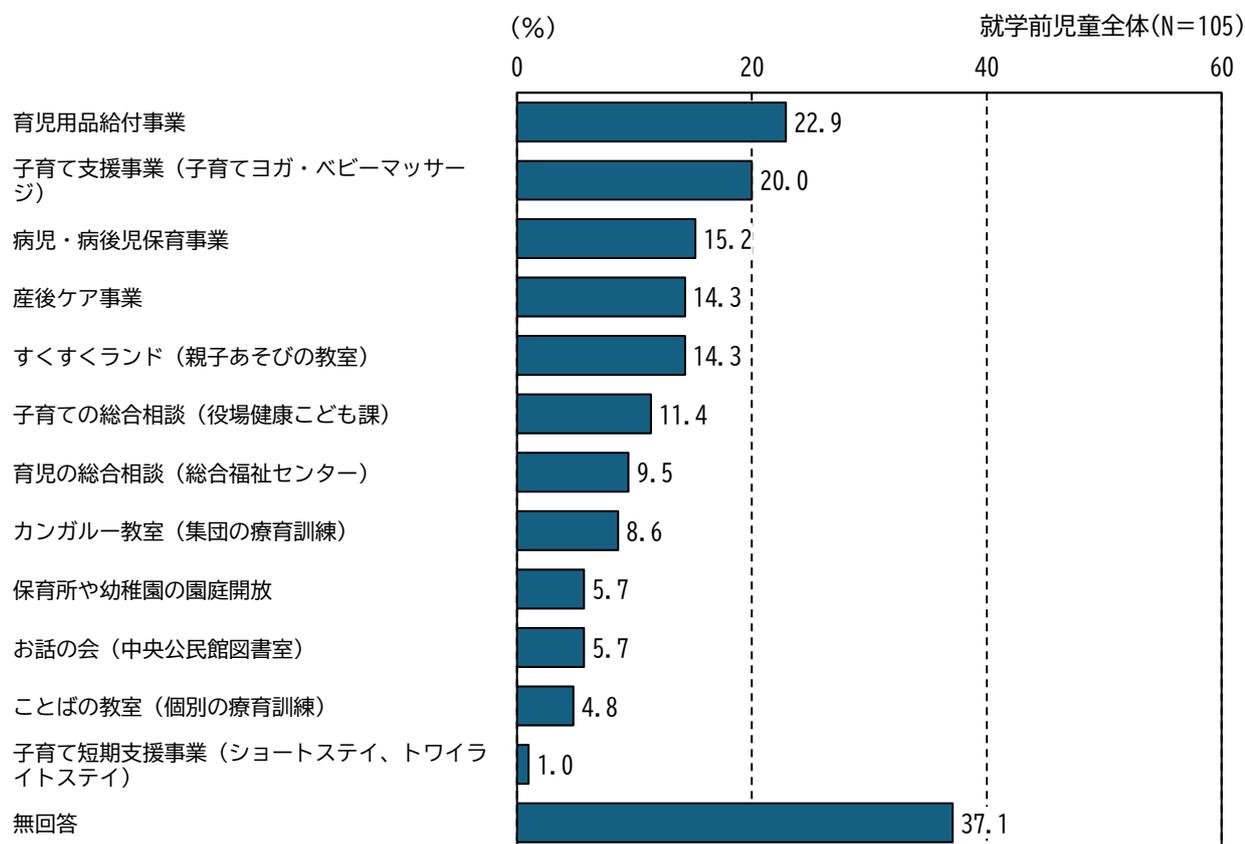
認知している地域子育て支援事業 (複数回答)



②利用したことがある地域子育て支援事業

利用したことがある地域子育て支援事業について、「育児用品給付事業」(22.9%)が最も多く、次いで「子育て支援事業(子育てヨガ・ベビーマッサージ)」(20.0%)、「病児・病後児保育事業」(15.2%)の順となっています。

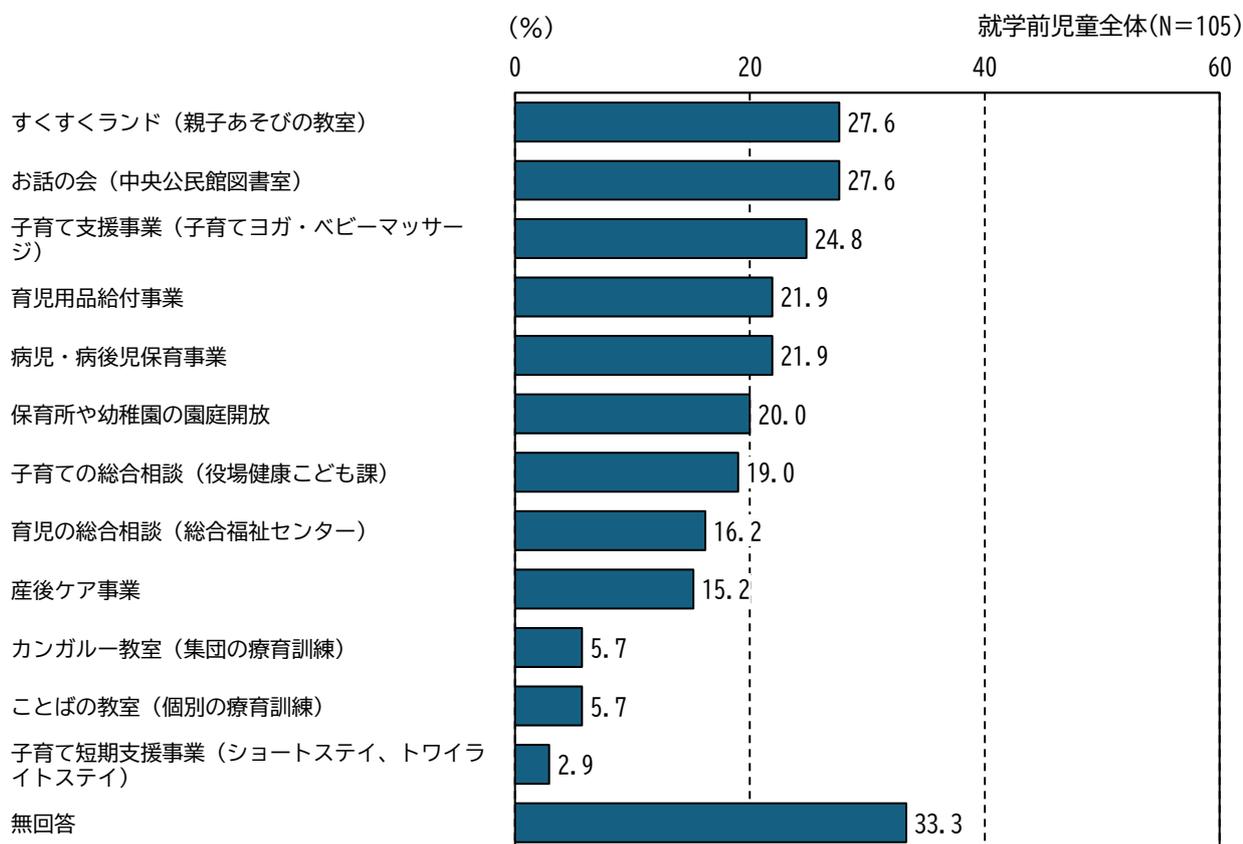
利用している地域子育て支援事業(複数回答)



③今後利用したい地域子育て支援事業

今後利用したい地域子育て支援事業について、「すくすくランド（親子あそびの教室）」と「お話の会（中央公民館図書室）」（ともに27.6%）が最も多く、次いで、「子育て支援事業（子育てヨガ・ベビーマッサージ）」（24.8%）の順となっています。

今後利用したい地域子育て支援事業（複数回答）



7. 土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望について

(1) 土曜日、日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用意向

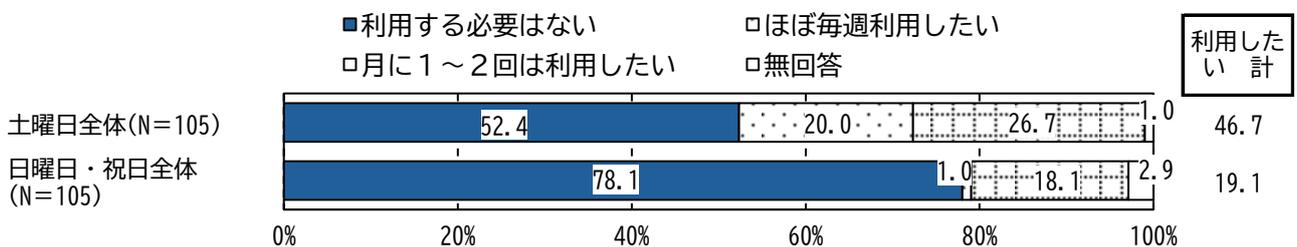
【就学前】

①土曜日、日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用

土曜日の定期的な教育・保育事業の利用意向について、「ほぼ毎週利用したい」(20.0%)と「月に1~2回は利用したい」(26.7%)を合わせた『利用したい』は46.7%となっています。

日曜日・祝日の利用意向について、「ほぼ毎週利用したい」(1.0%)と「月に1~2回は利用したい」(18.1%)を合わせた『利用したい』は19.1%となっており、土曜日の利用意向に比べて少ないことから、日曜・祝日は、保護者などが自宅で子どもをみられる環境があると推察されます。

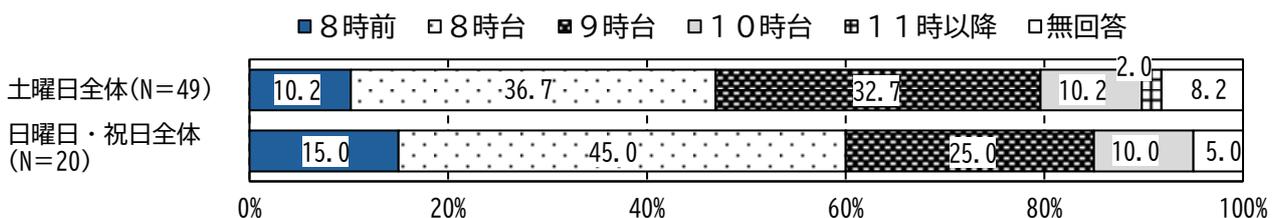
土曜日、日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用意向



②希望する利用開始時間

土曜日、もしくは日曜日・祝日に利用意向のある人が希望する利用開始時間は、「8時台」(土曜日36.7%、日曜日・祝日45.0%)が最も多く、次いで、「9時台」(土曜日32.7%、日曜日・祝日25.0%)の順となっています。

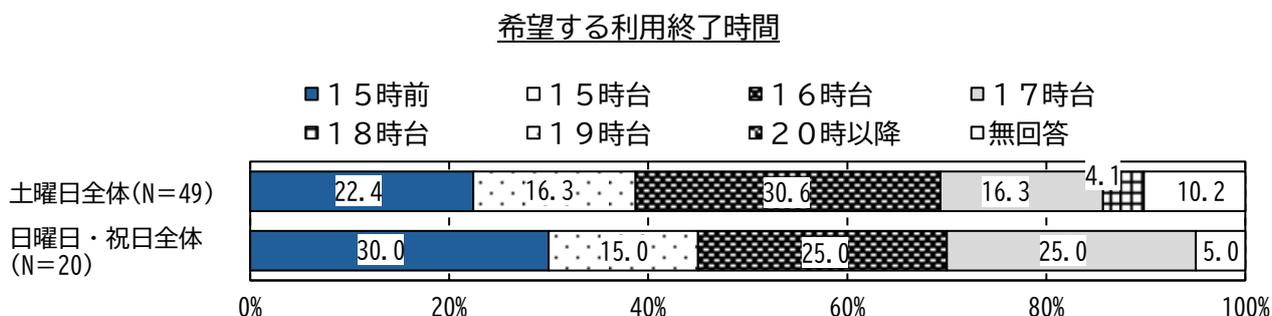
希望する利用開始時間



③希望する利用終了時間

土曜日、もしくは日曜日・祝日に利用意向のある人が希望する利用終了時間は、土曜日では「16時台」(30.6%)が最も多く、次いで、「15時前」(22.4%)、「15時台」と「17時台」(ともに16.3%)の順となっています。

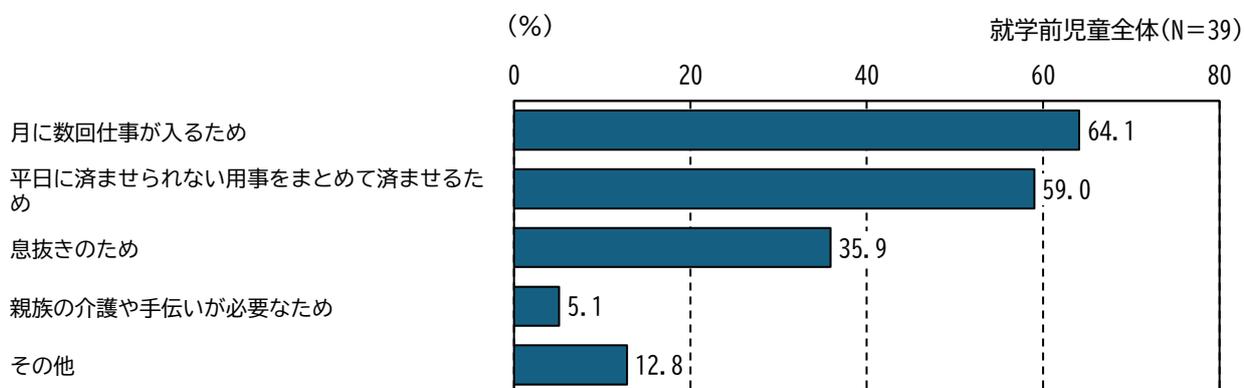
日曜日・祝日では「15時前」(30.0%)が最も多く、次いで、「16時台」と「17時台」(ともに25.0%)の順となっています。



④不定期に教育・保育事業を利用したい理由

土曜もしくは日曜日・祝日に、教育・保育事業をたまに利用したい理由について、「月に数回仕事が入るため」(64.1%)が最も多く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」(59.0%)、「息抜きのため」(35.9%)の順となっています。

不定期に教育・保育事業を利用したい理由(複数回答)



(2) 長期休暇中の教育・保育事業の利用（幼稚園利用者）

①長期休暇中の教育・保育事業の利用意向（幼稚園利用者）

現在、幼稚園を利用している人は 17 件と少なくなっており、夏休み・冬休みなど長期休暇期間中の教育・保育事業の利用意向について「利用する必要はない」と「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」（ともに 6 件）が最も多く、次いで「休みの期間中、週に数日利用したい」（5 件）の順となっています。

長期休暇中の教育・保育事業の利用意向（幼稚園利用者）

単位：件数	調査数	利用する必要はない	休みの期間中、ほぼ毎日利用したい	休みの期間中、週に数日利用したい
就学前児童全体	17	6	6	5

②希望する利用開始時間

長期休暇期間中に利用意向のある人は 11 件と少なくなっており、希望する利用開始時間は、「9 時台」（5 件）が最も多くなっています。

希望する利用開始時間

単位：件数	調査数	8 時前	8 時台	9 時台	10 時以降	無回答
就学前児童全体	11	2	2	5	1	1

③希望する利用終了時間

長期休暇期間中に利用意向のある人が希望する利用終了時間は、「17 時台」（3 件）が最も多くなっています。

希望する利用終了時間

単位：件数	調査数	15 時前	15 時台	16 時台	17 時台	18 時台	19 時以降	無回答
就学前児童全体	11	2	1	1	3	2	1	1

④長期休暇中、不定期に教育・保育事業を利用したい理由

長期休暇中、教育・保育事業を不定期に利用したい人は5件と少なくなっており、不定期に利用したい理由は「買い物等の用事をまとめて済ませるため」(3件)が最も多くなっています。

長期休暇中、不定期に教育・保育事業を利用したい理由 (複数回答)

単位：件数	調査数	週末に数回仕事が入るため	買い物等の用事をまとめて済ませるため	手伝いが必要なため	親等親族の介護や息抜きのため	その他
就学前児童全体	5	2	3	-	2	1

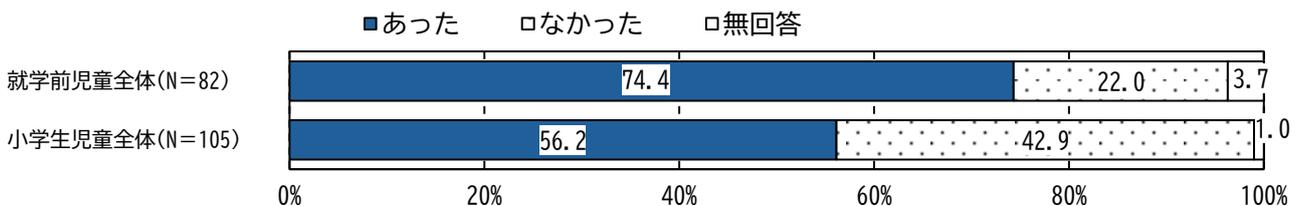
8. 病気の際の対応について

(1) 子どもが病気やケガで教育・保育事業や小学校などを休まなければならなかったことの有無

【就学前・小学生】

子どもが病気やケガで、平日の定期的な教育・保育事業や小学校などを休まなければならなかったことが「あった」という割合は、就学前児童で74.4%、小学生児童で56.2%となっており、特に就学前児童では7割以上を占めています。

子どもが病気やケガで教育・保育事業や小学校などを休まなければならなかったことの有無



(2) 子どもが病気になった時の対処方法

【就学前・小学生】

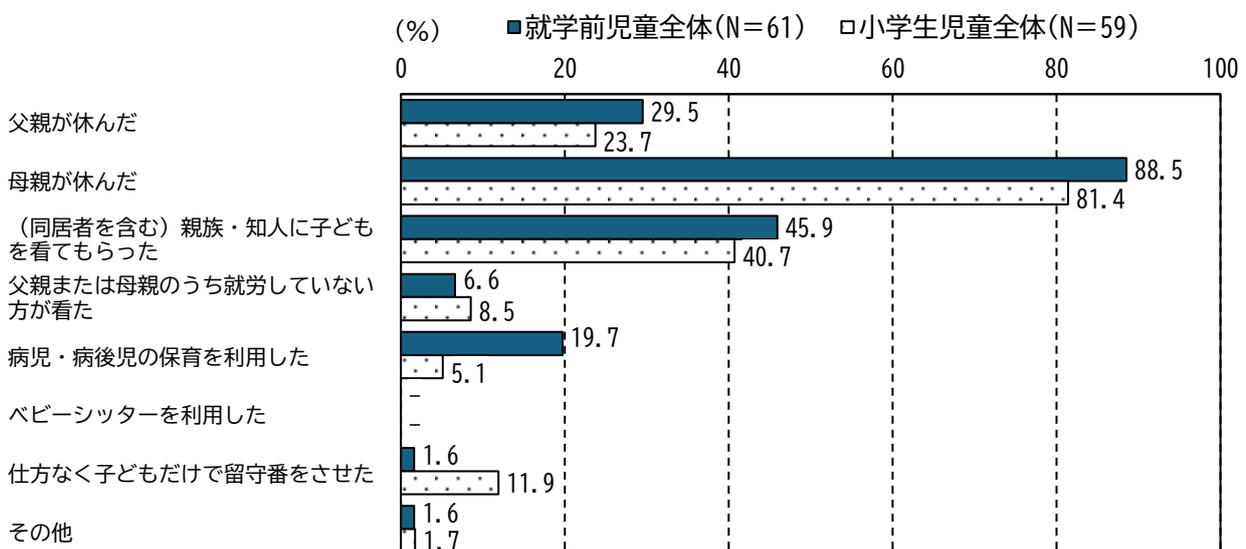
①子どもが病気になった時の対処方法

平日の教育・保育事業や小学校を休まなければならなかった場合の対処方法としては、「母親が休んだ」(就学前児童88.5%、小学生児童81.4%)が最も多く、次いで「(同居を含む)親族・知人に子どもを看てもらった」(就学前児童45.9%、小学生児童40.7%)となっており、父親が休むよりも母親や親族・知人が看ることの方が多くなっています。

「病児・病後児の保育を利用した」は、就学前児童(19.7%)が小学生児童(5.1%)よりも多くなっています。

「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」は就学前児童で1.6%、小学生児童で11.9%みられます。

子どもが病気になった時の対処方法 (複数回答)



②対処方法別の年間日数

対処方法別の年間平均日数について、就学前児童では「父親または母親のうち就労していない方が見た」が13.75日と最も多く、次いで「母親が休んだ」が11.51日、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」が10.00日となっています。「父親が休んだ」日数より「母親が休んだ」日数の方が7.45日多くなっています。

小学生児童では「母親が休んだ」が9.54日と最も多く、次いで「父親が休んだ」が5.50日、「(同居を含む)親族・知人に子どもを看てもらった」が4.29日となっています。

対処方法別の年間日数

	就学前児童			小学生児童		
	(件)	(%)	平均日数 (日/年)	(件)	(%)	平均日数 (日/年)
全体	61	100.0		59	100.0	
父親が休んだ	18	29.5	4.06	14	23.7	5.50
母親が休んだ	54	88.5	11.51	48	81.4	9.54
(同居者を含む)親族・知人に子どもを看てもらった	28	45.9	9.44	24	40.7	4.29
父親または母親のうち就労していない方が見た	4	6.6	13.75	5	8.5	3.50
病児・病後児の保育を利用した	12	19.7	4.50	3	5.1	0.50
ベビーシッターを利用した	0	-	-	0	-	-
仕方なく子どもだけで留守番をさせた	1	1.6	10.00	7	11.9	6.14
その他	1	1.6	-	1	1.7	-

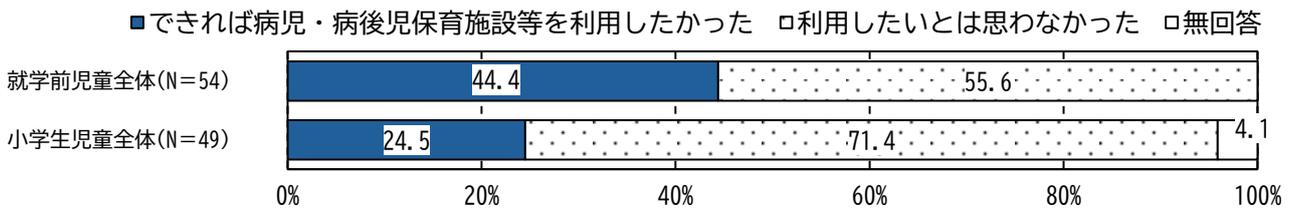
(3) 病児・病後児保育施設の利用について

【就学前・小学生】

①病児・病後児保育施設の利用意向

父親もしくは母親が休んだと回答した人のうち、病児・病後児保育施設等の利用意向について、「できれば病児・病後児保育施設などを利用したかった」は、就学前児童（44.4%）の方が小学生児童（24.5%）よりも多くなっています。

病児・病後児保育施設の利用意向



②利用希望日数

病児・病後児保育事業を利用したかったと回答した人は就学前児童で24件、小学生児童で12件と少なくなっており、年間利用希望日数は「1～3日」（就学前児童7件、小学生児童5件）が最も多くなっています。

年間平均利用希望日数は就学前児童で7.77日、小学生児童で6.33日となっています。

利用希望日数

単位：件数	調査数	利用希望日数						平均（日／年）
		1～3日	4～6日	7～9日	10～12日	13日以上	無回答	
就学前児童全体	24	7	4	1	6	4	2	7.77
小学生児童全体	12	5	-	-	3	1	3	6.33

③病児・病後児保育施設を利用する場合の望ましい事業形態

病児・病後児保育施設を利用する場合の望ましい事業形態について、就学前児童では「他の施設（例：乳児院・保育所など）に併設した施設で子どもを保育する事業」（19件）が最も多く、次いで、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」（18件）の順となっています。

小学生児童では、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」（10件）が最も多く、次いで、「他の施設（例：乳児院・保育所など）に併設した施設で子どもを保育する事業」（6件）の順となっています。

病児・病後児保育施設を利用する場合の望ましい事業形態

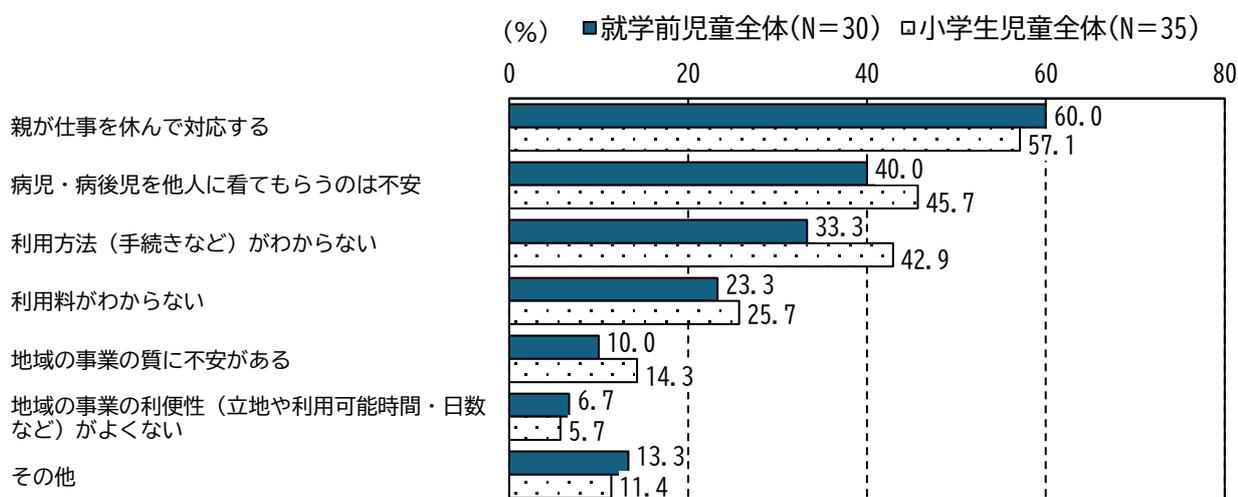
単位：件数	調査数	保設院他 育し・の すた保施 る施設 事業（例： 子どもに を併	業で小 子科に どもを を併 設し すた る施 事設	事身地 業近住 な場 民 所 が 自 宅 な ど の	そ の 他
就学前児童全体	24	19	18	2	-
小学生児童全体	12	6	10	4	-

④病児・病後児保育施設を利用したいと思わなかった理由

病児・病後児保育施設を利用したいと思わなかった理由として、「親が休んで対応する」（就学前児童 60.0%、小学生児童 57.1%）が最も多く、次いで、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」（就学前児童 40.0%、小学生児童 45.7%）、「利用方法（手続きなど）がわからない」（就学前児童 33.3%、小学生児童 42.9%）の順となっています。

「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」と「利用方法（手続きなど）がわからない」は、小学生児童の方が就学前児童よりも特に多くなっています。

病児・病後児保育施設を利用したいと思わなかった理由（複数回答）



(4) 父母のどちらかが休んで見る意向

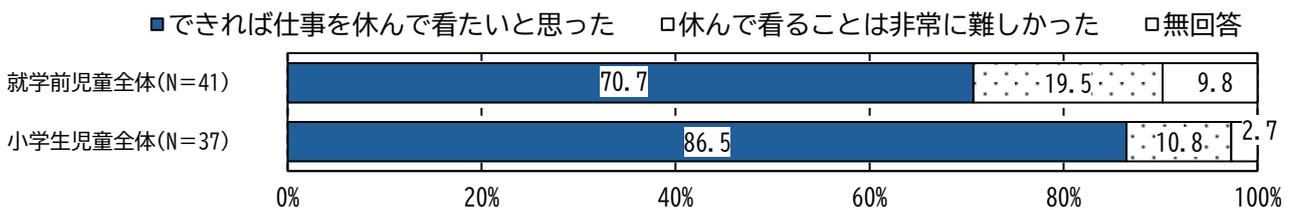
【就学前・小学生】

①父母のどちらかが休んで見る意向

父親または母親が休む以外の対処方法を行った際、「できれば父母のどちらかが仕事を休んで看たい」と思ったかという希望について、「できれば仕事を休んで看たい」（就学前児童 70.7%、小学生児童 86.5%）が多くなっており、特に小学生児童では8割以上を占めています。

また、「休んで看ることは非常に難しかった」は、就学前児童(19.5%)の方が小学生児童(10.8%)よりも多くなっています。

父母のどちらかが休んで見る意向



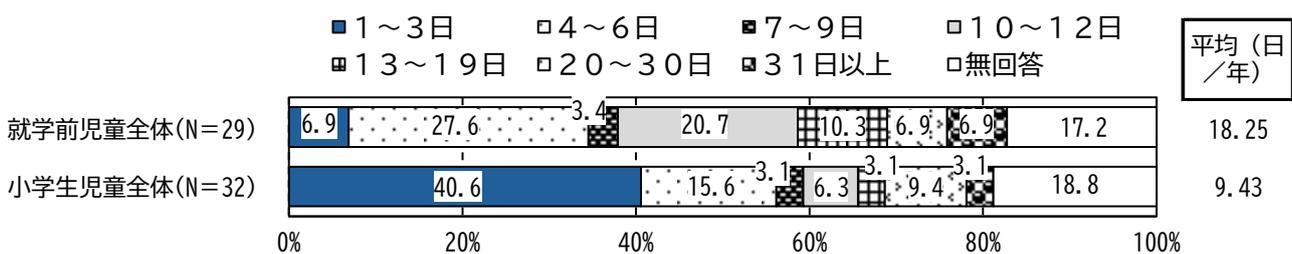
②父母のどちらかが仕事を休んで看たいと思った年間日数

父母のどちらかが仕事を休んで看たいと思った年間日数は、就学前児童では「4～6日」(27.6%)が最も多く、次いで、「10～12日」(20.7%)、「13～19日」(10.3%)の順となっています。

小学生児童では「1～3日」(40.6%)が最も多く、次いで、「4～6日」(15.6%)、「20～30日」(9.4%)の順となっています。

年間平均日数は、就学前児童で 18.25 日、小学生児童で 9.43 日となっており、就学前児童の方が多くなっています。

父母のどちらかが仕事を休んで看たいと思った年間日数



③仕事を休んで看ることが難しかった理由

両親のどちらかが仕事を休んで看することは難しいと回答した人は就学前児童で8件、小学生児童で4件と少なくなっており、理由について、就学前児童では「子どもの看護を理由に休みが取れない」と「自営業なので休めない」（ともに2件）が多くなっています。

小学生児童では「子どもの看護を理由に休みが取れない」が3件となっています。

仕事を休んで看ることが難しかった理由

単位：件数	調査数	い由子 にど 休も み の が 看 取 れ を な 理	な自 い営 業 な の で 休 め	い休 の暇 で日 休数 が足 りな	そ の 他
就学前児童全体	8	2	2	1	5
小学生児童全体	4	3	-	-	1

9. 不特定の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

(1) 不特定の教育・保育事業の利用状況について

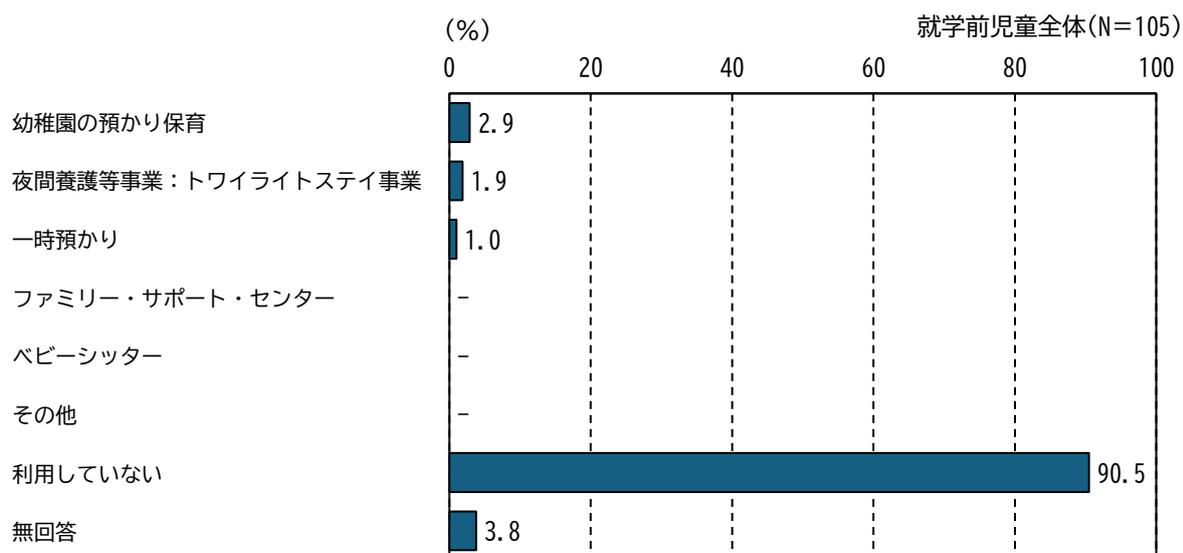
【就学前】

①不定期的に利用している事業

就学前児童で不定期的に利用している事業について、「利用していない」(90.5%)が最も多く、約9割を占めています。

利用している人では、「幼稚園の預かり保育」が2.9%となっています。

不定期的に利用している事業（複数回答）



②年間利用日数

最も利用者が多い「幼稚園の預かり保育」の年間平均利用日数は、15.00日となっています。

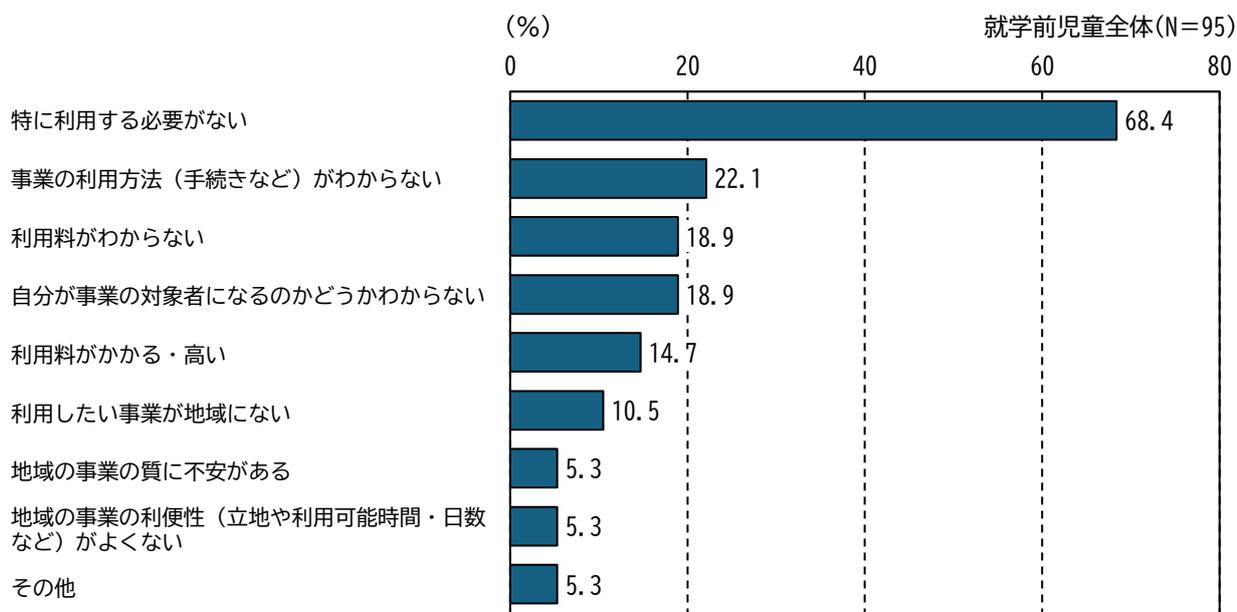
年間利用日数

単位：日／年	一時預かり	幼稚園の預かり保育	ファミリー・サポート・センター	トワイライトステイ事業	夜間養護等事業	ベビーシッター	その他
就学前児童全体	4.00	15.00	-	1.00	-	-	-

③不定期的な一時預かりを利用していない理由

不定期的な一時預かり事業を利用していない理由について、「特に利用する必要がない」（68.4%）が最も多く、次いで、「事業の利用方法（手続きなど）がわからない」（22.1%）、「利用料がわからない」と「自分が事業の対象者になるのかどうかわからない」（ともに18.9%）の順となっています。

不定期的な一時預かりを利用していない理由（複数回答）

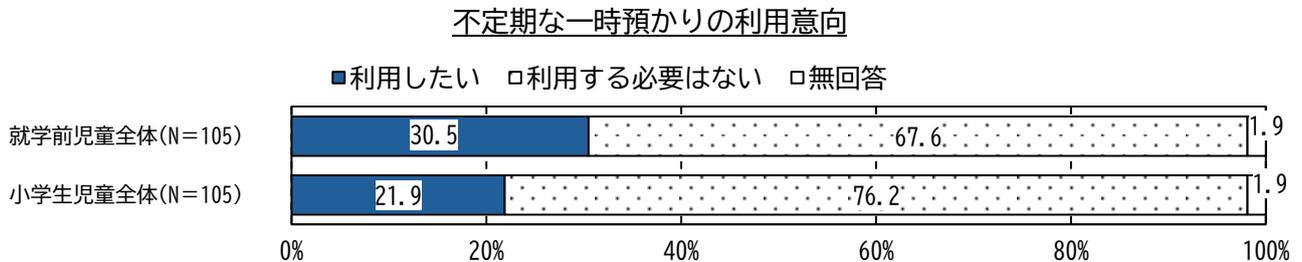


(2) 不規則な一時預かり等の利用意向について

【就学前・小学生】

①不規則な一時預かり等の利用意向

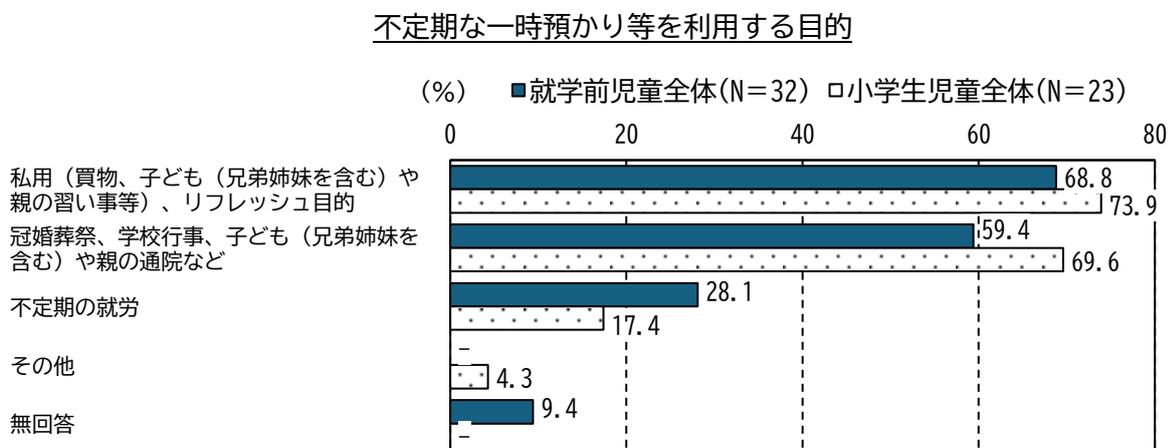
不規則な一時預かり等を「利用したい」という回答は、就学前児童で 30.5%、小学生児童で 21.9% となっており、就学前児童の方が小学生児童より多くなっています。



②不規則な一時預かり等を利用する目的

不規則な一時預かり等を利用する目的について、「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」（就学前児童 68.8%、小学生児童 73.9%）が最も多く、次いで、「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院など」（就学前児童 59.4%、小学生児童 69.6%）の順となっています。

「不規則の就労」は、就学前児童（28.1%）の方が小学生児童（17.4%）より多くなっています。

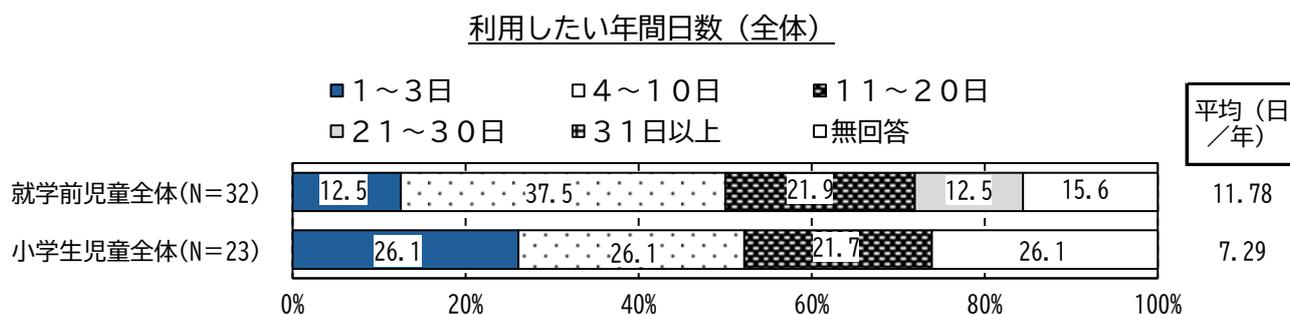


③利用したい年間日数

不定期な一時預かり等を利用したい年間平均日数は、就学前児童で11.78日、小学生児童で7.29日となっています。

目的別にみると、「私用、リフレッシュ目的」は、就学前児童で7.58日、小学生児童で6.54日、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など」は、就学前児童で6.06日、小学生児童で4.27日、「不定期の就労」は、就学前児童で8.44日、小学生児童で5.50日となっています。

年間平均日数は就学前児童の方が小学生児童より多くなっています。



利用したい年間日数（私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的）

単位：件数	調査数	1～3日	4～10日	11～20日	21～30日	31日以上	無回答	平均（日／年）
就学前児童全体	22	7	7	4	1	-	3	7.58
小学生児童全体	17	5	4	4	-	-	4	6.54

利用したい年間日数（冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院など）

単位：件数	調査数	1～3日	4～10日	11～20日	21～30日	31日以上	無回答	平均（日／年）
就学前児童全体	19	7	7	1	1	-	3	6.06
小学生児童全体	16	6	4	1	-	-	5	4.27

利用したい年間日数（冠婚葬祭、学校行事、子ども（不定期の就労））

単位：件数	調査数	1 ～ 3 日	4 ～ 10 日	11 ～ 20 日	21 ～ 30 日	31 日 以上	無 回 答	平均 (日/年)
就学前児童全体	9	3	4	1	1	-	-	8.44
小学生児童全体	4	-	2	-	-	-	2	5.50

利用したい年間日数（その他）

単位：件数	調査数	1 ～ 3 日	4 ～ 10 日	11 ～ 20 日	21 ～ 30 日	31 日 以上	無 回 答	平均 (日/年)
小学生児童全体	1	-	-	-	-	-	1	-

※就学前児童は該当なし

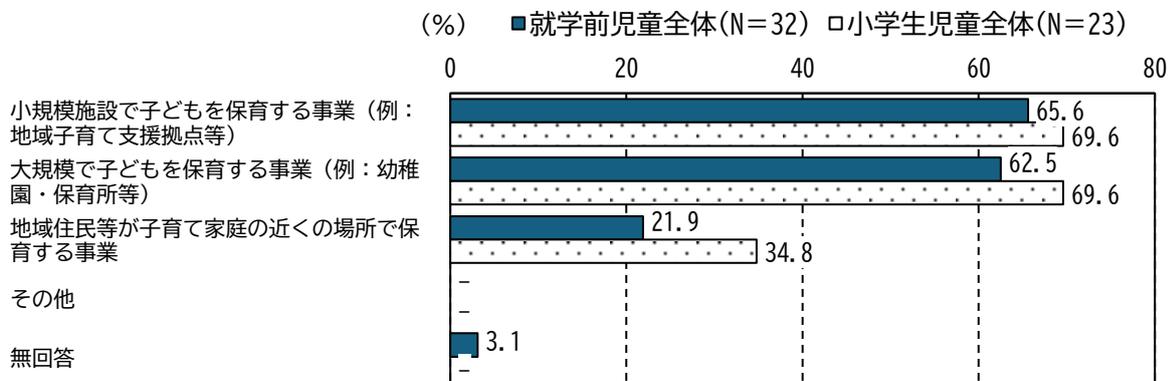
④不定期な一時預かり等を利用する場合の望ましい事業形態

不定期な一時預かり等を利用する場合の望ましい事業形態について、就学前児童では、「小規模施設で子どもを保育する事業（例：地域子育て支援拠点等）」（65.6%）が最も多く、次いで、「大規模で子どもを保育する事業（例：幼稚園・保育所等）」（62.5%）、「地域住民等が子育て家庭の近くの場所で保育する事業」（21.9%）の順となっています。

小学生児童では、「小規模施設で子どもを保育する事業（地域子育て支援拠点等）」と「大規模施設で子どもを保育する事業（幼稚園・保育所など）」（ともに69.6%）が最も多く、次いで、「地域住民が自宅などの身近な場所で保育する事業」（34.8%）の順となっています。

「地域住民が自宅などの身近な場所で保育する事業」は、小学生児童が就学前児童を大きく上回っています。

不定期な一時預かりを利用する場合の望ましい事業形態（複数回答）



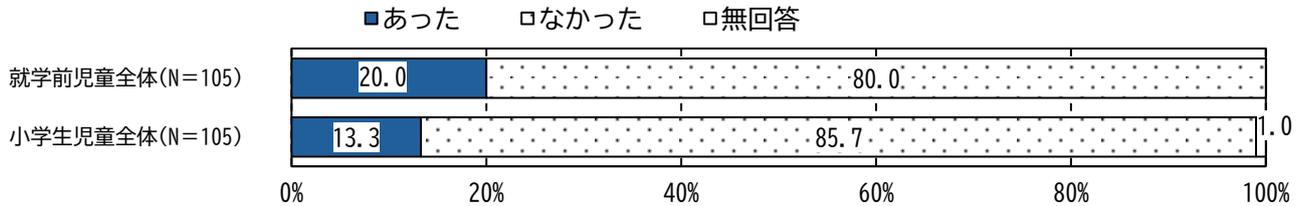
(3) 宿泊を伴う一時預かり等の利用について

【就学前・小学生】

①保護者の用事で子どもを家族以外にみてもらわなければならないことの有無

過去1年に保護者の用事により、子どもを泊りがけで家族以外に預けたことが「あった」と回答した人は、就学前児童で20.0%、小学生児童で13.3%となっています。

保護者の用事で子どもを家族以外にみてもらわなければならないことの有無



②対処方法

過去1年に保護者の用事により、子どもを泊りがけで家族以外に預けたことが「あった」と回答した人は就学前児童で21件、小学生児童で14件と少なくなっており、対処方法としては、「(同居者を含む)親族・知人に見てもらった」が就学前児童で19件、小学生児童で12件と最も多くなっています。

対処方法 (複数回答)

単位：件数	調査数	も親(同居者を含む)ら族・知人に見てもらった	テ事短期(シヨ)入所生活援助	利用した	保育施設、認可外	同行させた	仕方なく子どもを	たけ方なく子どもをさせ	その他	無回答
就学前児童全体	21	19	-	1	5	-	-	-	-	-
小学生児童全体	14	12	-	-	4	-	-	-	1	-

③対処方法別の年間泊数

泊りがけで家族以外に預けた年間平均泊数は、「(同居者を含む) 親族・知人に見てもらう」が就学前児童で6.47日、小学生児童で2.78日となっています。また、「仕方なく子どもを同行させた」は、就学前児童で5.25日、小学生児童で1.00日となっています。

対処方法別の年間泊数

単位：泊／年	就学前児童	小学生児童
	平均泊数	平均泊数
(同居者を含む) 親族・知人に見てもらう	6.47	2.78
短期入所生活援助事業(ショートステイ)を利用した	-	-
保育事業(認可外保育施設、ベビーシッターなど)を利用した	-	-
仕方なく子どもを同行させた	5.25	1.00
仕方なく子どもだけで留守番をさせた	-	-
その他	-	-

④子どもを親族・知人に泊りがけで預ける場合の困難度

子どもを親族・知人に見てもらったと回答した人は就学前児童で19件、小学生児童で12件となっており、困難度については、「非常に困難」と「どちらかという困難」を合わせた『困難』と回答した人は、就学前児童で11件、小学生児童で4件となっており、小学生児童よりも就学前児童のような低年齢の子どもを親族・知人に預けることの方が困難に感じている人が多くなっています。一方、「特に困難ではない」は就学前児童、小学生児童ともに8件となっています。

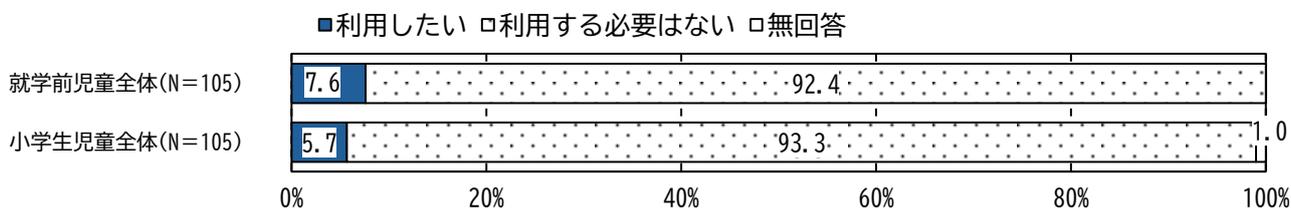
子どもを親族・知人に泊りがけで預ける場合の困難度

単位：件数	調査数	非常に困難	どちらかという困難	特に困難ではない	困難計
就学前児童全体	19	5	6	8	11
小学生児童全体	12	1	3	8	4

⑤短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用意向

子どもの預け先として短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用意向について、「利用したい」と回答した人は、就学前児童で7.6%、小学生児童で5.7%となっています。

短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用意向



⑥短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用希望年間泊数

短期入所生活援助事業（ショートステイ）を利用したいと回答した人の利用希望年間平均泊数は、就学前児童で4.88日、小学生児童で2.50日となっています。

短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用希望年間泊数

	平均 (泊/年)
就学前児童全体	4.88
小学生児童全体	2.50

10. 放課後の過ごし方について

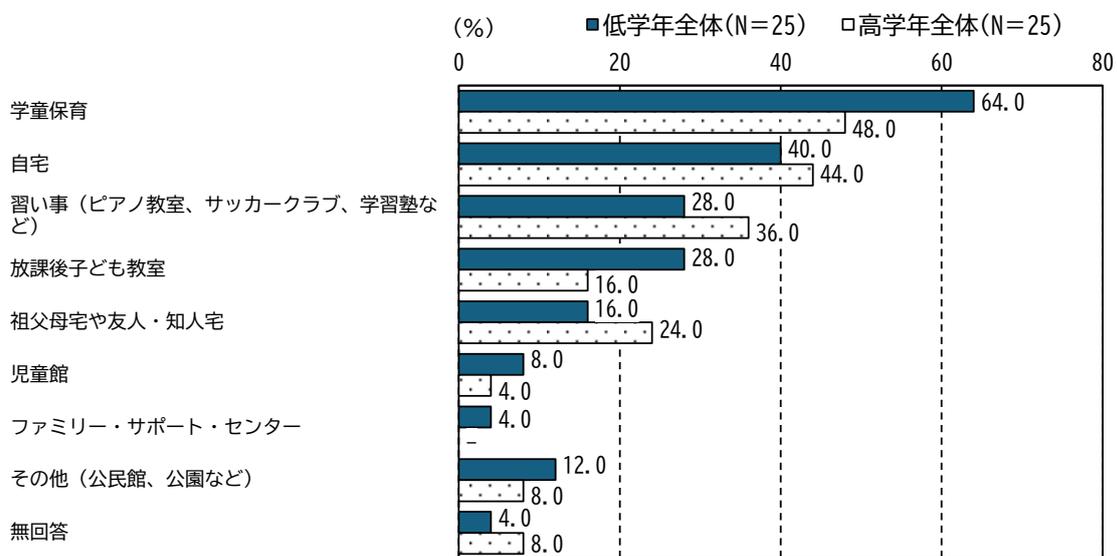
(1) 就学前児童（5歳以上）の意向

【就学前】

①就学前児童（5歳以上）が希望する放課後を過ごす場所

就学前児童（5歳以上）が小学校入学後に希望する放課後を過ごす場所について、「学童保育」（低学年 64.0%、高学年 48.0%）が最も多くなっており、次いで、「自宅」（低学年 40.0%、高学年 44.0%）の順となっています。低学年で「学童保育」と「放課後子ども教室」、高学年で「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」と「祖父母宅や友人・知人宅」が多い傾向となっています。

就学前児童（5歳以上）が希望する放課後を過ごす場所（複数回答）



②希望する日数

小学校入学後放課後を過ごす場所ごとに、1週間あたりに希望する平均日数をみると、最も希望が多い「学童保育」については、低学年で4.73日、高学年で4.91日となっています。

希望する日数

単位：日/週	就学前児童 (5歳以上)	
	低学年 平均日数	高学年 平均日数
自宅	4.33	4.67
祖父母宅や友人・知人宅	3.00	4.00
習い事	1.71	1.89
児童館	4.50	5.00
放課後子ども教室	3.50	3.25
学童保育	4.73	4.91
ファミリー・サポート・センター	2.00	-
その他	1.50	2.00

③放課後子ども教室の終了希望時間

就学前児童で、放課後子ども教室の利用意向がある人は低学年で7件、高学年で4件と少なくなっており、終了希望時間は、低学年では「18時台」（4件）が最も多くなっています。

高学年は、「17時台」と「18時台」（ともに2件）と回答しています。

放課後子ども教室の終了希望時間

単位：件数	調査数	17時前まで	17時台まで	18時台まで	19時台まで	20時以降まで
低学年全体	7	1	1	4	-	1
高学年全体	4	-	2	2	-	-

④学童保育の終了希望時間

就学前児童で、学童保育の利用意向がある人は低学年で16件、高学年で12件と少なくなっており、終了希望時間は「18時台」（低学年9件、高学年6件）が最も多くなっています。

学童保育の終了希望時間

単位：件数	調査数	17時前まで	17時台まで	18時台まで	19時台まで	20時以降まで	無回答
低学年全体	16	1	4	9	1	-	1
高学年全体	12	-	4	6	2	-	-

(2) 小学生児童の利用状況と意向

【小学生】

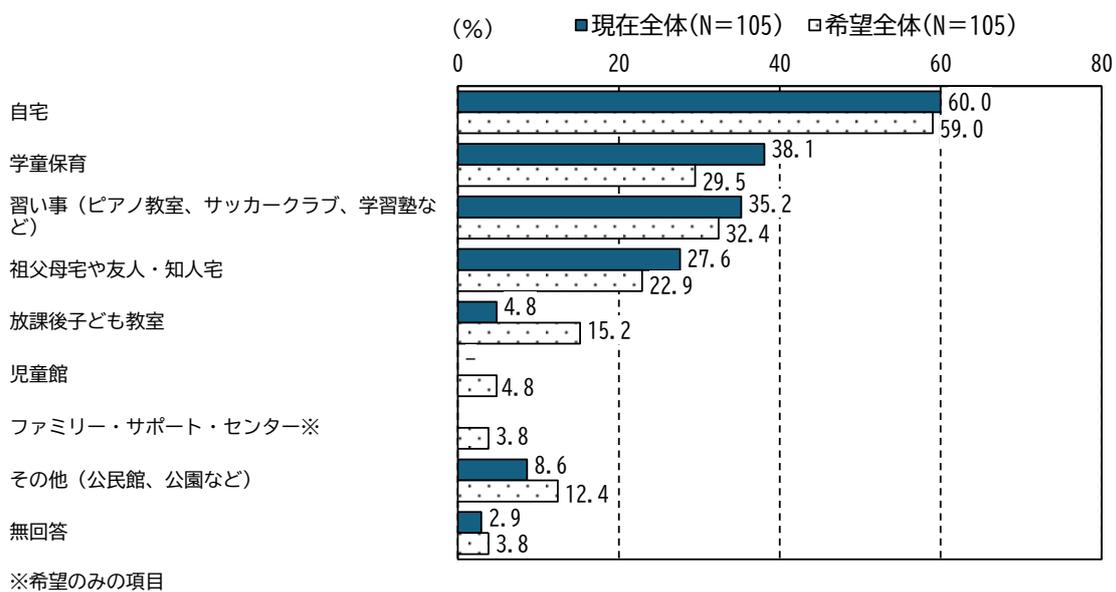
①小学生児童が放課後を過ごす場所

小学生児童が放課後を現在過ごしている場所について、「自宅」が（60.0%）が最も多く、次いで、「学童保育」（38.1%）、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（35.2%）の順となっています。

希望する場所について、「自宅」（59.0%）が最も多く、次いで、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（32.4%）、「学童保育」（29.5%）の順となっています。

「放課後子ども教室」は、希望（15.2%）が現在（4.8%）を大きく上回っています。

小学生児童が放課後を過ごす場所（複数回答）



②現在の日数と希望する日数

放課後に過ごす場所ごとの現在と希望の1週間あたりの平均日数をみると、最も利用状況が多い「自宅」について、現在は4.05日、希望は4.30日となっています。

また、現在「自宅」で過ごす児童が最も多くなっていますが、1週あたりの平均日数は「学童保育」が4.82日と最も多くなっています。

現在の日数と希望する日数

単位：日/週	小学生児童	
	現在 平均日数	希望 平均日数
自宅	4.05	4.30
祖父母宅や友人・知人宅	2.82	3.00
習い事	2.32	2.30
児童館	-	3.00
放課後子ども教室	2.00	3.13
学童保育	4.82	4.66
ファミリー・サポート・センター※	-	2.75
その他	3.29	3.90

※希望のみの項目

③放課後子ども教室の現在の利用終了時間と希望する利用終了時間

小学生児童で、放課後子ども教室を利用している人は現在 5 件、希望 16 件と少なくなっており、利用終了時間について、現在の回答は「17 時前」と「17 時台」（ともに 2 件）となっています。希望は「18 時台」（8 件）が最も多くなっています。

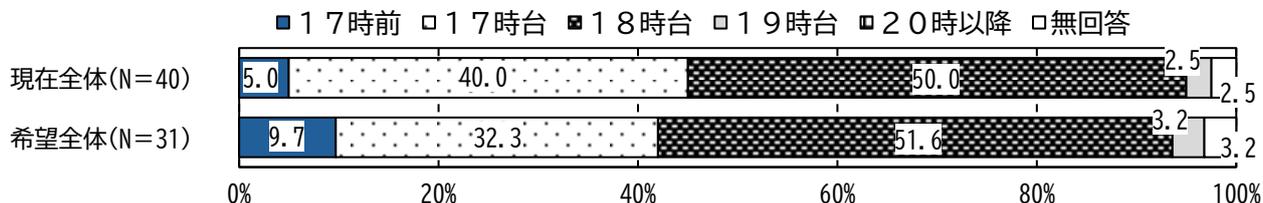
放課後子ども教室の現在の利用終了時間と希望する利用終了時間

単位：件数	調査数	17時前まで	17時台まで	18時台まで	19時台まで	20時以降まで	無回答
現在全体	5	2	2	-	-	-	1
希望全体	16	3	5	8	-	-	-

④学童保育の現在の利用終了時間と希望する利用終了時間

小学生児童で、放課後に学童保育を利用している児童の利用終了時間について、「18 時台」（現在 50.0%、希望 51.6%）が最も多く、次いで、「17 時台」（現在 40.0%、希望 32.3%）、「17 時前」（現在 5.0%、希望 9.7%）の順となっています。

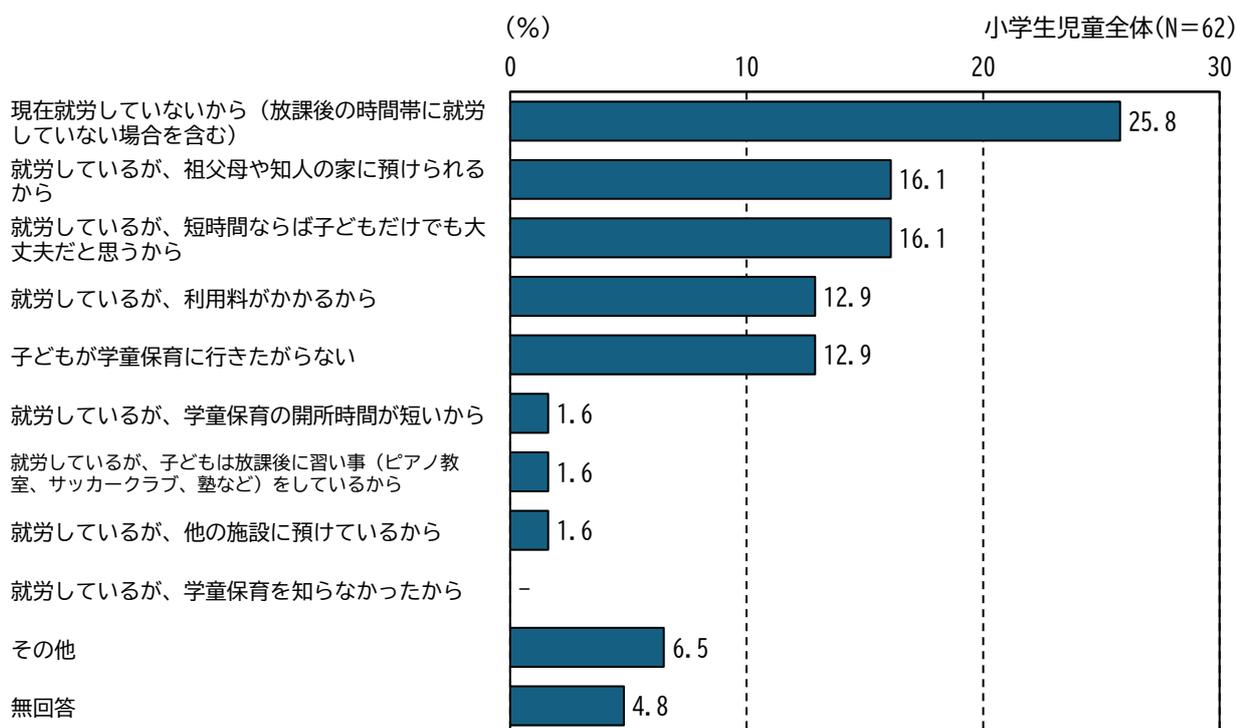
学童保育の現在の利用終了時間と希望する利用終了時間



⑤学童保育を利用していないもっとも大きな理由

小学生児童で、平日に学童保育を利用していない理由を尋ねたところ、「現在就労していないから（放課後の時間帯に就労していない場合を含む）」（25.8%）が最も多く、次いで、「就労しているが、祖父母や知人の家に預けられるから」と「就労しているが、短時間ならば子どもだけでも大丈夫だと思うから」（ともに 16.1%）の順となっています。

学童保育を利用していないもっとも大きな理由



1.1. 育児休業や短時間勤務制度などの職場の両立支援制度について

(1) 育児休業の取得について

【就学前】

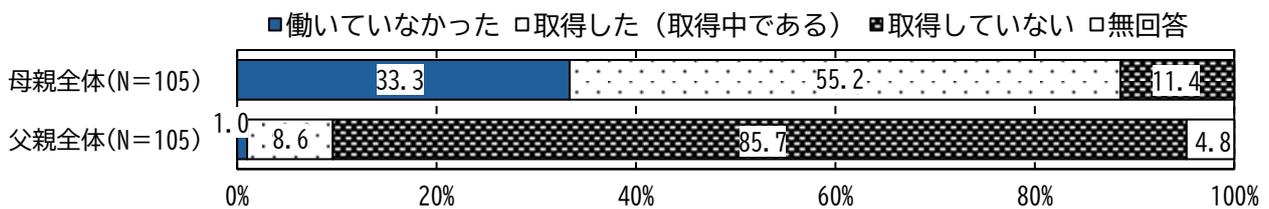
① 育児休業の取得状況

調査対象の就学前児童が生まれた時、母親の育児休業制度の取得について、「取得した（取得中である）」（55.2%）が最も多くなっています。

父親の育児休業制度の取得について、「取得していない」（85.7%）が8割以上を占めており、「取得した（取得中である）」（8.6%）を大きく上回っています。

母親と父親の取得率には大きな差がみられます。

育児休業の取得状況



② 育児休業を取得していない理由

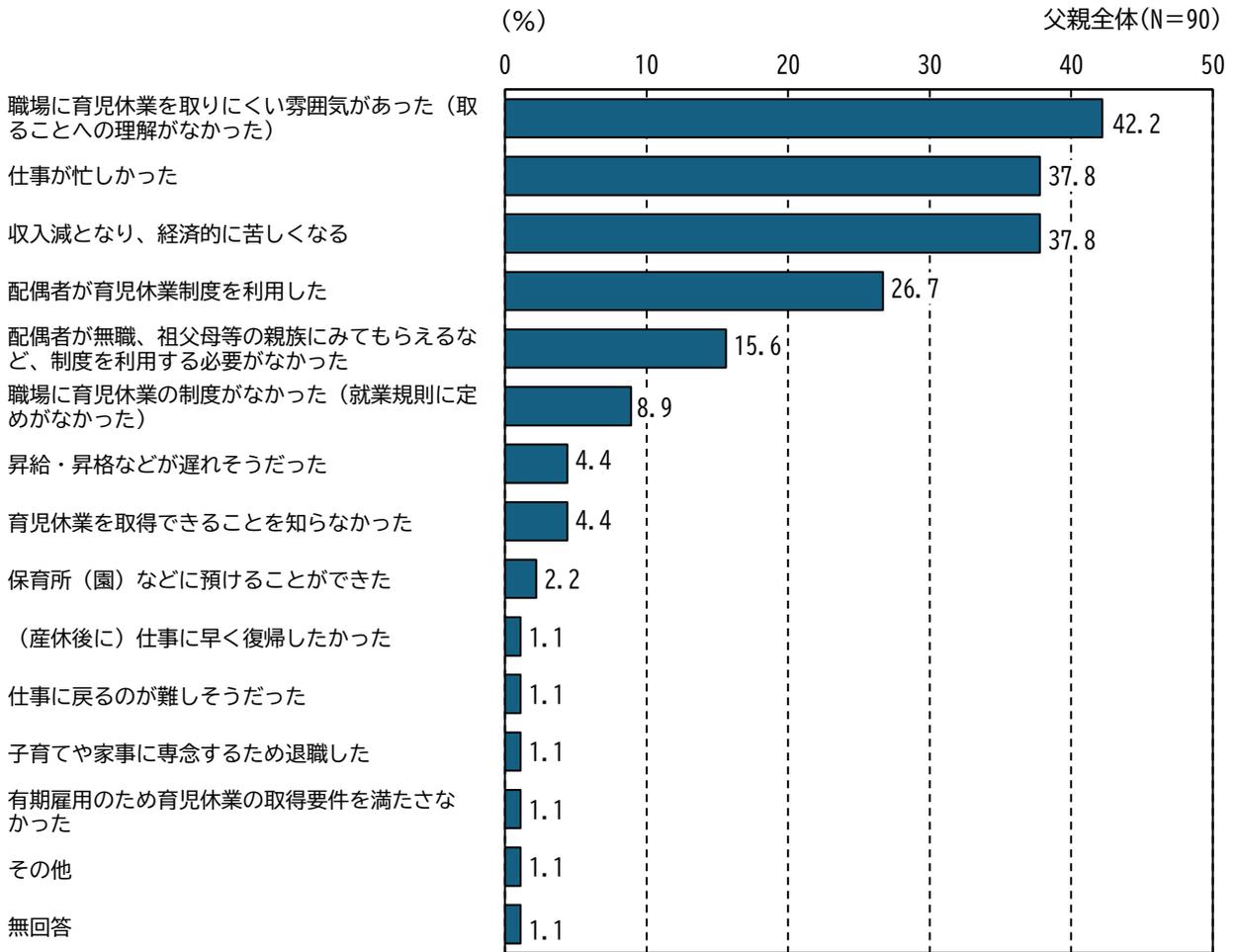
育児休業制度を取得していない母親は12件と少なくなっており、理由としては、「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」（6件）が最も多くなっています。

父親が育児休業を取得していない理由は「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった（取ることへの理解がなかった）」（42.2%）が最も多く、次いで、「仕事が忙しかった」と「収入減となり、経済的に苦しくなる」（ともに37.8%）の順となっています。

育児休業を取得していない理由（母親）

単位：件数	調査数	職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）	収入減となり、経済的に苦しくなる	子育てや家事に専念するため退職した	職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった（取ることへの理解がなかった）	仕事が忙しかった	配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった	帰りが遅かった	（産休後に）仕事に早く復帰したかった	仕事に戻るのが難しそうだった	昇給・昇格などが遅れそうだった	保育所（園）などに預けることができた	配偶者が育児休業制度を利用した	有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった	育児休業を取得できなかった	産前産後の休暇（産前6週間、産後8週間）を取得できることを知らず、退職した	その他	無回答
母親全体	12	6	2	2	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1

育児休業を取得していない理由（父親）



（２）育児休業からの職場復帰

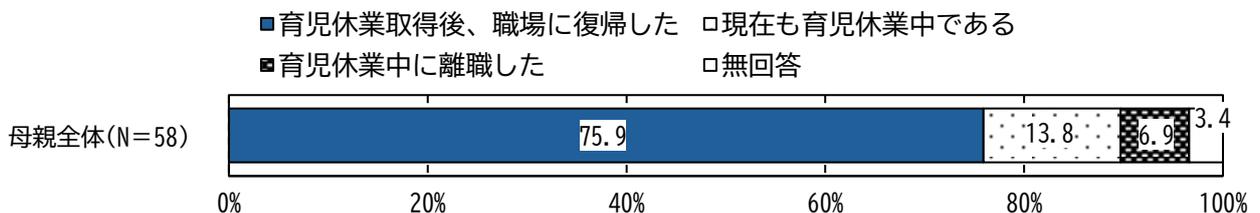
【就学前】

①職場復帰の状況

育児休業を取得した後の職場復帰について、母親では「育児休業取得後、職場に復帰した」（75.9%）が最も多くなっています。また、「育児休業中に離職した」も6.9%みられます。

父親では育児休業を取得した人は9件と少なくなっており、全員が「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答しています。

職場復帰の状況（母親）



職場復帰の状況（父親）

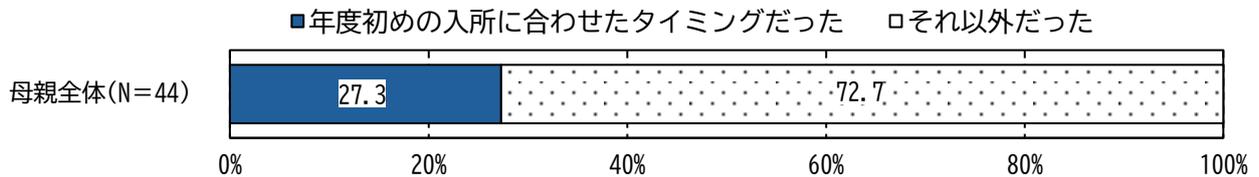
単位：件数	調査数	育児休業から職場復帰した	現在も育児休業中である	育児休業中に離職した
父親全体	9	9	-	-

②職場復帰した時のタイミング

育児休業から職場復帰したタイミングについて、母親では「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」は27.3%となっています。

父親は、全員が「それ以外だった」（9件）と回答しています。

職場復帰した時のタイミング（母親）



職場復帰した時のタイミング（父親）

単位：件数	調査数	年度初めの入所に合わせたタイミングだった	それ以外だった
父親全体	9	-	9

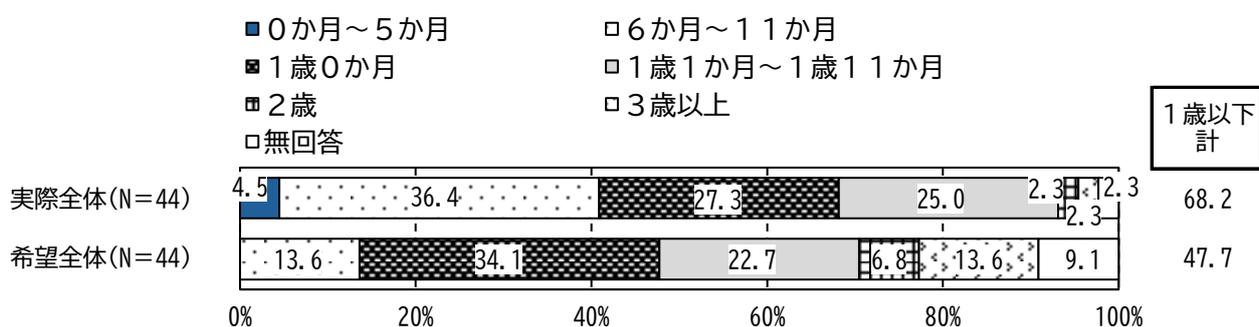
③職場復帰した時の子どもの年齢

母親が実際に育児休業から職場復帰した時の子どもの年齢は、「6か月～11か月」(36.4%)が最も多く、次いで「1歳0か月」(27.3%)、「1歳1ヶ月～1歳11か月」(25.0%)の順となっており、『1歳以下』(68.2%)が6割以上を占めています。

また、希望していた職場復帰時期の子どもの年齢は、「1歳0ヶ月」(34.1%)が最も多く、次いで、「1歳1ヶ月～1歳11ヶ月」(22.7%)、「6か月～11か月」と「3歳以上」(ともに13.6%)の順となっており、『1歳以下』(47.7%)は実際の復帰時期に比べて少なくなっています。

父親では、実際に職場復帰した時の子どもの年齢は「0ヶ月～5ヶ月」(実際8件、希望4件)が最も多くなっています。

職場復帰した時の子どもの年齢 (母親)



職場復帰した時の子どもの年齢 (父親)

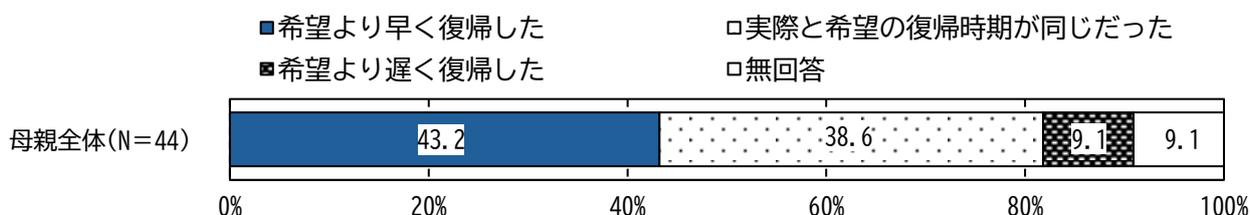
単位：件数	調査数	0か月～5か月	6か月～11か月	1歳0か月	1歳1か月～1歳11か月	2歳	3歳以上	無回答
実際全体	9	8	1	-	-	-	-	-
希望全体	9	4	1	3	-	-	-	1

④職場復帰した時期

職場復帰した時期について、母親では「希望より早く復帰した」(43.2%)が最も多く、次いで、「実際と希望の復帰時期が同じだった」(38.6%)、「希望より遅く復帰した」(9.1%)の順となっています。

父親では「希望より早く復帰した」(5件)が最も多くなっています。

職場復帰した時期 (母親)



職場復帰した時期 (父親)

調査数	希望より早く復帰した	実際と希望の復帰時期が同じだった	希望より遅く復帰した	無回答
9	5	3	-	1

⑤希望より早く復帰した理由

希望より早く復帰した母親は19件、父親は5件と少なくなっており、理由については、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」(母親6件、父親3件)が最も多くなっています。

希望より早く復帰した理由 (複数回答)

調査数	あつ経済的復帰する理由が早く	め(希望するに保育所)	せ節人事の異動や業務の	望配があつた家族の希	その他	無回答
19	6	5	2	-	7	4
5	3	1	1	-	1	-

⑥希望より遅く復帰した理由

希望より遅く復帰した母親は4件と少なくなっており、「希望する保育所に入れなかったため」(3件)が最も多くなっています。

希望より遅く復帰した理由(複数回答)

単位：件数	調査数	か(園)希望する保育所に入れなかったため	望配があつた家族の希望	な自分や子どもが思わしくなかつたため	か勢場の受け入れ態	たる子どもをみたくた	その他
母親全体	4	3	-	-	-	-	1

※父親該当なし

(3) 短時間勤務制度の利用について

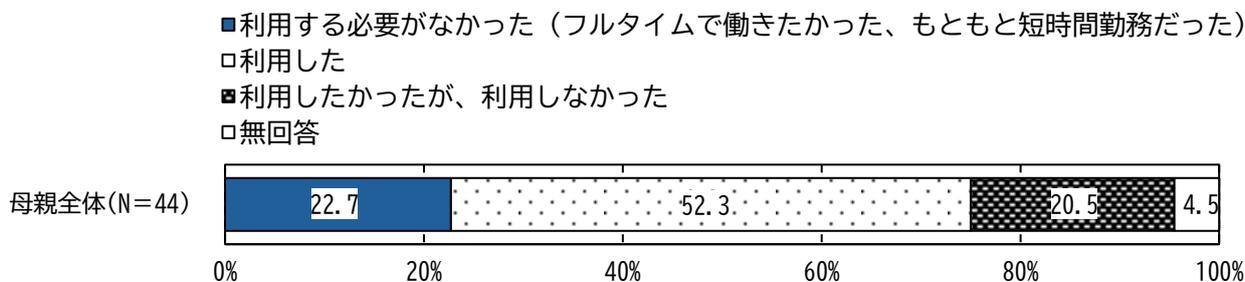
【就学前】

①短時間勤務制度の利用状況

育児休業から職場復帰した際の短時間勤務制度の利用について、母親では「利用した」(52.3%)が最も多くなっていますが、一方、「利用したかったが、利用しなかった」(20.5%)も約2割程度みられます。

父親では「利用する必要がなかった(フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった)」(6件)が最も多くなっています。

短時間勤務制度の利用状況(母親)



短時間勤務制度の利用状況(父親)

単位：件数	調査数	時間か(園)勤務だつた(もともと短時間勤務だった)	利用した	利用しなかったが、利用したかった	無回答
父親全体	9	6	-	2	1

②短時間勤務制度を利用できなかった理由

母親が短時間勤務制度を利用できなかった母親は9件、父親は2件と少なくなっており、理由について、母親では「短時間勤務にすると給与が減額される」(5件)が最も多くなっています。

父親は「短時間勤務にすると給与が減額される」と「職場に短時間勤務制度を利用しにくい雰囲気があった」(ともに1件)という回答になっています。

短時間勤務制度を利用できなかった理由(複数回答)

単位：件数	調査数	短時間勤務にすると給与が減額される	職場に短時間勤務制度を利用しにくい雰囲気があった	仕事が多忙だった	職場に短時間勤務制度がなかった(就業規則に定めがなかった)	子育てや家事に専念するため退職した	短時間勤務にすると保育所の入所申請の優先順位が下がる	短時間勤務制度を利用できなかった	配偶者が育児休業制度や短時間勤務制度を利用した	配偶者が無職、祖父母等、子どもをみてくれる人がいた	その他
母親全体	9	5	4	4	2	-	-	-	-	-	1
父親全体	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-

(4) 子どもが1歳まで育児休業を取得する意向

【就学前】

現在、育児休業中である母親は8件と少なくなっており、子どもが1歳になった時に必ず利用できる事業がある場合、それまでに育児休業を取得することへの意向としては、全員が「1歳になるまで育児休業を取得したい」と回答しています。

子どもが1歳まで育児休業を取得する意向

単位：件数	調査数	1歳になるまで育児休業を取得したい	1歳になる前に復帰したい
母親全体	8	8	-

※父親該当なし

12. こども誰でも通園制度について

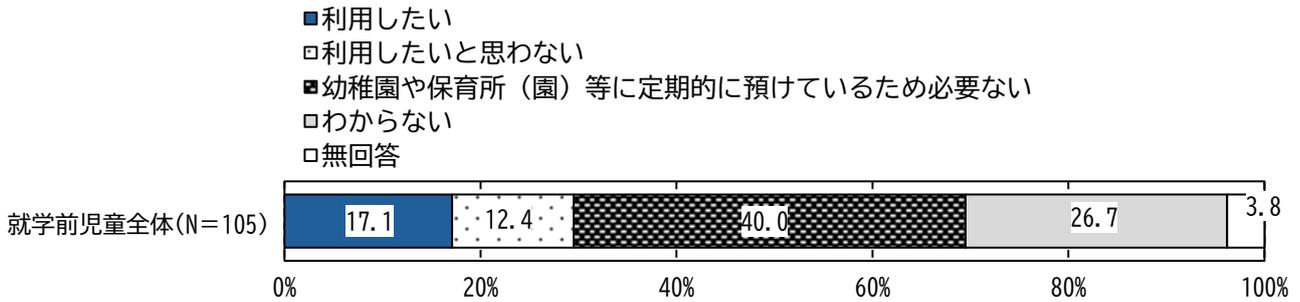
(1) 乳幼児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）の利用について

【就学前】

①乳幼児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）の利用意向

乳幼児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）の利用意向について、「利用したい」と回答した人は17.1%となっています。

乳幼児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）の利用意向



②希望する利用開始時間

乳幼児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）を利用したいと回答した人は18件と少なくなっており、希望する利用開始時間は「9時台」（8件）が最も多くなっています。

希望する利用開始時間

単位：件数	調査数	7時台	8時台	9時台	10時以降	無回答
就学前児童全体	18	1	5	8	2	2

③希望する利用終了時間

希望する利用終了時間は「17時台」（9件）が最も多くなっています。

希望する利用終了時間

単位：件数	調査数	15時台	16時台	17時台	18時台	無回答
就学前児童全体	18	3	2	9	2	2

④希望する利用回数

希望する1か月あたりの平均利用回数は9.63回となっています。

希望する利用回数

	平均 (回/月)
就学前児童全体	9.63

13. 子育て全般について

(1) 子育ての楽しさ

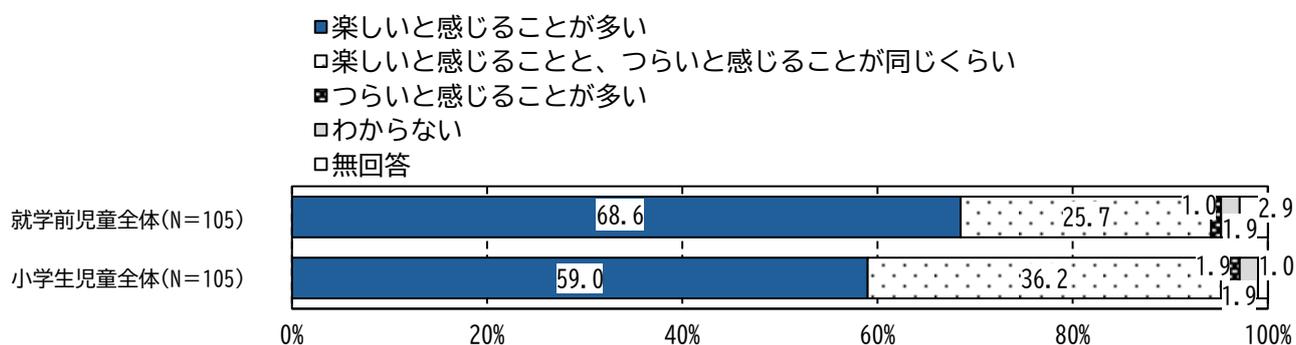
【就学前・小学生】

子育ての楽しさについてどう感じるか尋ねたところ「楽しいと感じることが多い」（就学前児童 68.6%、小学生児童 59.0%）が最も多くなっており、次いで、「楽しいと感じることと、つらいと感じることが同じくらい」（就学前児童 25.7%、小学生児童 36.2%）の順となっています。

「楽しいと感じることと、つらいと感じることが同じくらい」は、小学生児童の方が就学前児童より多くなっており、子どもの成長とともにつらいと感じる度合いが増す傾向となっています。

「つらいと感じることが多い」は1%台と少なくなっています。

子育ての楽しさ



(2) 子育てに関する悩み

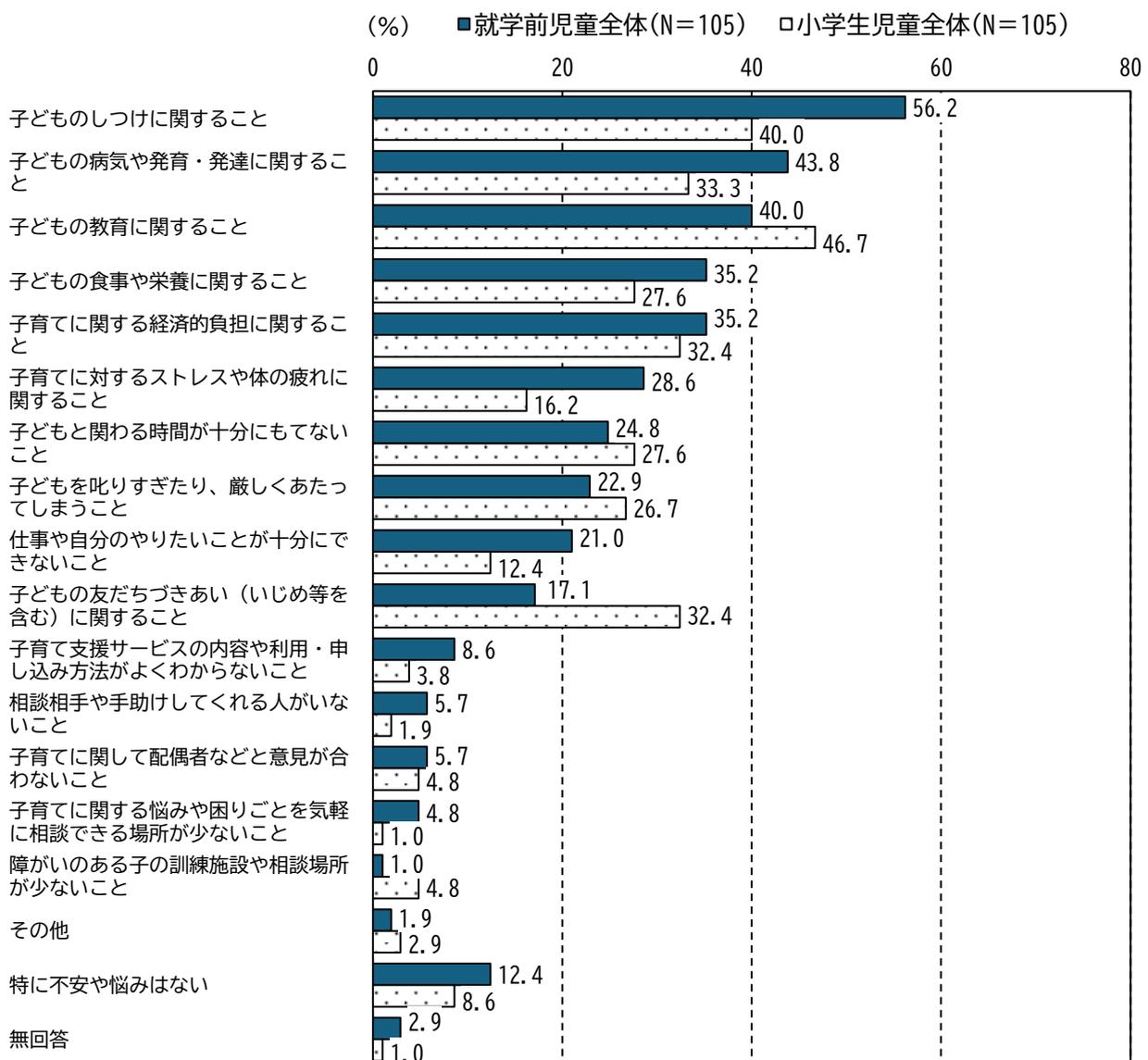
【就学前・小学生】

子育てに関する悩みについて、就学前児童では「子どものしつけに関すること」(56.2%)が最も多く、次いで、「子どもの病気や発育・発達に関すること」(43.8%)、「子どもの教育に関すること」(40.0%)の順となっています。

小学生児童では「子どもの教育に関すること」(46.7%)が最も多く、次いで、「子どものしつけに関すること」(40.0%)、「子どもの病気や発育・発達に関すること」(33.3%)の順となっています。就学前児童、小学生児童の保護者ともに、子どものしつけや教育、発育・発達に関する悩みが多くなっています。

就学前児童では「子どものしつけに関すること」、「子どもの病気や発育・発達に関すること」、「子どもの食事や栄養に関すること」、「子育てに対するストレスや体の疲れに関すること」、「仕事や自分のやりたいことが十分にできないこと」、小学生児童では「子どもの教育に関すること」、「子どもの友だちづきあい(いじめ等を含む)に関すること」が多くなっています。

子育てに関する悩み(複数回答)

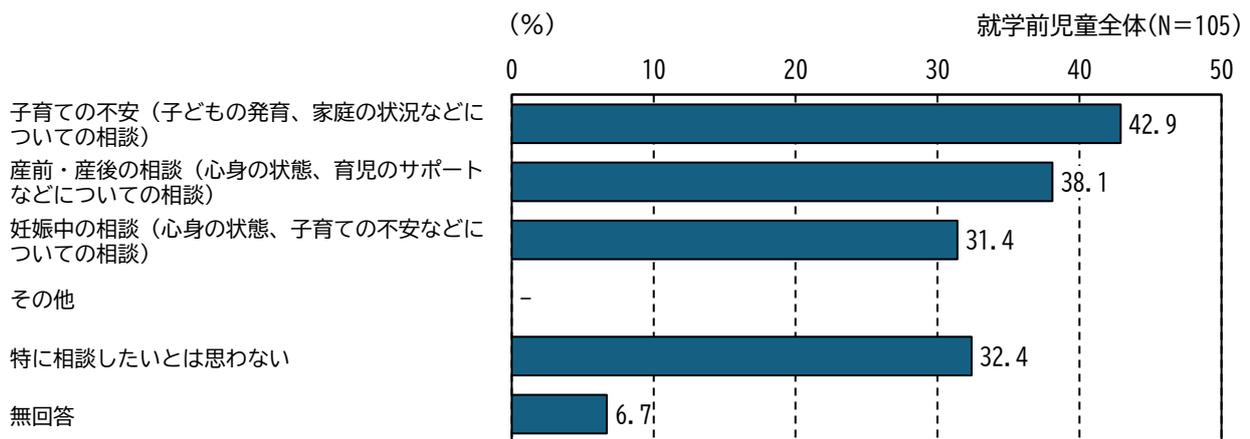


(3) 妊娠・出産・育児に対応する相談窓口への相談内容

【就学前】

母子健康手帳交付時に保健師・助産師から助言や情報提供を受けたり、必要に応じ相談にのってくれる場所（相談窓口）があった場合の相談内容について、「子育ての不安（子どもの発育、家庭の状況などについての相談）」（42.9%）が最も多く、次いで「産前・産後の相談（心身の状態、育児のサポートなどについての相談）」（38.1%）、「妊娠中の相談（心身の状態、子育ての不安などについての相談）」（31.4%）の順となっています。

妊娠・出産・育児に対応する相談窓口への相談内容（複数回答）



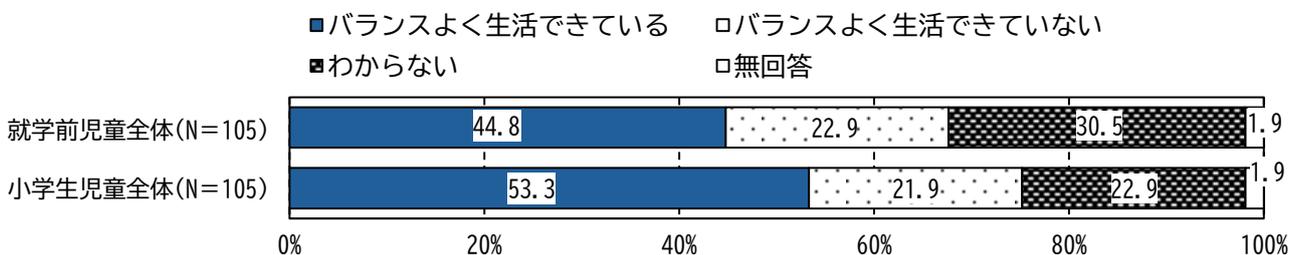
(4) 「仕事」と「家庭生活」のバランス

【就学前・小学生】

① 「仕事」と「家庭生活」のバランス

「仕事」と「家庭生活」のバランスがとれた生活ができているか尋ねたところ、「バランスよく生活できている」は、小学生児童（53.3%）の方が就学前児童（44.8%）よりも多くなっています。

「仕事」と「家庭生活」のバランス



②「仕事時間」と「家事（育児）時間」と「プライベート時間」の優先度

「仕事時間」と「家事（育児）時間」と「プライベート時間」の優先度について、現実と理想を尋ねたところ、就学前児童では、現実として「家事（育児）時間を優先」（70.5%）が最も多く、次いで、「仕事時間を優先」（21.0%）となっており、「プライベート時間を優先」という回答はありませんでした。

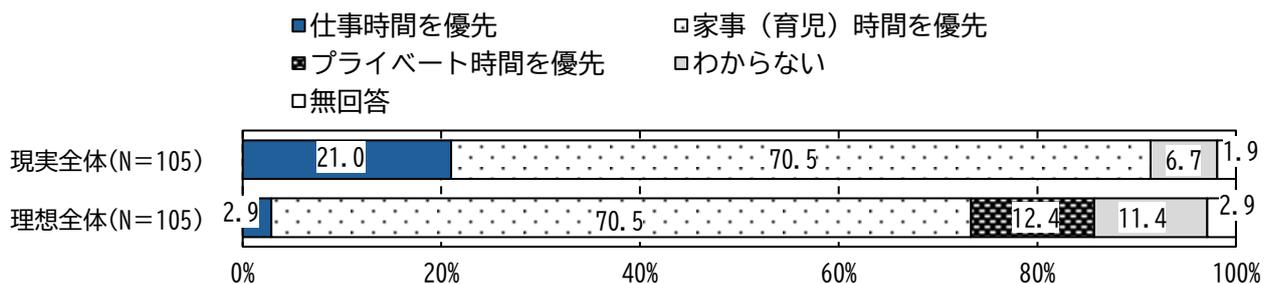
また、理想としては「家事（育児）時間を優先」（70.5%）が最も多く、次いで「プライベート時間を優先」（12.4%）、「仕事時間を優先」（2.9%）の順となっています。

小学生児童では、現実として「家事（育児）時間を優先」（42.9%）が最も多く、次いで、「仕事時間を優先」（41.9%）となっており、「プライベート時間を優先」（1.9%）はかなり低くなっています。

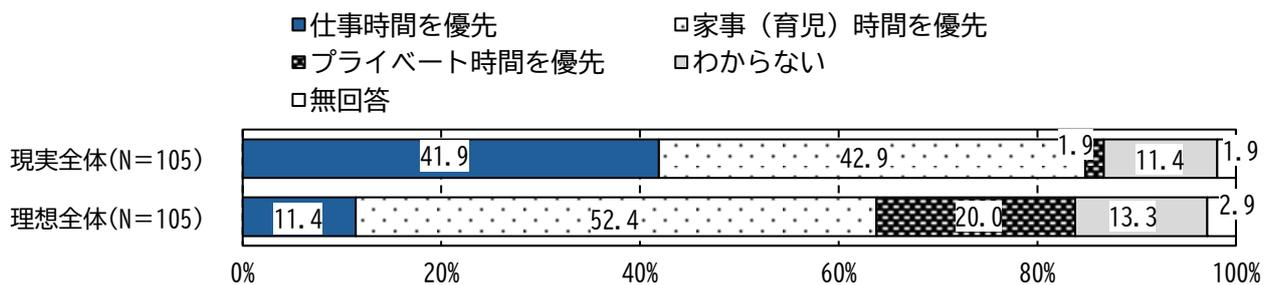
また、理想としては「家事（育児）時間を優先」（52.4%）が最も多く、次いで「プライベート時間を優先」（20.0%）、「仕事時間を優先」（11.4%）の順となっています。

現実として、就学前児童、小学生児童ともに「仕事時間を優先」が理想を大きく上回っています。現実の生活と理想の生活とのずれが大きく、仕事と家庭との両立に向けた取り組みが求められています。

「仕事時間」と「家事（育児）時間」と「プライベート時間」の優先度（就学前児童）



「仕事時間」と「家事（育児）時間」と「プライベート時間」の優先度（小学生児童）

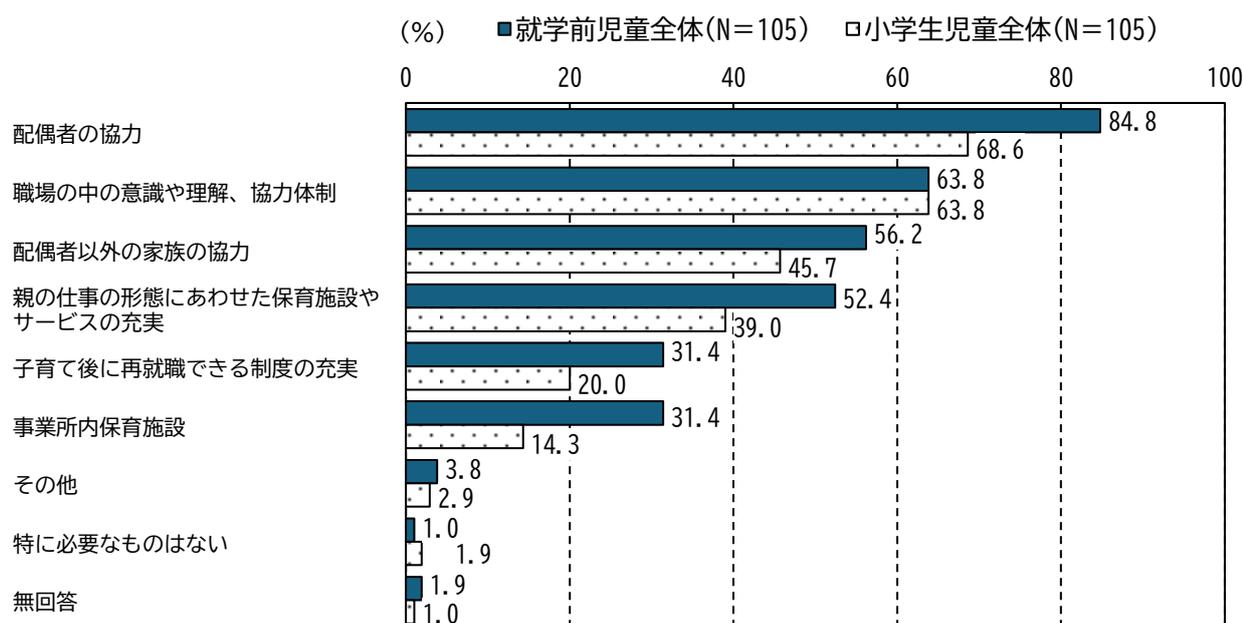


③仕事と子育てを両立させるために必要なこと

仕事と子育てを両立させるために必要なことについて、「配偶者の協力」(就学前児童 84.8%、小学生児童 68.6%) が最も多く、次いで、「職場の中の意識や理解、協力体制」(就学前児童、小学生児童ともに 63.8%)、「配偶者以外の家族の協力」(就学前児童 56.2%、小学生児童 45.7%) の順となっています。家族や職場の人など、子育て中の保護者に関わる人々の協力が重要となっています。

「親の仕事の形態にあわせた保育施設やサービスの充実」「子育て後に再就職できる制度の充実」「事業所内保育施設」など、保育施設の整備や制度・サービスの充実については、就学前保護者が必要とする人が多くなっています。

仕事と子育てを両立させるために必要なこと (複数回答)



(5) 子どもを守る安全対策

【就学前・小学生】

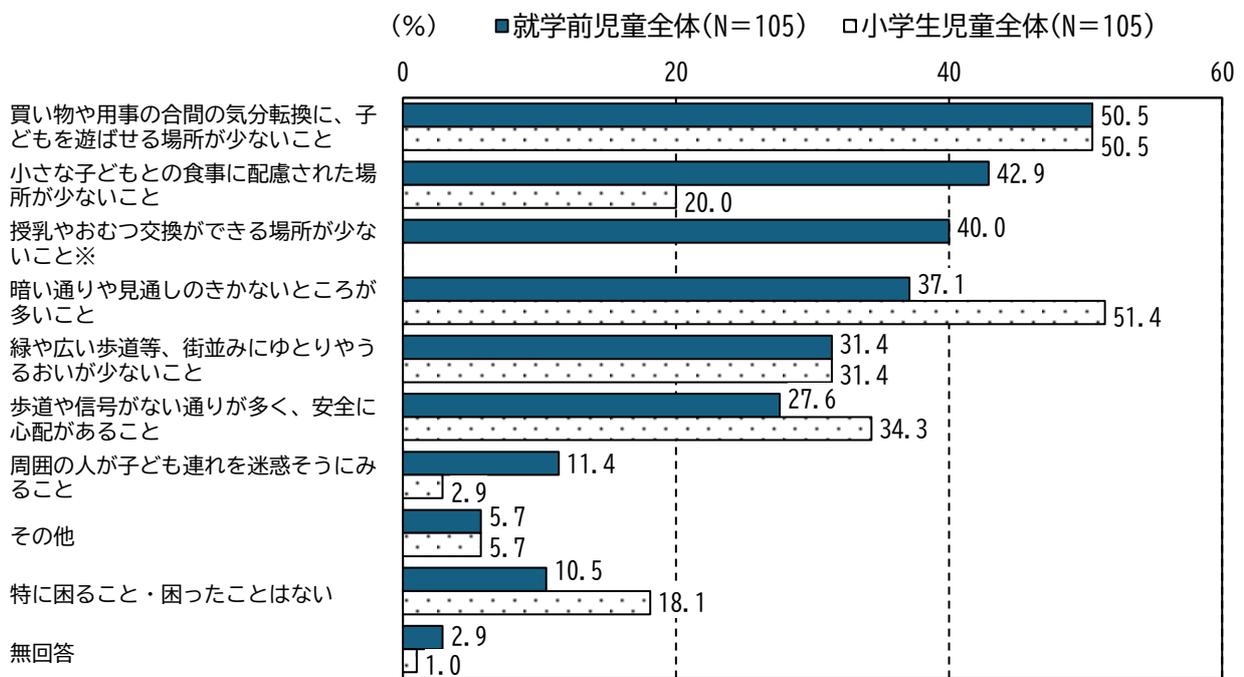
①子どもとの外出の際に、困ること・困ったこと

子どもとの外出の際に、困ること・困ったことについて、就学前児童では「買い物や用事の合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所が少ないこと」(50.5%)が最も多く、次いで、「小さな子どもとの食事に配慮された場所が少ないこと」(42.9%)、「授乳やおむつ交換ができる場所が少ないこと」(40.0%)の順となっています。

小学生児童では「暗い通りや見通しのきかないところが多いこと」(51.4%)が最も多く、次いで「買い物や用事の合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所が少ないこと」(50.5%)、「歩道や信号がない通りが多く、安全に心配があること」(34.3%)の順となっています。

就学前児童では外出先で安心して過ごせる場所が少ないこと、小学生児童では防犯や交通安全に関することで困っている人が多い傾向となっています。

子どもとの外出の際に、困ること・困ったこと (複数回答)



※就学前児童のみの項目

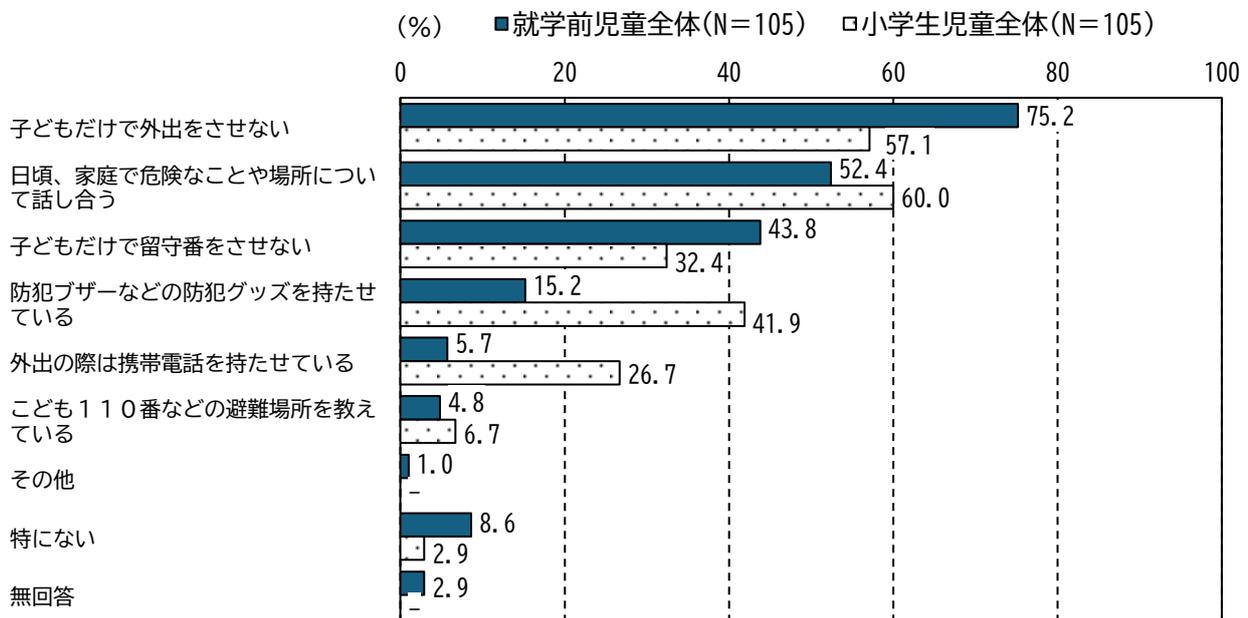
②子どもが犯罪に巻き込まれないために気をつけていること

子どもが犯罪に巻き込まれないために気をつけていることは、就学前児童では「子どもだけで外出させない」(75.2%)が最も多く、次いで、「日頃、家庭で危険なことや場所について話し合う」(52.4%)、「子どもだけで留守番をさせない」(43.8%)の順となっています。

小学生児童では「日頃、家庭で危険なことや場所について話し合う」(60.0%)が最も多く、次いで、「子どもだけで外出をさせない」(57.1%)、「防犯ブザーなどの防犯グッズを持たせている」(41.9%)の順となっています。

放課後の過ごし方として、学童保育や習い事などに通わず、自宅において子どもだけで過ごしている状況も多くみられます。子どもの登下校時の見守りや保護者の帰宅まで近所の人子どもを預かるなど、住民互助組織等による子どもの安全対策に取り組むことも必要です。

子どもが犯罪に巻き込まれないために気をつけていること（複数回答）

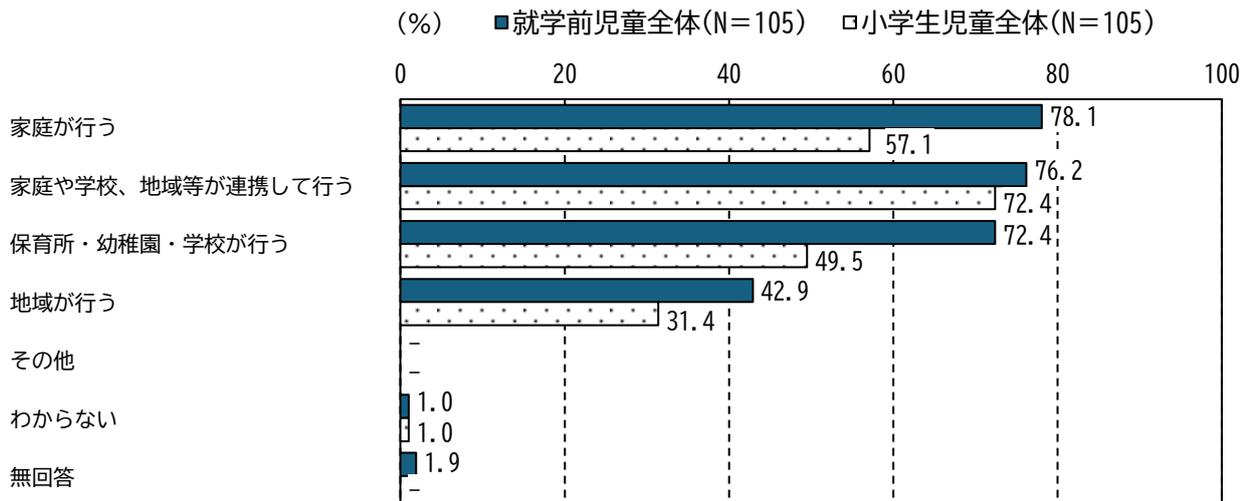


③交通安全教育は誰が行うのが良いと思うか

子どもの交通安全教育を行う環境として望ましいのは、就学前児童では「家庭が行う」(78.1%)が最も多く、次いで、「家庭や学校、地域等が連携して行う」(76.2%)、「保育所・幼稚園・学校が行う」(72.4%)の順となっています。

小学生児童では「家庭や学校、地域等が連携して行う」(72.4%)が最も多く、次いで、「家庭が行う」(57.1%)、「保育所・幼稚園・学校が行う」(49.5%)の順となっています。

交通安全教育は誰が行うのが良いと思うか（複数回答）

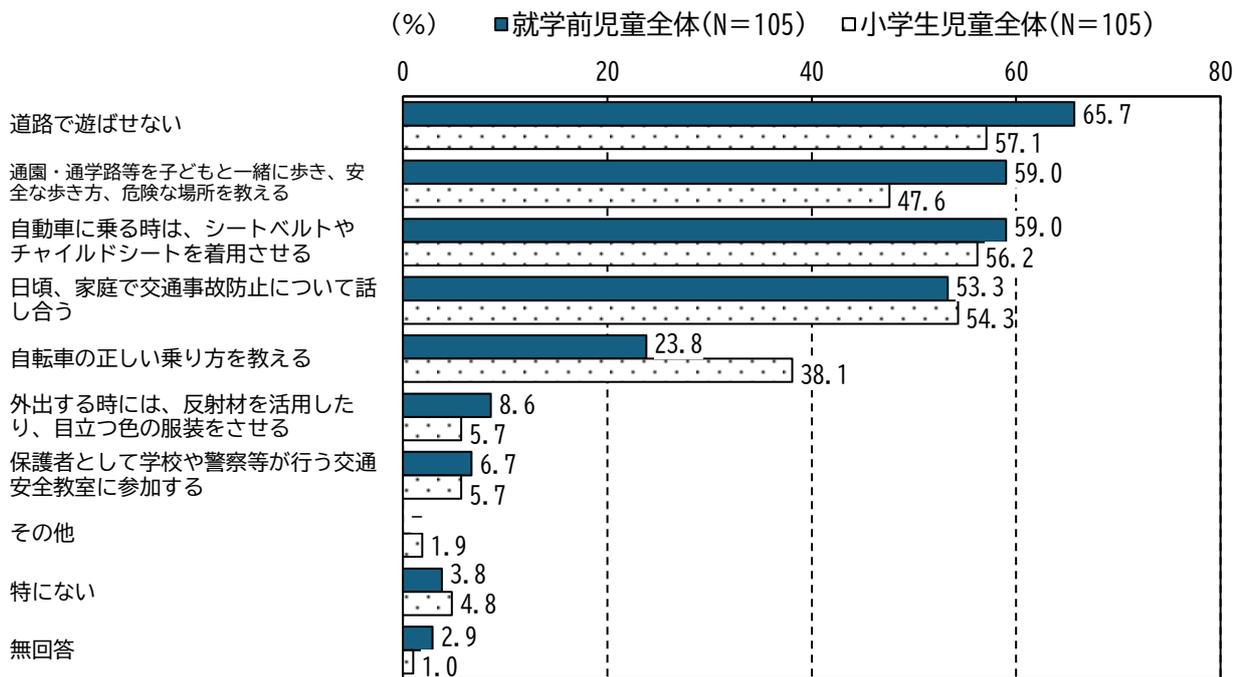


④子どもを交通事故から守るため、日頃心がけていること

子どもを交通安全から守るため、日頃心がけていることは、就学前児童では「道路で遊ばせない」(65.7%)が最も多く、次いで、「通園・通学路等を子どもと一緒に歩き、安全な歩き方、危険な場所を教える」と「自動車に乗る時は、シートベルトやチャイルドシートを着用させる」(ともに59.0%)の順となっています。

小学生児童では「道路で遊ばせない」(57.1%)が最も多く、次いで、「自動車に乗る時は、シートベルトやチャイルドシートを着用させる」(56.2%)、「日頃、家庭で交通事故防止について話し合う」(54.3%)の順となっています。

子どもを交通事故から守るため、日頃心がけていること（複数回答）



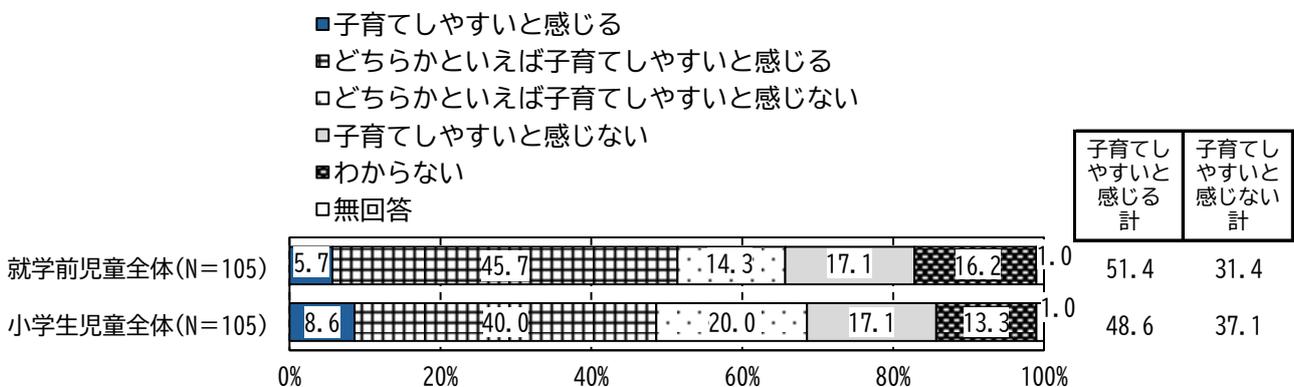
(6) 鞍手町の子育てのしやすさ

【就学前・小学生】

町の子育てのしやすさについて、「子育てしやすいと感じる」(就学前児童5.7%、小学生児童8.6%)と「どちらかといえば子育てしやすいと感じる」(就学前児童45.7%、小学生児童40.0%)を合わせた『子育てしやすいと感じる』割合は、就学前児童で51.4%、小学生児童で48.6%となっています。

一方、「どちらかといえば子育てしやすいと感じない」(就学前児童14.3%、小学生児童20.0%)と「子育てしやすいと感じない」(就学前児童、小学生児童ともに17.1%)を合わせた『子育てしやすいと感じない』割合は、就学前児童で31.4%、小学生児童で37.1%となっており、小学生児童の方が就学前児童よりも多くなっています。

鞍手町の子育てのしやすさ



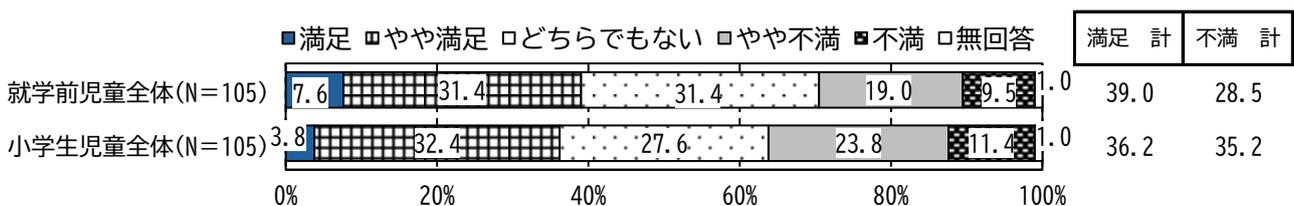
(7) 子育て環境や支援の満足度

【就学前・小学生】

町の子育て環境や支援の満足度について、「満足」(就学前児童7.6%、小学生児童3.8%)と「やや満足」(就学前児童31.4%、小学生児童32.4%)を合わせた『満足』の割合は、就学前児童で39.0%、小学生児童で36.2%となっています。

一方、「やや不満」(就学前児童19.0%、小学生児童23.8%)と「不満」(就学前児童9.5%、小学生児童11.4%)を合わせた『不満』の割合は、就学前児童で28.5%、小学生児童で35.2%となっており、小学生児童の方が就学前児童よりも多くなっています。

子育ての環境や支援への満足度



(8) 子育てに関して町に期待すること

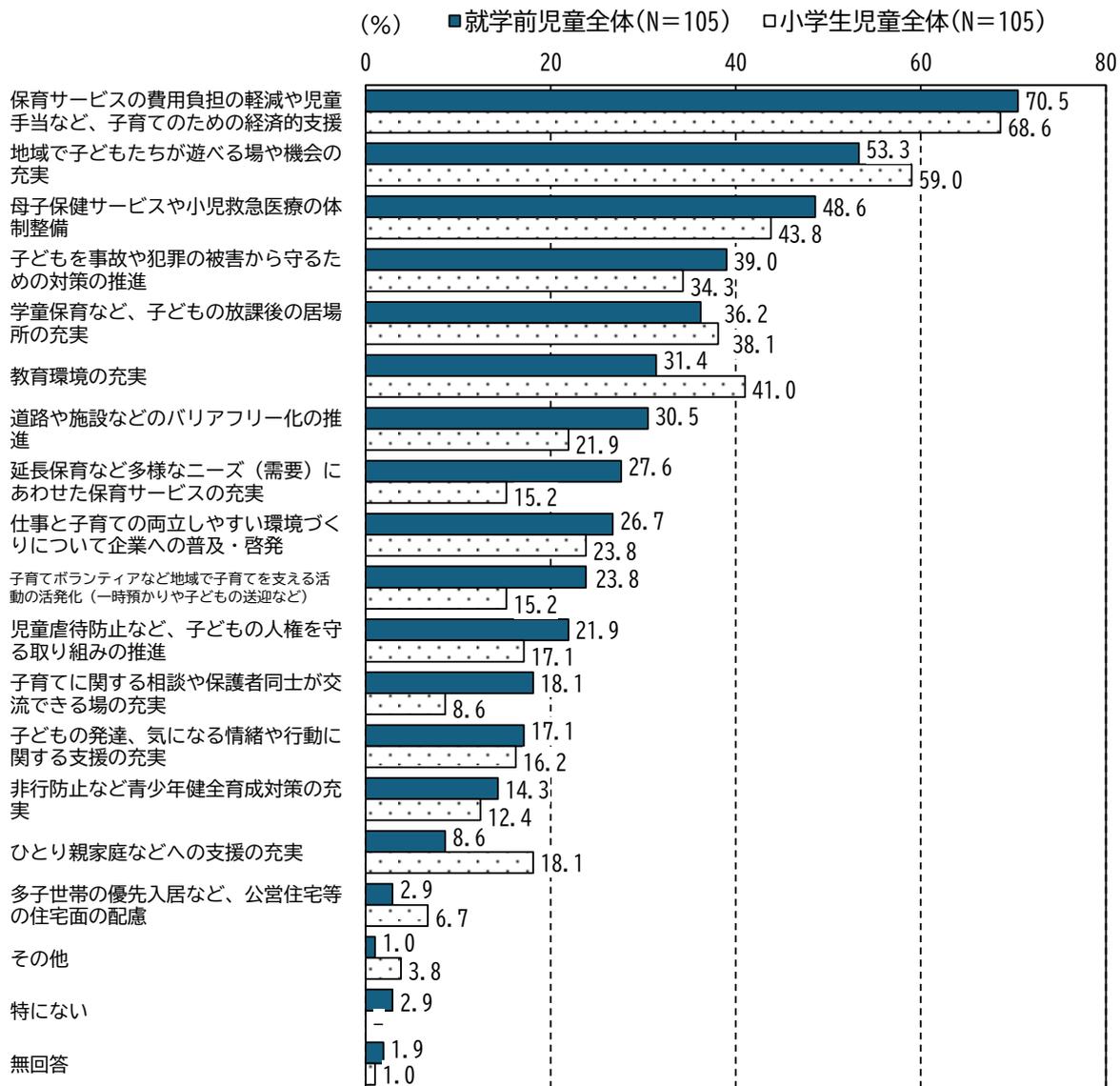
【就学前・小学生】

子育てに関して町に期待することは、「保育サービスの費用負担の軽減や児童手当など、子育てのための経済的支援」(就学前児童 70.5%、小学生児童 68.6%) が最も多く、次いで、「地域で子どもたちが遊べる場や機会の充実」(就学前児童 53.3%、小学生児童 59.0%)、「母子保健サービスや小児救急医療の体制整備」(就学前児童 48.6%、小学生児童 43.8%) の順となっています。

多くの項目で、就学前児童の方が小学生児童の割合を上回っており、「道路や施設などのバリアフリー化の推進」、「延長保育など多様なニーズ(需要)にあわせた保育サービスの充実」、「子育てボランティアなど地域で子育てを支える活動の活発化(一時預かりや子どもの送迎など)」、「子育てに関する相談や保護者同士が交流できる場の充実」は就学前児童の割合が特に多くなっています。

一方、「地域で子どもたちが遊べる場や機会の充実」、「教育環境の充実」、「ひとり親家庭などへの支援の充実」は小学生児童の割合が多くなっています。

子育てに関して町に期待すること(複数回答)



IV. 自由回答

IV. 自由回答

児童の保護者の方から様々なご意見が寄せられました。なお、記入された内容については、誤字・脱字の修正以外、原文のまま掲載しています。

1. 学校・教育について

【就学前児童】

意見
小学校区がわからなかったです（弥生住みです）。これから学校が合併するなら、スクールバスをお願いします。小さい子の足で、2キロ近く狭い歩道を歩かせるのは不安すぎます。トラックも多いし、交通量も多いので心配。
近くに子どもが少ないため、小学校に入学した際の登下校で1人になる時間が長いことが心配です。人の通りも少ないため、犯罪や事故に巻き込まれないか等の不安もあり、月額制でもいいので小学校のバスが全地域に出たら安心だなと感じます。
南小の正門側の木が生い茂っていて危険です。事故が起きないか心配になります。周辺の環境も気にしてもらえると助かります。
小学校統合の際、全地域をスクールバスにしてください。小学生が重たいランドセルを持って、暑い日も寒い日も3キロ以上の道を歩いて登校することが現実的か考えて下さい。これだけ気候が変わり、考え方も変わっているのに、4キロまで徒歩圏内なんて決まりは有り得ない。中学も同じく。まだ自転車通学が認められてる分いいが、天気の悪い日や暑い、寒い日は送迎しないといけない。結局は親が送り迎えをしたらいいという考えなのか、バス通学の子との差がありすぎる！子どもにも親にも負担もがかかっていることを知って、改善してほしい。「子ども達のことを考えて統合」って言っているが、そうとは思えない。
現在、子育てをしていない老人が役職をし、小学校の統合について決めたりしている。現に今子育てをしていないのに、その状況がわかるわけがない。簡単に小学校統合の場所やスクールバスの地域などを決めないでほしい。
小学校も合併すると伺っていますが、あまり大人数のクラスに馴染めない子どももいると思います。そのあたりの対策も考えて頂けるといいと思います。
将来、小学校が合併したら剣北校区はバスがないらしく、2キロちょっとの距離になるので真夏などは特に心配。結局、真夏などは、バスがなければ車で送り迎えになるんだろうなと思う。

【小学生児童】

意見
新設の小学校の通学バスは、剣北小地域は対象外とのことだったが、ここ数年の夏はかなり暑いので検討し直してほしい。
教育環境（教育レベル、設備など）の向上導など、安心して子育てできる環境イメージを整えてほしいです。
暑い日が多い中、隣の校区までの徒歩で心配しております。スクールバスは利用できないのか？保護者の送迎が多いのも、通学路に小学生が少なくて心配です。
運動の習い事の種類も豊富です。
各小学校は児童の数が少ない地域があるにも関わらず、利権などいろいろとあるのでしょうか、統合の話が進むのが遅すぎたように感じます。
中央公民館で行う習い事（そろばん、英語等）をもっと増やしたら行きやすいかも。近いので。
中学校のバス通学について、今は徒歩圏内（南小と北小）はバス利用ができませんが、全員バス利用を可能にしてほしい。もちろん利用料は取るべきだと思います。毎年、天候の悪化（雪や大雨で登校時間の遅れや早帰り）で急な時間変更がありますが、バス対応の子は登下校の心配なくいいですが、徒歩圏内の子は親の送迎が必要です。働いていると登校時間の変更や早帰りに対応できません。大雨や大雪の中、歩いて帰ることになります。子ども達の安全のためにも、ぜひバスの利用を考えて頂きたいです。
給食費について、引き落とし口座が郵便局しか使えないのは不便です。
これからも豊かに続いてほしいなと思うので、教育環境の充実などをよろしくお願いします。
小学校が統合したら通学にかなり時間がかかるのに、うちの地区はバスが通らないと聞いて心配です。

【小学生児童】

意見
<p>来年、新小学校の建設と聞いています。子どもが南小のため、仮設の学校になるということで、仮設学校の環境を知りたい。近年の猛暑の中、仮設で通常授業ができるのか？寒さ対策についても同様です。仮設する費用を考えると、北小学校に入れてもらい、遠方者はシャトルバスで運用などできないのか？税金の無駄遣いだと思う。とにかく子どもの仮設学校での環境が心配です。どのようになるか、具体的な説明、対策案をしっかりと周知してほしい。この声が役場の上層部へ届くことを願っています。周知、対策がなければ問い合わせします。</p>
<p>学校は校長先生が変わり、とても明るくて良い環境になっていると感じています。北小ならではの餅つきや学習発表会がなくなって少し寂しいですが、学校の先生の対応は有り難いです。ありがとうございます。鞍手町から、学校の先生への慰労費を出してほしいです。鞍手町もひとり親への支援はして頂いていますが、みんな一人ひとり同じ子どもには変わらないので、子どもが喜ぶ行事や例、観劇、映画、スポーツ大会など、外部からの刺激などを計画し、授業に取り入れて頂けると先生の負担軽減、子どもの視野の広がり、将来の夢へのステップにもつながると思います。また、家庭の負担になり子どものやりたいを可能にできる支援や、日程調整などをする。</p>

2. 学童保育について

【小学生児童】

意見
<p>学童のリフォームまたは建て替えなど、あげればきりがないほど要望はあります。</p>
<p>学童の費用が高すぎる。料金を見直してほしい。施設も小さく古しい、駐車場はでこぼこで整備されていない。小学校が合併する時に学童も変わる？変わるのであれば、学校の敷地内に学童をつくるべきだと思う。</p>
<p>学童の料金が高すぎる（年間で契約していない場合）。夏休みなどの長期休みだけ預けたいが、高すぎて預けられない。</p>

3. 一時預かりについて

【就学前児童】

意見
<p>日曜日、気楽に預けられる託児所が欲しい。</p>
<p>アンケート対象の子どもの下に2人子どもがいるが、一時預かりの受け入れをしてもらえない。保育士の方の人手不足のため受け入れてもらえないので、大変困っています。ずっと1人で子どもと過ごしているので、誰も助けてくれない、どうしようもない気持ちになります。</p>

【小学生児童】

意見
<p>ファミリーサポート制度の導入など、あげればきりがないほど要望はあります。</p>
<p>働き方改革として午前中授業が学期ごとに1週間あることが、共働きをしている親には大変です。なので、放課後の学校内預かりがあると助かります。学童まではいかないにしても、その期間だけでも通常時間に帰宅できると、祖父母にみてもらっているうちの場合ですが、負担も少なくなります。</p>

4. 病児・病後児保育について

【就学前児童】

意見
<p>幼児はすぐ体調を崩しやすく、保育園からの呼び出し電話も多いのでなかなか仕事ができず、病児保育があると助かります。</p>

5. 公共施設など、町の環境について

【就学前児童】

意見
<p>スーパーも増えだし、町外の友人に羨ましがられます。あとは将来、小学校が統合された時に剣北校区はバスがなく2キロちょっとあるので、1年生から真夏の2キロの距離は少し心配だし、車も皆さん飛ばすので心配です。</p>
<p>これから役場とかがきれいになって、今より施設を利用しやすそうで楽しみです。</p>
<p>別に市役所が古くても住民は全然困らない。だから、鞍手町に人が集まらない。魅力があるものをつくるべきだと思う。</p>
<p>道路もデコボコな所が多く、ベビーカーが走行しにくい所が多いです。</p>
<p>歩道の凸凹を直してほしい。</p>
<p>散歩に出かけようにも、歩道が少ないためあまり外に出かけることができません。</p>
<p>南小学校の寿司龍馬側の階段あたりの生い茂った木を整えた方がいい。見た目も良くないけど、落ち葉が濡れ、その上を子ども達が走っているのを見て危ないと思った。食育ではないが、気軽に食べられるご飯屋さんが増えたらいいと思う。</p>
<p>地域全体で空き家が多いこと、死角になる場所や雑草、木が多い場所があるので怖い。妊婦時期や、子どもの緊急時（家族不在時）の交通手段が近くになく不安。</p>
<p>児童公園しかなかった鞍手町に子どもが遊べる場所が増え、図書館も一緒に利用がしやすくなったと感じました。</p>
<p>今でも小学校前の信号を渡っていても、車は赤なのに故意かなと思うくらい飛ばしてくる車はいるし。</p>
<p>プールがない。</p>
<p>くらじの郷は機能していない。びよびよ広場など誰が行くのか？一度、遠賀のみらいテラス（ぐっぴい）を見て勉強した方が良いと感じる。</p>

【小学生児童】

意見
<p>ガードレールが壊れている箇所がいくつもあるので、改善してほしい。用水路の上にグレーチングなどの転落防止策をしてほしい。街灯を増やしてほしい。歩道が狭いし、汚い。車道と歩道の間ガードレールを設けるなど、通学時の安全確保してほしい。また、工業地帯のトラックなど、大型の車両が狭い道路を通ったりするため、歩道の整備を徹底してほしい。</p>
<p>子どものために町営プールをつくれ。くらじの郷をいかせ。</p>
<p>小学校統合における北小の通学に関して、通学路は安全か。</p>
<p>希望としては金額を取ってもいいので、プールなどがあったら子ども達は喜ぶと思います。</p>
<p>スーパーやファミレスなどの施設を増やしてほしい。</p>
<p>歩道も狭く、見通しが悪い所が多い。</p>
<p>小さい子ども連れでも利用しやすい飲食店がもっと増えるといいのではないのでしょうか？（リーズナブルな店、サイゼリア等のファミレスetc…）。お母さん達の息抜きにもなると思います。本屋さんも。</p>
<p>歩道を明るくしてほしい。暗すぎて、中学校からの帰りの19時すぎは、とても暗くて危ないです。</p>
<p>小学校が一貫になった際に、家から学校までが徒歩圏内と言われ、歩道の確保や交通量等を含め、不安しかない。</p>
<p>他の市町村の図書館にはDVD、CDの貸し出しがあるのに鞍手町にはない。他の市町村でそれを借りたいが、広域のため借りられない。税金を払っているのに、鞍手町だけないのはおかしいのではないかな？図書館は他の市町村には常に司書さんがいるのに、鞍手町にはいない。</p>

【小学生児童】

意見
校区内主要道路の交通量が増えています。交差点へのガードレール設置や、住宅街近傍道路への横断歩道設置などを進めて頂きたいです。
アパートが少なく、住宅事情が良くない。大人数の家族が入れる賃貸住宅があると良い。

6. 子どもや家族の遊び場について

【就学前児童】

意見
新しい役場の所に立派な公園ができて嬉しいです。今までは公園に行くのに町外に出かけていたので、凄く便利になりました。公園に時計があったらいいと思います。
役場に、遠賀ミライテラスのような室内で遊べる未就学児の遊び場が欲しい。
子どもが安全に楽しく遊べる場所が欲しい。
公園を増やしてほしい。
安全な公園が欲しい。
市役所を新しくする前に、魅力のある公園をつくってほしい。
子どもが少ないため仕方がないと思いますが、近くの公園の遊具は30年以上前のもので、古く、ベンチも壊れており、安全に安心して遊ばせることができないと感じています。新役場の隣に新しい公園ができたことはとても嬉しかったです。駐車場も広く、行きやすいと感じました。
土地が広いのに公園が少ない。
新しい公園ができて環境も良くなり、嬉しいです。児童公園の草木が多く、遊ばせられない時期もありました。子ども達を安心して遊ばせられる環境にしてもらいたい。室内遊びができる場所が増えると有り難いです。
新庁舎横に新しい公園ができ、とても遊ばせやすくなりました。ぜひ、天候不良の日も利用しやすい室内遊びの場もつくってください。町でつくらなくても、そのような企業を誘致するとか。例えば、武雄や佐世保にあるメリッタキッズなど。武雄を利用したことがありますが、周りは田んぼだらけの中にある施設でしたが、とても充実していてたくさんのお客さんが来ていました。鞍手町は北九州にも福岡にもアクセスしやすい立地であるからこそ、町外からの利用客が見込めるのではないかと思います。
子ども達の姿が外から全く見えない閉鎖的な公園（周りから公園内が見えない）があるので、各所に防犯カメラの設置や周りを囲む草を伐採し、生えないようにコンクリートで固めるなどしてほしい。周りから見えていても、防犯カメラの設置をしてほしい。
天候に関係なく子どもと一緒に遊べる場所や高等学校が近くにないので、将来が不安です。
新しい公園ができ、遊ぶ場所が増えてとても助かっています。ただ、ゴミのポイ捨てが多く、残念です。ゴミ箱の設置や見回り等があると、減るのではないかなと思いました。また、児童館があれば子ども達の遊び場が増え、年齢を問わずいろんなお友達とコミュニケーションが取れていいのではないのかなと思います。
新しい役場前に大きな公園ができ、早速遊びに行きました。児童公園しかなかった鞍手町に子どもが遊べる場所が増え、図書館も一緒に利用がしやすくなったなと感じました。私が住んでいる地区では子どもが遊べる公園がなく、小学生などは住宅街の道路で集まって遊んでいます。いつ事故が起こってもおかしくないと感じています。各地区で、子どもが安心して遊べる公園などの設備を整えてほしいです。
新設された役所横にできた公園のすべり台の方は凄く良いと思ったが、ボルダリング場の芝生の方に小学校高学年の子がたむろしていたり、あの場所でサッカーボールを使って遊んだりしている現場を見て凄く危なさを感じたし、小さい子は近づけたくないなと思いました。ボールを使用しないなど、下の柵の所などに看板が何かあれば注意しやすいのにな、各小学校で公園の使い方などを話し合う場があればなと思いました。
近くに公園がない（砂場がない）。
公園が少ない。新庁舎前の公園も極々普通すぎて、子育てを町が軽視していることをよく表していると思う。日影になる所もなく、あの公園の建設に関わった人は真夏の炎天下にあそこで遊んでみたら、実質的に使えない公園だということがよくわかると思う。立派な新庁舎を建てるお金があるくらいなら、屋内で子どもが過ごせる環境を整えてほしい。
これまで公園がなく、町外の公園に連れて行ったりしていたが、新庁舎の横に公園ができてとても良かった。
整備された公園をもっと増やしてほしい。

【小学生児童】

意見
子どもが安心して遊べる場所（周辺道路の整備含む）の確保など、安心して子育てできる環境イメージを整えてほしいです。
公園の遊具の充実。
放課後に小学生の遊ぶ場所が欲しいです。学区内の公園や児童館等。
子どもの遊び場も少なく、遊具も少ない。鞍手公園はトイレも汚く、遊んでいてもトイレの度に帰って来るなどしている。
遊具の充実した公園もあれば幸いです。
遊び場の充実。
公園も少ない。
公園等の充実。
先日、新町役場横の公園に遊びに行きました。楽しく楽しんでいました。できれば、クライミングの方の目の届くような所にイスを設置してもらいたいです（フェンスの内側等）。あと、小さい子の遊ぶ所に小さなすべり台があると良いのでは？と思いました。子どもはすべり台が好きなので。
公園が少ない、草刈りが遅い。あんなに草を放置した公園は見たことがないです。
放課後や休日など、子どもだけで遊ぶ場所が少ない。
中山方面はどんどん良くなっているが、古月や新延、室木方面は小さい公園もない。もっと子どもが安全、安心に遊べる場所が増えてほしいと思います。
充実した公園を増やしてほしい。新役場の所に公園ができましたが、ボルダリングのような坂面ができましたが、上から見ると落ちたら確実にケガ・死亡事故が起こるのではないかと心配です。早急に対策して頂きたいです。
鞍手町内に子どもが遊べる公園などを充実させてほしい。そうすれば、親同士の交流なども自然に増えるのではないかなと思う。
近くに遊具やボール遊びなどをできる場所がないのが残念。放課後は結局、自宅や友達の家で遊ぶことが多く、身体を動かす機会が少ないので、そういう場所があればいいと思う。

7. 保健・医療について

【就学前児童】

意見
産院でおっぱい相談を利用した時に、「何かあった時にすぐに使えるように、事前に産後ケアに登録をしておけばいいですよ」と教えられて登録したが、月ごとに更新しなければいけないのが面倒すぎる。子どもを連れて書類を書くのは大変。もっと気楽に使えるようにしてほしい。
妊娠した際や健診の際に関わる保健師さん方はとても親身になって話を聞いて下さったり、健診の際には声をかけてくださる保健師さんもいて、こちらの状況等も覚えて下さっており、心強いと感じています。
妊婦時期や、子どもの緊急時（家族不在時）の受け入れ病院等が近くになく不安。
小児を診てくれる医療が少ない。夜間の救急等の小児医療センターみたいなものがあると有り難い。
第一子妊娠中は初めてのことばかりで不安でしたが、産前産後は特に保健師さんが気にかけてくださり、心強かったです。
子ども医療証にはいつも助けて頂いています。ありがとうございます。
小児科が少ない。

【小学生児童】

意見
保健師さんや助産師さんは皆さん気さくに声をかけてくださり、相談というかしこまった会話でなくても、私はとても助けられています。

【小学生児童】

意見
救急でもかかれる小児科、子どもが安心して遊べる場所（周辺道路の整備含む）の確保など、安心して子育てできる環境イメージを整えてほしいです。
小児科クリニックが欲しいです。
未満児の子どもの健診の時間がいつもお昼寝の時と被るので、子どものためを考えてくれるのであれば、午前中にしてもらえると生活リズムが崩れず助かります。何度かアンケートにも書いたのですが、対応が難しいのですね…。何年も変化がないので。前向きに検討頂けると嬉しいです。
くらで病院の小児科の受付時間をあと30分でも延ばしてほしい。16時半受付終了は、働く親には早すぎます。
産婦人科が町内にないため、妊婦さんは住みづらいと思います。唯一の小児科も、救急でもなかなか電話が折り返されず、かなり待たされる。そのため、気になることがあっても行きにくい。いつでも相談できるように、小児科が増えたら嬉しいです。
小児科が1つしかなく、急病時や身体に関して相談したい時にできない。

8. 経済的支援について

【就学前児童】

意見
医療費も補助してもらっているので、町外の友人に羨ましがられます。
医療費が無料なのは大変助かっています。
上の子が小学生に入学したことにより、下の子の保育料が半額から全額に引き上げられ、家計が苦しい。市町村によっては第二子の保育料が半額のままだったりするのを知り、鞍手町も配慮してほしい。3歳以上からは無償化でとても有り難いが、未満児も第二子は半額のままにしてほしい。
周辺市町村のように、第三子からではなく第二子からの保育料無償化を希望。
3人以上の子育て世帯の支援を増やしてほしい。
大阪のように習い事の助成金を出してほしい。そうすれば、いろいろな習い事教室も鞍手に教室を開くと思う。結果、学力向上にもつながると思うし、教育に力を入れている地域だと知られば、子育て世代の移住者も増えると思う。
医療費が完全無料なのが有り難いです。
保育園無料、2人目も無料にしてほしい。
具体的には思いつかないのですが、子育てに対して経済的負担が減るような施策が増えると嬉しいと思います。
保育園料の無償化。
物価も上がり、経済的にも子育てをすることが苦しく感じるがあるので、子育てに関しての経済的負担を軽減してもら（保育園の無償化、オムツ、ミルクの配給など）と、もっと皆が子育てしやすくなると思います。
ひとり親世帯や非課税世帯のみに優遇するだけでなく、どの世帯でも受けられるサービスの拡大に努めてほしい。他の自治体が行っている0歳からの保育料無償化や、子育て世帯への物資提供（オムツやミルク等）があると、子育て世帯の定住促進にもつながるのではと思う。

【小学生児童】

意見
学童の費用が高すぎる。料金を見直してほしい。
医療費がかからないのも続けてほしいです。
インフルエンザワクチンの子どもの支援もなくなりましたし、子育て世帯にもっといろんな面で支援してほしい。子どもが多いと物価高騰で生活がきつい。
鞍手町には、定住促進の取り組みをされていることがきっかけで転入してきました。転入する世帯の方々には子育て世帯が多いと思いますが、それに関わらず、第二子以降の保育料の補助（無償には言いません）が少ないように感じます。
鞍手は子どもの医療費がかからないことが本当に有り難いです。
子どもの医療費無償は凄く助かります。

【小学生児童】

意見
<p>子どもの医療費の控除が手厚いなど、良いことも多い鞍手町なので、もっと充実させてもらうことで子育て世帯を増やす→町の発展につながるのかなと思います。</p>
<p>定住促進制度は、町外からの定住者を呼び込むとてもいい制度だと思います。プラスアルファで子どもの出産祝い金や、毎月、鞍手町特別給付金等の他の市町村にはない制度をつくることでもっと定住者が増えて、将来鞍手町が活気のある、魅力のある町になるのではないかと思います。議員数等を減らして、予算を何とかを捻出することで実現可能ではないでしょうか。</p>
<p>習い事支援費など、家庭の負担になり子どものやりたいを可能にできる支援などをする。</p>

9. 子育て支援全般について

【就学前児童】

意見
<p>現在、子育てをしていない老人が役職をし、子育てについて決めたりしている。現に今子育てをしていないのに、その状況がわかるわけがない。</p>
<p>大きな市町村ではなかなかできない細やかな配慮が、鞍手町の子育て支援にはあると思います。いつもありがとうございます。</p>
<p>若者+子育て世代に魅力的な施策をしないと、鞍手町に未来はないと思う。議会だよりを見ても老人のご機嫌取り的な討論ばかりで、子育てに関してはやってますよというポーズにしに感じられない。限りなく死にゆく町に近いと思う。実質的に使えない子育て支援など無用。やっているフリではなく利用する立場になって考え、中身の伴った支援してほしい。</p>
<p>ひとり親世帯や非課税世帯のみに優遇するだけでなく、どの世帯でも受けられるサービスの拡大に努めてほしい。</p>

【小学生児童】

意見
<p>びよびよ広場の運営日の追加、土日に親がリフレッシュできる託児つきのイベントを開催など、あげればきりが無いほど要望はあります。現在、中央公民館で開催されている催し物にはよく参加させて頂いています。とても素晴らしい取り組みが多いので、ぜひ今後も拡充してほしいです。また、びよびよ広場も未っ子を連れて利用します。保育士さんと会話することは、精神的な支えやりリフレッシュになります。残念なのは、週2日90分ほどしかいらっしやらないことです。他の日は隣の市の支援センターなどへ行ったりします。何事も根底には子どもをみてる人がいない、費用がかかる、だったら自分でやるしかない、または我慢するしかないということがあります。もっと保護者が利用しやすい仕組みが必要です。</p>
<p>鞍手町は子育てしやすいと思います。運動の習い事の種類も豊富です。ただ、送迎のために仕事を早退したり休むことがあるので、行きだけでも何か援助があると助かります。そして、いろんな理由で、習い事をしたくてもできない子がいるのではないかと思います。学校以外のコミュニティをつくるのは大事だと思います。習い事の支援などをしてほしいです。</p>
<p>町内に何ヶ所か塾等の習い事の場所があると思うのですが、行きだけ各場所を周れる巡回バスがあれば便利だなと思います。フルタイム勤務だと塾や習い事の開始時間に間に合わなかったり、ギリギリだったりするので。</p>
<p>子育て世代に魅力的な町にしないと、高齢者ばかりの町になって過疎化が加速すると思います。</p>
<p>小さな頃から慣れ親しんだ鞍手町だからこそ、これからも豊かに続いてほしいなと思うので、子育て環境の整備などをよろしくお願いします。</p>
<p>鞍手町もひとり親への支援はして頂いています。また、家庭の負担になり子どものやりたいを可能にできる支援や、日程調整などをする。いつも鞍手町は、子ども達のためにいろいろありがとうございます。これからもよろしくお願いします！</p>

10. 情報提供について

【就学前児童】

意見
鞍手町の公式LINEで子どもの登録をするところがありますが、公式LINEができてすぐに子どもの登録をしましたが、3番目、4番目の子どもの名前を何度入力してもできません。フリガナを入れる際、カタカナの口を入力するとその文字は使えないと出てきます。こちらの推測ですが、カタカナの口と漢字の口で駄目なのかなあと考えています。その後、期間をあけて半年後にやりましたが、やはりできませんでした。
子育て支援はいろいろ知りたいけど、知らないことが多いのでたくさん告知してほしいです。
情報発信が少ない。くらで病院に小児科が着任していることを最近まで知らなかった。新しい公園が使えることも発信すべきだった。今の時代に広報をメインの情報発信手段にするのは、あまりにも時代遅れ。鞍手町のLINEは何のためにあるの？サルを目撃情報を通知するため？

【小学生児童】

意見
学習をサポートしてくれる所を探したいと思っています。相談場所をお知らせしてくれると助かります。

11. 行政への要望等

【就学前児童】

意見
狭い町なので、個人的なことが漏洩することがあるのでは（役場で手続き中にばったり知り合いに合うなど）と不安になり、諸々のサービスや相談、施設利用への足が遠のきます。予約制、ブースなど個人が守られる、安心して利用できる工夫があると嬉しいです。
以前、福岡市に住んでいた時は、出産後に可燃物のゴミ袋がもらえました（鞍手町の袋は福岡市に比べて高いので、支給されると助かると思います）。動物（特にイノシシ）が多いので、何か対策をお願いします。

【小学生児童】

意見
行政への相談についても、狭い町ですから、個人情報を実際に守れるかどうか非常に大切です。子どもについての相談をしても、子どものプライバシーが守られるか？まず思い浮かびます。皆様の職場環境は不明ですが、書類を出したままのデスクやロックをかけずにパソコンから離れるような初歩的なことがあれば、信頼できません。
決して、周りの子育て世代へ転入を進められるような状況ではないと感じています。消滅可能性都市であることの状態も鑑みてほしい限りです。子ども達にとっては生まれ育つ鞍手町。良くなってほしいと切に願います。その努力は惜しみません。
自然が多いなど良いことも多い鞍手町なので、もっと充実させてもらうことで子育て世帯を増やす→町の発展につながるのかなと思います。
定住促進制度は、町外からの定住者を呼び込むとてもいい制度だと思います。人口が増えると鞍手町の職員の給与も上がり、プラスの循環が生まれ、良い人材の確保にもつながると思います。
これから楽しみ、嬉しいが増える未来が待っていると考える鞍手町に。そうすれば、鞍手町が大好きな子ども達に育ってくれると思います。

12. その他

【就学前児童】

意見
子どもノートは1人目なら重宝するが、2人目以降はいいらない。
夫婦のみで子育てをしている家庭は仕事と子育てで大変で、町内会やボランティア清掃の参加など正直参加するのは難しいが、地域の目が気になる上に、高齢者にそのような理解ができる人間が少ないと思う。

【小学生児童】

意見
このようなアンケートを実施してくださってありがとうございます。
子どもの健全育成のための警察・民間によるパトロール、指導など、安心して子育てできる環境イメージを整えてほしいです。
要望ばかり申し訳ありません。よろしくお願いします。

令和6年度
鞍手町子育てに関するアンケート報告書

令和7年3月発行

発行：鞍手町 健康こども課 子育て支援係
〒807-1392 福岡県鞍手郡鞍手町大字小牧 2080 番地 2
TEL：0949-42-2111
FAX：0949-42-5693